

なる氣候を以て、其稍瘠薄なる土地を以て、而して世界航海業の番附に於いては、實に極めて優等なる位置を占めつゝある次第である。那威の海を隔てゝの隣國に英國あるは、其關係たる、我山陰道より海を隔てゝの隣國に露國あるに比して遙に有利なりと謂うて宜い。

民族

是等北歐の諸國に住する所の民族は、芬蘭に於いて最も著しき除外例を見る、乃ち芬蘭に於いては、歐洲人として例外に屬すべき蒙古民族の一分枝たる、芬蘭人が其土著固有の民族で、而して更に其八分の一に當るだけの瑞典人を含有する。瑞典人は多く都會に住し、芬蘭人は多く田舎に住して、各商人黨と農民黨とを形成す。其他瑞典には瑞典人あり、那威には那威人あり、丁抹には丁抹人あることは言ふを要せぬ。芬蘭の人口三百十萬、瑞典の人口五百十萬、那威の人口二百三十萬、丁抹の人口三百三十萬、是等の列國は實に小國であるが、芬蘭は其昔瑞典の旗風の下に靡き、瑞典の版圖たりしが、一八〇九年に割かれて露西亞に屬し、那威も亦瑞典と聯合國家を形造りつゝあつたのが、千九百五年に分離して獨立國となり、嘗て中世時代を通じては、瑞典、那威及び丁抹の三國は一國であつたのが、丁抹は夙く既に瑞典那

分合變遷

注意すべき事實

威と分れ、乃ち總體の人口を以てしても、僅に千三四百萬を算ふるに過ぎざる、此北方の地域に於いて、實に四個の截然として別異なる社會を數ふる次第である。尤も政治上よりすれば、芬蘭は露西亞の一部となつて居るので、獨立國としては瑞典、那威及び丁抹の三つあるに過ぎぬ。されば人口の増加に於いて、版圖の發展に於いて、殊に軌近韓國、併合樺太及び臺灣の獲得と云ふが如く、著々人口及び版圖の増大を経験しつゝある我帝國の立場から考へると、北歐の四小國の如きは、實に同情すべき地位にあるものと言はねばならぬ。

併しながら讀者諸君よ、茲に最も注意を以て理解されねばならぬ、一の大なる事實がある、北歐の四小國は實に其強さ其大さに於いては、言ふに足らざるものなりと雖も、其國を建つるの目的、社會發達の程度に於いては、實に敬して而して畏るべきものありと言はねばならぬ。北歐の四小國は、其國の小なるだけ、政治上、社會上の理想を實現するに、甚だ都合なるものあるに、や由りけむ、實に其文明の進度に於いては、殆ど中歐、羅巴、南歐、羅巴を壓して、先進國と云はるべき價値の十分なるものあるを認めねばならぬ。此點に於いて北歐の四小國は、實に我々旅行家に

各自の特
色

總體觀

宗教

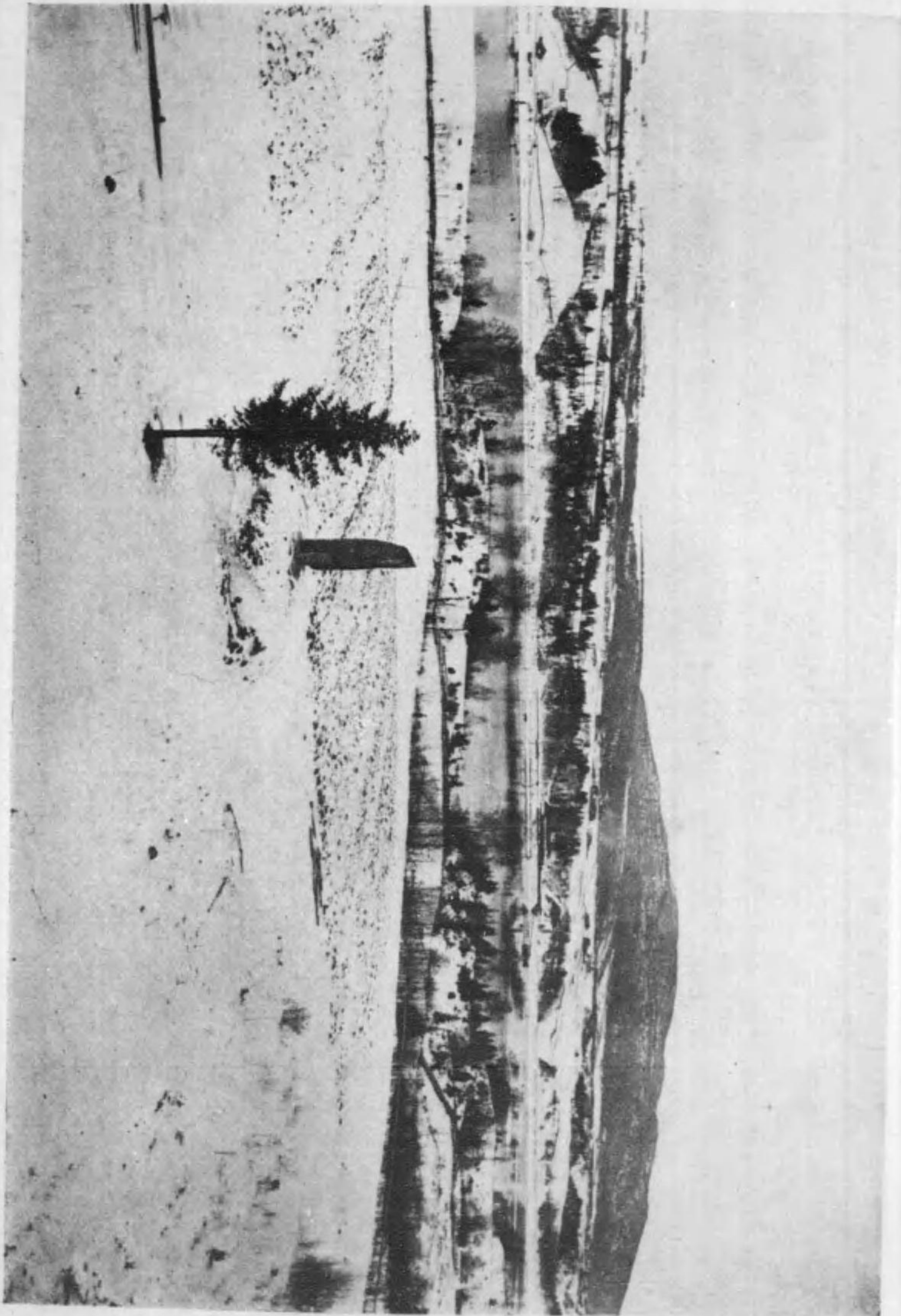
酒精問題

對して非常なる特別なる感興を惹くと同時に、之に關して多少社會上の知識を得ることは、如何にも世の經世に志ある者の大なる參考となることを疑はぬ。

併し是等の四小國は、亦各其特色を有する、而して其有する特色の如何に依りて自ら得失の分あり、自ら社會盛衰の因縁を表するものがある。國は小なりと雖も、斯かる種々の關係に於いて極めて興味ある所の北歐の四小國に就いて、我々は今や多少の觀察を費さうと思ふ。

今北歐の四小國各の社會の觀察に進むに先だちて、總體に就いて一言しやう。人民は、芬蘭が歐洲に在りて例外とすべき蒙古人に屬するに拘らず、其宗教に於いては、北歐の四小國小なりと雖も、然も文明に於ける先進國と殆ど一轍に出でてつゝあることは、些か奇妙なる現象である、即ち是等の四國は殆ど皆極めて進める新教にして、就中普及福音教會の信仰を最も多しとする。

北歐の四小文明國は、天下に率先して酒精問題の解決を實地上に成し遂げつゝある。併しながら此問題解決に於ける成績進歩は、亦四國に於いて多少の差あるを免れぬ、即ち芬蘭は最も完全に成功し、東より西に赴くに隨うて其成功の程度は



那威田舎の冬。

アイツフォールド庶民高等學校の後庭、及其眺望。

碑は此國の詩聖ウエルゲランドの爲に建てたるもの。

東より西

酒精と國勢

ゴエテベルグ式

婦人問題

次第に低くなる、丁抹の如きは、殆ど酒精問題の解決に於いて、特に歐洲諸國に對して誇るべき所あるを見ぬ次第である。芬蘭に於いては、酒精は土曜日の午後よりして月曜日の午前まで全く販賣を禁止せられ、而して國民は、酒精の害より來る所の衛生上及び道德上の弊害からは殆ど免れつゝある次第である。此點は其國勢と對比して、極めて注意を要する一の大なる現象である。

瑞典に於いては、彼の有名なるゴエテベルグ式の節酒制度が行はれて居るが、那威となつては、日曜日に酒精の販賣を嚴禁するくらゐの外、餘り多く言ふべき程のものも有せぬ。乃ち酒精問題の解決は北歐四小國の誇りであるが、國別に觀察すると、東に於いては最も完全であり、西に至るに隨つて其成功は甚だ薄いと云はねばならぬ。

次に北歐の此四つの先進國が誇りとすべきは婦人問題の解決である。此婦人問題の解決に於いて、北歐の四小國は孰れも多少の誇るべき成績を有するが、併しながら矢張其最も多く言ふべき者を有するは、實に東に大にして西に小なるの感なき能はずである。乃ち芬蘭は既に千九百五年以來、國會に於いて婦人代議士を

有して居る、其數千九百五年の選舉に於いて十九人であつたのが千九百九年の選舉には二十三人に増加した。那威に於いては、千九百十年に始めて婦人も國會議員の選舉權を行使した、但し十年間市會の選舉權を有せる婦人に限つた次第である。瑞典及び丁抹に於いては未だ斯の如きまでに達せぬ。乃ち北歐の四文明國は、婦人問題就中婦人參政權問題に於いては、天下に率先して急激なる發展改革を成し遂げたものと云はねばならぬ。

男女共學

教育上に於ける一種の婦人問題の解決、即ち男女共學制も亦北歐の四小國に普通である。瑞典に於いては、往々男子及び女子を同一の中學に入れ、而して男子女子の中等教育に於ける就學比例に基づいて、一學年に於ける學生中、三分の二は男子にして三分の一は女子なるとき、溫和柔順なる男生のみを以て一學級を組織し、其餘男生の三分の一と女生の全體とを以つて更に共學的一學級を組織する、而して此共學級に收容せらるべき男生は、最も其性質の變勇なる野性なる者を選抜する、即ち男女共學に依て、男生の極端なる野性を矯正することを旨としつゝある次第である。斯の如くにして男女共學は、北方諸國に於いては頗る歡迎せらるゝの

解決の效
果如何

状態に於いて在るのである。

凡そ世界の文明國、殊に最も先に進める文明諸國が、甚だ困難を以て目しつゝある所の酒精問題及び婦人問題に於いて、北方の先進四小國や斯の如く多少の然も最も進める解決を下しつゝある、而して此解決が是等の四小國の運命に如何なる利益を持來たしつゝあるかに就いては、我々は最も精密に觀察することを要する。是は是より四小國各の社會の觀察に於いて詳に述べやうと思ふ所であるが、併し是までの説述に依つても、聰敏なる讀者は既に感ぜられたであらう、乃ち是等の文明主義の社會問題解決に於いて、比較的先に進める所の芬蘭が、國家の獨立上、國家の發展上最も悲惨なる状態に於いて在ると云ふことを。丁抹、那威、瑞典、孰れも皆獨立國たるを失はざるに、斯の如く文明主義の社會問題解決に於いて、最も先に進める芬蘭が、既に露西亞の屬國となり加之、其内部の自治と雖も、農に一つの壓抑を蒙り、夕に一つの壓迫を受け、今や殆ど手も出でず、足も出でずと云ふ状態になりつゝあると云ふことは、文明主義の社會問題解決も是に於いて殆ど三文の價値なきものに非ざるや、人をして疑はしむる次第ではなからうか。是等の點が世界殊

に我國の社會改革者に取りて、最も十二分の注意を以て深く、且、奥底まで、の考察を煩さねばならぬ問題であると確信するのである。

二 芬蘭の社會

芬蘭即目

言語

芬蘭に入りて最も先づ目に付くは、土地の瘠薄にして、且つ岩の多きこと、畑の小規模なること、人の顔の平たくして美人の罕なること、電車などの小さきこと、家屋構造の歐羅巴風なること、言葉に重つたる子音所謂デフソング、トリフソング、例へば tr spr の如きが無くして、恰も布哇又は亞米利加印度人又は我國の言葉に似通ひたること、水をヴェシ(匈牙利にてはヴィズ)夜をヨと云ふなど、異人ならぬ心地することの多きこと、是等が先づ普通旅客の此國の境に入つて直に感ずる所の事柄である。此國人の音調は、總て頭にアクセントがある、是は匈牙利も同じ事て、而して我國では京都奈良方面の言葉と能く似て居るのである。或は此音調は、末尾の振はざる人相を現はすものではなからうか、我輩の生國越後でも、就中其中越、南蒲原の

にかい

アアル、
ヌウ、
ヴオ、
オ

風俗

南方地方より、三島郡方面にかけては、二階をにかいと云ふが如く、頭にアクセントのある言葉が多いのである、是等は近くは京都奈良、遠くは匈牙利、芬蘭等に其親類筋を有する次第で、國運の發展上餘り芽出たき言葉とは思はれぬ。
アアル、ヌウ、ヴオの流行の甚しきは驚くばかりである。露國にも多少あるが、此國は行くとして此式ならぬはない、蓋し纖細にして輕浮なる、此式の動もすれば陥る所かゝる者の流行する、此現象よりして、亦以て人の心を見るべきでもあらう。
凡そ失意而して希望なく、是に於いて懶惰にして、慾を縱まゝにし、放逸なる生活を送ることが自然の附き物として出て来る。されば骨牌遊び、飲酒の如きは、此國の人士に頗る普通の事となつて居る。そこで亦節酒制度は大に起らざるを得ぬ、その模範とする所、英米の風を參酌して之に幾分の修正を加へ、凡そ休日の前夜より後の朝まで酒を販賣することを禁ずる。所て労働者は、此法律規則の下に、如何にするかと云ふと、多くは土曜、殊に金曜に賃錢を得て前以て酒を買置くものがあリ、労働者の間に賣買が行はれる。十五歳以下は、アルコール飲料を買ふの使をだにすることが出来ぬこととなつて居る。煙草は幼年者には喫することを禁ぜら

例外

露國對芬

文明と武

れてあるが、買ふことを禁ぜられるまでにはなつて居らぬ。ところで茲に一つの著しき取除は、凡そ飲酒に關する規則は、一等料理屋には適用せぬことゝなつて居る。即ち富貴の者は飲酒自由自在と云ふことになるのである。

斯の如きが此國に於ける一寸目先の變つたる事柄であるが、併し輒近露西亞の此國に對する壓迫は、實に峻烈を極めつゝあることを、最も注意せねばならぬ。斯の如く芬蘭の社會は實に文明の社會である。露西亞の社會は之に較ぶれば寧ろ武暗の社會である。然るに文明は次第々々に其勢を失ひ、武暗は次第々々に其壓力を加へ來ると云ふことは、是は果して常に露西亞は大國にして、芬蘭は小國であり、社會の大小よりのみ來る現象とすべきであらうか、抑々文明と武暗其者の性質から來る事であらうか、即ち文明と云ふものは本來弱きもの、武暗と云ふものは本來強きものとすべき、其根本の性質から來るものと看做すべきであらうか、是は實に社會上の大問題、國家經營上の根本問題として、我々の研究せねばならぬ所である。若しも文明は必然弱く、武暗は必然強きものであるならば、文明と云ふものは世俗の考ふる如く、左程に尊敬せらるべきものでない、と云ふ結論に達せねばならぬ。

露國の壓迫

軍隊の解散

警察

兎に角に芬蘭は、千八百九九年に瑞典の配下たるより轉じて露西亞の配下に歸して以來露西亞が芬蘭の内治には充分の自治を尊重すると云ふ約束であつたにも拘らず、輒近に於いては、即ち此第二十世紀に入りてよりは、極めて急激なる壓迫に加ふるに壓迫を以てしつゝあることは、最も注意すべき事柄である。

此國の軍隊の解散は、實に千九百一年に在る、斯くて、芬蘭人は、全く軍隊及び軍隊教育を有せざる國民となり了つた。乃ち芬蘭に於いて必要なる軍隊は、悉く露西亞が其本國より之を送ることゝなつたので、芬蘭人は、兵役に服すると云ふ人間の高尚なる勇らしき權利を、全然褫奪せられ了つた、次第である。警察は、今は豫後備役なる芬蘭軍人の手の裡に在るけれども、警察官任用法規の根本的改革無き限り、遠からず芬蘭人の豫後備軍人が種切れとなる曉には、自ら露國軍人の掌中に轉け込むの外無い運命である。さて然らむ後此國民行動の自由は、果して充分に保障せられるであらうか、警察權が悉く露西亞人の手に歸したらむ曉に於いて、芬蘭人の一舉一動が、果して何等の不合理なる抑制を蒙ることなしに立ち行くであらうか、固より甚だ心細い次第と云はねばならぬ。

彼果して
幸なるか

奇麗なる
代償

教育上の
効果

シヴァル
化

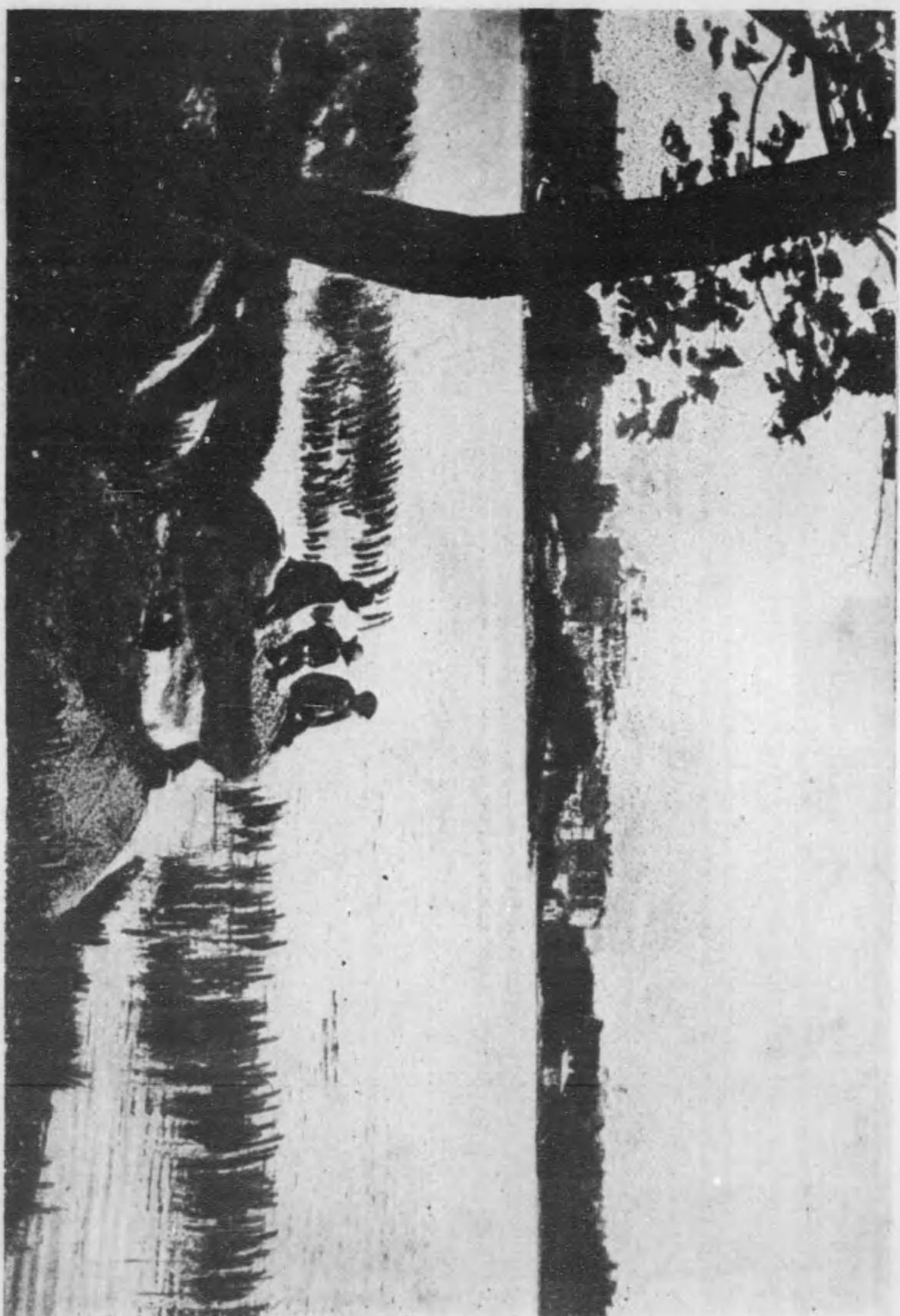
世界列國の大勢

一四

凡そ軍隊を有せざる國の中學生は何時一年志願兵の義務を了へたら宜からうかと云ふ苟も中學生たるものが誰しも胸を傷める所の一大なる難問題を經驗せずには濟む是は一見我國の中學生などからは甚だ羨むべき事であるが如く見ゆるが併し我滿天下の中學生諸君よ此難問題に胸を傷める所の國民此難問題を經驗する所の中學生は實に幸福であるのである。兵役の義務の代償として芬蘭は特に年々一千萬馬(四百萬圓)即ち人口一人に付いて一圓三拾錢餘の兵役税を露國に拂ひつゝあるのである。嗚呼是れ實に自由束縛の費用ではないか。我が自由を束縛する爲めに我れ自ら財囊を開いて錢を出して價を拂うて自由を束縛し貰ひつゝあると云ふ次第ではないか。實に芬蘭の如きは幾重にも露國から恩誼を負ふものと謂ふべきである。

軍隊無き國民の教育上の効果は今日にては經驗日尙淺きことであるけれども其影響の面白からぬものあるべきは芬蘭の人士の衆口皆一致して唱へつゝある所である。文明即ちシヴァリゼエシオンといふ言葉は所謂シヴァル化することを云ふのでシヴァルといふ言葉は先年千九百年に佛國でアンドレエ中將が陸軍大臣と

都首の國蘭芬



シヴァル化の理想

武装解除

教育

體育會あ
るも射的
會なし

なつた折、人氣取りの爲めに、軍人は必ずしも軍服を著すとも宜い、シヴィルで宜いと
いふ布令を出したことに於けるが如く、實にミリテエルに對する言葉である、され
ばシヴィル化が文明ならば、ミリテエル化即ちミリタリゼエションは、之を譯して武暗
と云ふべく、シヴィリゼエションがプラスでミリタリゼエションがマイナスならば、實に
シヴィリゼエションは、デミリタリゼエションと同意義とすべきであらう、デミリタリゼ
エションは即ち武装解除である。武暗にも長所がある、芬蘭の如きは實に文明の極
に達せるものと謂ふべく、其教育は益普及するとも、さて其國運民運は竟に如何に
なり行くてあらうか。教育は如何に盛なりとするも、シヴィリゼエション即ちデミリ
タリゼエション、國民的武装解除、随つて精神的武装解除が行はるゝに於いて、一國の
獨立は果して如何なる状態に瀕するてあらうか、是に依りて見るも、教育は實に大
切であるが、併し教育其者は決して究竟事項ではないのである。

成程此國には、體育會は各自治體に於いて澤山ある、併しながら一の射的會は無
いのである。千九百六年を以て、露國は更に進んで芬蘭に銃砲の輸入を禁じてし
まつたのである。斯くて此國民は、全く腰の物の無い状態となり、此國に派遣せら

社會的去勢

偉人なき國民

國民的自尊の有無

れ駐在する露國軍人のみが、獨り長劍と火器とを擁して、此無腰なる芬蘭人に臨みつゝあるのである。凡そ芬蘭の文明は底止する所なく、結局芬蘭全體を擧げて婦人の群に化し去ることは無いであらうか、芬蘭は實に社會的に去勢せられたものと云はねばならぬ。

凡そ偉人の崇拜せらるゝ無く、殊に國民的、大偉人の萬民に崇拜せらるゝ無き國民は、實に不幸なるものである。芬蘭にはルウネベルグと云ふ國民的詩人があつたけれども、果して右の資格に副ふや否やは尙討究を要する。我輩は注意して此國の大中小の學校を觀察したけれども、獨逸に於けるゴエテ、シルレル、將た亦丁抹に於けるグルントウヒの如く、學校などに此詩人の像の飾られてあるのを見たことは無いのである。

嘗ては長く瑞典の下に在り、今は露西亞の下に在る、此國人の腦髓には全體國民的自尊心が充分に發達して居るや否やは實に覺束ないのである。况や人種的自尊心をや。然らば何を以て此國民は、其將來の運命を開拓すべきであらうか、此國の將來を斷ぜむとするには最も此點を明にせねばならぬ。

ルウネベルグ

村落生活

ヤナカラ村

ルウネベルグは芬蘭の愛國詩人である。其詩は多くまだ讀まないが、音に高く聞えて居る。併し芬蘭の首府ヘルシングフォルスの中央公園とも謂ふべきエスブラナアド公園に於ける此詩人の像が、何等國民より熱烈なる感情の表彰を受けざるは、うたてしともうたてき限りである。其像は、前に幽愁の女あり、柱の冠を捧げて居る、『我等の國』と云ふ題にて詩を刻してあり、右には *Af Finlands Folk* 左には *Stommen Kansu Mamma Tavhulle* 『我國の歌人』背後には 1895 と刻んであるだけである。實に崇拜すべき國民的偉人を有せず、若くは國民的偉人ありと雖も、之を崇拜することを知らず、若くは國民的偉人に、木鐸的勢力無き社會は、其國運の發展の上から見て、呪はれたる社會と云はねばならぬ。

我輩は年の九月二十二日を以て、大佐イエネエイルム君の好意ある案内に依り、此國の内治政府、即ち元老院の内務部の紹介を以て、首府ヘルシングフォルスより北方三十里を隔てたるヤナカラ村を視察した。汽車は二時間半程にして達し、停車場はトゥレンキイ村に在る。斯かる十箇字を以て此自治村ヤナカラを成すのである。自治村の人口七千五百、村費七萬五千馬(即ち我三萬圓)内學校費約四萬五千馬、救貧

市日

院費一萬五千馬、病院費四千馬、右は孰れも概算である。

停車場に着せるとき、恰も年に二度の大市が立つて居るといふので、村の老若男女は其附近なる村驛の辻で雑沓して居る。先づ線路の東なる救貧院に向つて粗末なる馬車を馳せる、村長ナルメラ氏は既に停車場に出迎へて案内した、極めて質素なる姿で、體格は我々同様に稍、胴長で、極めて風采の揚らざる人體である。

救貧院

救貧院は六十人を容る、救貧舎一棟、男房女房あり、一人の主婦之を主宰す、病舎一棟、看護婦一人、醫師は一週二回之を見舞ふ、其一半に労働長が住して居る。凡そ貧者にして壯健なるものは、總て労働に従事せしむる、而して此労働長は其總督である、其給料は牝牛二頭馬二頭、及び年手當五百馬である。精神病院一棟、八人入りて、是も男室女室があり、又特別なる看護婦がある。賣藥及び洗濯浴室一棟、農舎八棟、これは數町歩に亘る地所に散在して、皆赤色の外壁を有する、其外牛乳室一棟、家畜室一棟ある。

村長住宅

是より約二里、鐵道線路の西タリイマ字オキに向ふ、此所に村長の住宅がある。村長が同時に小學校教師兼校長であるのは、面白い。此校は例の四學年校で、第一第二

郵便局

年一室、第三第四年一室の二教室から出來て居る、故にナルメラ氏の外に一人の助教師がある、手工教場の外に講堂がある、是はまた村會議事堂となるのである。村會は一ヶ月一回開會するを定例として居る、又此外に小郵便局がある、右の校長兼村長の細君が其郵便局長である、下役としては一人も無い、大郵便局はトレンキイ停車場に在る。さて固より此建物に村長役場はある、村役場にも下役は一人も無い、唯、收入役だけは別にあつて、その自宅で事務を執つて居る、これは必要に應じて隨意に雇員を使ふ、是には勿論自分が受くる年額六百馬の手當の中から、必要なるだけ支辨する。全體此國の地方制度は、縣チラ即ちラアニイに知事あり、其下に郡キイラクンテに長あり、其下に村ビタヤクウト、之に代官及び村長がある、即ち町村では、官吏たる代官と自治體の首長たる村長とを有する、代官は警察官で、自治體内部の事は、一切村長が之を掌る。さて村の自治機關には三級ある、第一は村公會、第二は村會、第三は村參事會、右の村公會は、凡そ村居住にして十六歳以上の男子は皆其一員で、村會議員を選ぶが其權能である、ヤナカラ村には村會議員が三十人、村參事會員が九人ある、此定員に就いては、人口の多少に依て法律之を定むる。村參事會員は

地方制度

寺院

牧師は神
學士

戸籍役場

病院

醫學士

村會之を選擧する。村會は立法機關にして、村參事會は勿論執行機關である。さて村會は更に議長を選擧する、此議長が即ち村長である。次に村參事會の選擧せる議長は即ち收入役である。村會及び村參事會員は、一會毎に二馬の日當を得、村長手當は年百馬である。凡そ村の事一切は、村參事會之が經營執行に任ずる。

此村の寺院はセントロオレンチウス寺とて、七百年許り古きものである。牧師一人あり、是は大抵手當七八千馬を受く、但し貨物を以て給することを妨げぬ。凡そ、牧師は皆大學卒業の神學士である。牧師は人別帳を掌る、故に戸籍役場は全く寺院に屬する。寺院にては、通例宗教のみならず、各種の講演會を屢開く。

新築の病院は建築費一萬五千馬を費し、中々清淨にして整ひたる體裁である。凡そ斯かる病院では、院長は必ず大學出身の醫學士である、全體此國では、大學出身の醫學士の外醫師は無い。此病院には看護婦一名、補助婦一名、看護婦は其學校卒業の後十四ヶ月間講習し、更に公立病院にて六ヶ月の外科講習を経て、始めて免狀を受くるのである。此病院には婦人及び小兒室一室、男子室一室、診察室一室、院長室一室、看護室一室、浴室一室、厨房一室、是には二人の婦人が従事し、別に賄方は居ら

學校

救貧事業

ぬ階上に四室、其一室に補助婦が従事して居る、又物干場がある、總べて極めて清潔である。病室は總員十四人を容るゝに足ると云ふが、強ひてすれば尙收容し得べく見受けた患者は勿論實費を拂ふ、年額四千馬は此病院の維持の爲に村費を支出する。

學校は各字カキに一校、其體裁は皆右のタリイマ字カキのに準ずる、外にこの村に在る紙製造會社だけは、別に私立の學校を一つ有つて居る。タリイマ小學校には、此國普通教育の鼻祖たるスシグナイウスの半身像、及び愛國詩人スネルマンの畫像を飾つて居る。

此國の自治村は、救貧事業に向つて殆ど全力を用ゐて居る、右の救貧院の外に、貧しき孤兒を里子として預る事業がある、是には村より一ヶ年一人六十馬の嫁育料を支出する、蓋し幾分の勞働が亦費用を補ふ所から、斯く安上りに行くのである、斯くて十五歳に達すれば嫁育料は終るのである。凡そ此國では、乞食は犯罪にして、貧人は必ず町村の救護を要する、町村は救護して、日々勞役に服せしむる、今は日中のこととて、皆畑や林等へ行き、病者、小兒、老人のみが救貧院に残つて居り、院は晝間

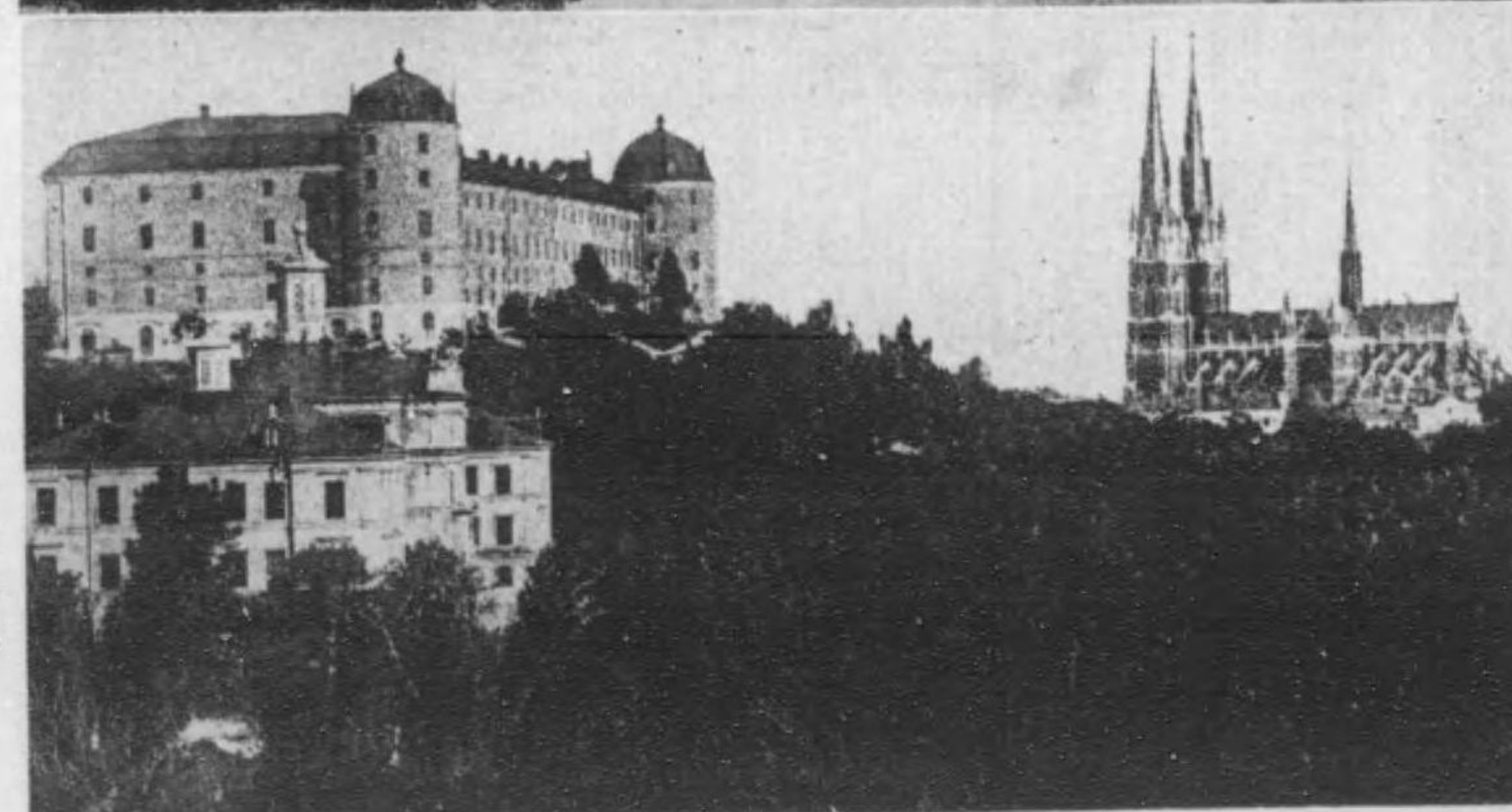
瑞典士産



ストックホルム國會議事堂



スカンゼン公園の内田舎農民住宅の模型



ウプサラ大學及古寺觀

救貧税

世界列國の大勢

寂寞である。救貧税は、十六歳以上は皆人頭四分の三馬を拂ひ更に二百五十馬の収入毎に十分の八馬一口づゝを拂ふ、人頭救貧の口數が二千四百三十八、収入救貧の口數が一萬五千二十四、此總収入が一萬三千八百四十八馬となる、救貧事業の收支は、収入總體一萬八千九百九十二馬に對し、費用一萬五千九百三十三馬で、收支十分に當つて居る。

租税

簡素

電話交換局

租税は國税と市町村税とがあるだけである、國税は収入役之を取扱はぬ。別に青年教育としては無い、斯く總て簡素に事を處し行くこととなつて居る。此日村長夫人の午餐の饗應を受け、助教師が給仕を爲し、別に臨み村長より村治の批評を求められ、組織簡にして成績の擧がるには、感服の外なしと云ふ一句を以て答へて置いた。歸りに禮の心にて若干の金員を救貧院に寄附し、馬車にて松茂れる野に小山に、清冽たる小川の參差たる村路を辿り、四時十一分の汽車にて六時四十分首府ヘルシングフォルスに歸り著いた。尙此村には特設電話もあり、産婆の所が電話交換局となつて居る。學校では丁度授業が無かつた、これは此一週が恰も馬鈴薯収入の産業界休業であつたが爲めてある。村長は三年一期、但し第二期に重

芬蘭村落
生活所感

征服者の
慣用手段

寂しき國
民

ねて選舉されるときは辭退することが出來ぬ第三期以後は隨意である。
 我輩右のヤナカラ村を視察し、芬蘭の村落生活を見て、如何にも其簡朴にして且つ和易なるの甚だ人生の幸福を感ずる次第であつた併しながら茲に記憶すべきは、凡そ國家社會としては之を抑へ、自治村には自由を許す是れ實に古來征服者の慣用手段にして之に依て民心を繋ぎ而して之に依て被征服國の發展反抗を抑ふる。乃ち斯の如くにして僅に自治體内部の生活に於ける平和和樂を享有する所の國民は幸福と謂ふべきか、將た不幸と謂ふべきか、頗る其判斷に苦しむ次第である。

一言にして芬蘭の社會を評せむか、實に芬蘭は寂しき國民であると言ふの外は無し。

三 瑞典の社會

九月二十三日午前海岸砲が皆陸の方面に向うて並べ列ねらるゝ異様なる要塞

にて固めらるゝ、ヘルシングフォルスを出帆し、先年の航程と事變り、濃霧の爲に屢、海上に假泊し、わが瀬戸内海にも比ひつべき一島送り一島迎ふる明媚なる島の海の景色には遠ざかりて、波羅的海芬蘭灣の中央の沖を航行し、一晝夜の航程を二晝夜にして、二十五日午前漸く瑞典、ストックホルムの港に着船した。彼得堡は虎列拉の流行地といふので、滯在中隔日に檢疫所に出掛けるべき義務を負ふ、一九〇一年夏七月會遊の地、此地は夙く秋ながら昔の賑ひを、おぼろげならず謝すべき鳥山の朝に思ひ浮ぶる。文部大臣リンドストロム氏、新聞記者ハアグベルグ君等、人々の親切なるはさすがにうれし。

芬蘭を湖水の國と云はゞ、瑞典をば島の國と謂ふべきである。芬蘭灣を航海し、波羅的海を横ぎつて、船はストックホルムの港に入るに當り、先づ人の目を惹くは、限りなき島々の綠樹、青巖の佳景である。我が八百八島の景色も之には過ぎじと思はるゝ。更に陸に上りて先づ芬蘭と對照せらるゝ著しき事實は、人の美しき事である。子音多き國語ながら、言語も寧ろなだらかに過ぎるやうに聽取らるゝ。料理の纖巧なるは露西亞とは較ぶべくもあらず。田舎人の風俗も、ウブサアラに至る

島の國

の間、衣食住にて察すれば、剛健質樸と云ふ點は如何あらうか。スカンゼン公園に名残を留むるスカンデナヴィアの素朴なる風俗は、北人博物館に於けるグスタフ、ヴァサの面影と、既に過去に馳せ去りつゝあるてはなからうか。此國にもアアル、ヌウゾオ風は吹きすさび、風俗の稍く慧巧となるに迎合しつゝあるやうに見受けらるる。

觀劇

一夕此國のジルゴオルデン座に演劇を見た。其夜の出し物は、軍師の老妻とて、佛蘭西文學からの翻譯物で、いかにも俳優、見物及び舞臺外の社會、さては人間と云ふものをも侮辱せる作物、將た演劇である。凡そ喜劇と云ふものは、其調子の高からざるに於いて、卑猥蕪雜なるに於いて、實に右の如き弊害を免れぬが通例である。乃ち北方の強然も、其中心たるべき天職を有するやに思はるゝ、此瑞典の社會に此興業のあるは、我輩頗る北方の爲めに取らざる所である。

節酒事業

此國にて最も有名なるは、所謂ゴエテベルグ式飲食店を機關とせる其節酒事業である。九月二十八日、市の警視長たりし而して此制度の創立者たるルウペンズ、ゾオン老翁の案内にて、ストックホルム市に於ける此制度を視察した。此式の飲食

北方の強
竟に如何

ゴエオエ
ラベルグ
式

一句(ク)
ロオネ
ハ我五十
八錢弱

店には並食堂、上等食堂、雇員室、店長住室等備はり、何れも至つて清潔である。さて此店に入る客は、一度に強き酒、シナップス(燒酎)二杯と、麥酒三分の一リットル一杯とを限りとする、それも一杯につき必ず肉一皿を食はざるべからずと云ふのが此制度の特色である。肉の代が三十二乃至三十七エエレ(一エエレは一句の百分の二)之には二杯の飲料を附屬することが出来るが、但し代は別である。小皿の肉代は十エエレ、シナップス一杯八エエレ、麥酒は十四エエレである。上等食堂は諸色が稍價高く、稍上等なる客例へば小會社員等までが来る、これは二階の上にあるので、朝刊新聞夕刊新聞、二つを備へてある。別に珈琲室あり、此所ではコニャック等一杯酒は許されてある。

此式の特
權

凡そ右の類のものが市内に第一號より第三十號迄ある、内九つは建物をも此社が有して居る、右の視察せる處は第二十七號である。是は全然私立の社であるが、政府から市内の酒類を販賣する料理屋に、許否の特權を交付せられて居る。ルウベンスゾン翁は齡七十、十五年來此事に執掌し、尊ぶべき相貌の人である。さりながら若しも他國が此制度を摸倣せむとするならば、之をして射利の道具たらし

體操

補助教育

めざるやう、嚴重なる監督が最も必要であらう。今は利潤を以て家屋を新築し、慈善事業にのみ此社は投資すると云ふことである。

瑞典名物の一つたる體操をも見た。如何にも種々の藝當はあるが、訓育と云ふものありや否やは頗る疑はしい。生徒は體操場にて勝手に遊び戯れ、惡る巫山戯をしつゝある。今若し軍隊を最も左の端に置き、江川一座を最も右の端に置くならば、我國の體操は中央よりもいくらか左の方に位すべく、而して瑞典の體操は、殆ど右の端に近き所に在るものである。體操の一科として擊劍もあるが、それが氣を養ひ膽を鍊るに補あるの程度は大抵知れて居るやうに思はれた。要するに瑞典の教育は、智に偏し、形に偏し、體に偏し、精神氣魄と謂ふべきものを見るに甚だ難い様である。其熱心にして周到なる補習教育例へばストックホルムの通俗補習教育協會事業の如き、如何にも感嘆に値するが、結局其養ひ成す所は氣の利きたる公民と云ふに止まるてはなからうか。愛國心ある熱烈なる死をも辭せざるの氣魄ある自己よりも道を愛する底の高尙偉大なる一貫の理想、假令鼻に付くばかりなりとも斯かる類の理想の一貫は、どうも之を瑞典の教育には認め難いやうである。

斯くて結局瑞典は露國に抗敵して哀むべき被治者たるの運命を幾何か免れ得べきは、是れ實に大なる疑問である。

教育畢竟
何の效

千九百五年、此國と那威とは分離した。丁抹と分れ、芬蘭を失ひ、今將た那威と分れて居る、而して其教育は如何と見れば、孰れも教育に於いては最も進める國々である。然らば則ち教育は畢竟小理窟屋のみを養成し、教育の進歩は一層社會遠心力を發達せしむるものでば、しあらうか、此所最も味ふべき問題ではなからうか。

ラウプサア

リンネ

ナシオン

ラウプサアは、北歐羅巴に於ける最も古き大學で、實に第十五世紀の前半に建てられたる、小規模ながら莊嚴なる大學の所在地である。植物分類學に於いて有名なるリンネの墓も、其研究所の遺蹟も、今尙此土地に残つて居る。ストックホルムより汽車北に向つて約一時間半を馳すれば、乃ち人口二萬有餘を有する閑靜なる此小都會に到着する。ウプサアラの郊外には、此國の基督教以前の神、ウオデン等神々の墓がある、この國の名族は皆その孫なりと註せらる。ウプサアラは、北方文化の搖籃で、有名なる學者が出て居る、リンネも此所で研究し、此所で教鞭を執つて居る。ウプサアラ大學の學生は、俱樂部、寧ろ郷友會、即ちナシオンを設けて、且つ切瑳

唇落ちて
齒奥して

秦と羅馬
と露西亞

し且つ行樂す。英國の學生は騎し、漕ぎ、獨逸の學生は飲み、瑞典の學生は歌ふ。ウプサアラ學生團の伯林巴里に修學旅行するや、何れにも其歌唱の巧妙なるを以て歓迎せらるし。嗚呼、ウプサアラ其物も亦ウオデンの墓とならずんば幸なることであらう。

唇落ちて齒奥しと云ふ、瑞典國人の露西亞を怖るゝの甚だしきは驚くばかりである。『我が五百萬を以て争てか彼の一億三千萬に敵すべき、芬蘭人は獨立を失ひ、露國の加ふるが儘の凌辱を受くるを以て、瑞典、那威、丁抹、獨逸等が之を傍觀して居ることを怨みつゝあるが、併しながら我等とて將た如何にかすべき』とは、此國の土人の常に口にする言葉である。

羅馬の東に希臘あり、ペロポネサスの戦争の後、マセドンの興隆あり、チャアルス十二世は、アレキサンドルにも較ぶべき人であらうか。斯くて希臘は文明倍進み、美術彌開け、詩人、美姫踵を接して輩出し、而して武暗なる羅馬人の爲に滅された。古へ秦あり、羅馬あり、今將た露西亞あり、朝に一國を滅ぼし、夕に一都を略し、而して遂に六王終つて四海一なるを致さむと期するものは露西亞ではないか。瑞典の

希臘と瑞
典

史的崇拜
物

興國の教
育亡國の

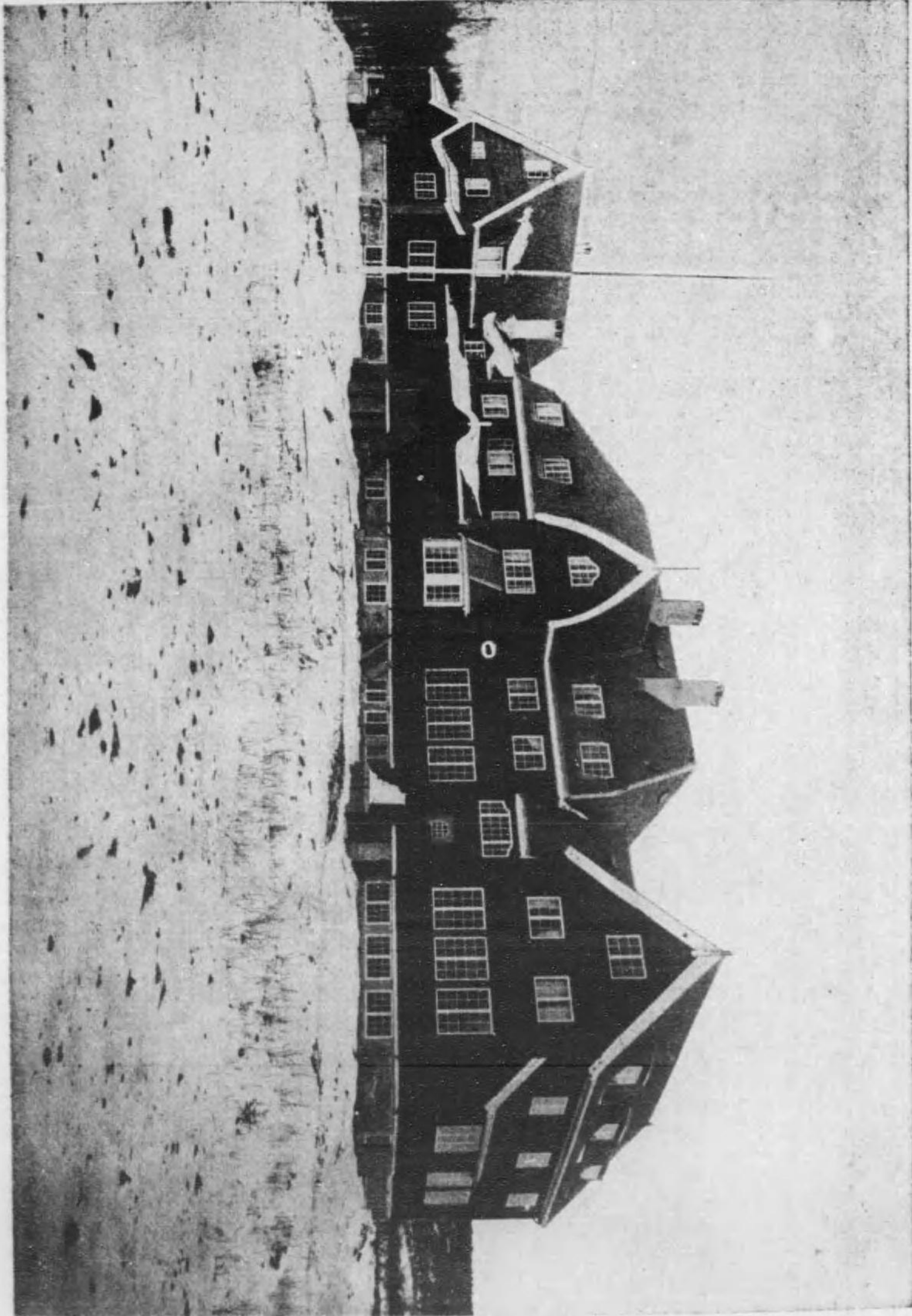
ルミヤン
ツォフと
北人博物
館

世界列國の大勢

教育、瑞典の美人、而して究竟所謂羅馬文明の一大要素を構成する希臘たらざるを得べきであらうか。然り、瑞典の教育は普及して居る、此普及せる教育を以て將た何をか爲さむとする。

瑞典は歴史上の崇拜物に富んで居る。ウイキングの豪傑及び佳人はオペラにも傳はつて居る、瑞典の神話は基督教徒にも尊重せられて居る、グスタフ・ワッサーは現代瑞典の建國者である、其孫グスタフ・アドルフは最も國民の崇拜を受けて居る、チャールズ十二世は武を贖し、遂に版圖の三分の一を失うたが、尙北方の英雄漢たるを失はぬ、リンネは長く學界の明星であり、ウプサラは北方文化の古き淵源である。されば瑞典の教育にして、苟も興國的教育とならうと期するならば、必ずや貴き力ある教材無きを憂へぬては、ないか。然も、叨りに自ら菲薄し、喩を引き、義を失ふ、教育の普及、竟に何の用ぞ。教育には興國の教育があり、又亡國の教育がある。

露西亞莫斯科のルミヤンツォフ博物館は横である、地理的廣大を示すに足つて居る、瑞典ストックホルムの北人博物館は縦である、歴史的廣大を示すに足りつゝ、今一



那威國。

アイツフォルド庶民高等學校。

正面より觀たる圖。

新築の後、校庭等尙未だ

完備せず。

瑞典の猶
太人

と息と云ふ所で缺乏せる物だらけなるは如何なる次第であるか。瑞典は巴里なり、那威は倫敦なり、一は浮華にして一は濁重なりと云ふ、果して然るか。猶太人は此國にて甚だ幸福である。瑞典人と相婚し、相和し、最も仲の善き状態に在る。其名を付けるにも往々瑞典式の名がある、例へば猶太人ながらも、アクセルなどいふ名を屢見受ける。全體瑞典人は猶太人よりも加特力教徒を厭ふことが甚だしい。

四 那威の社會

ストックホルム博覽會最終の日、最終の閉館の鈴聲に驅り出され、ハッセルバックンに吉田書記官と別れの晚餐を共にし、九月二十九日、夕九時發車、夢も穩やかに、翌三十日朝七時那威のクリスチアニアに入る。
露西亞對スカンデナヴィアを以て、羅馬對希臘とするならば、那威は、スバル、タテ、ある。人氣の都、雅なると剛健なると、街衢の秩序あると稍汚穢なると、水の景色と山

那威はス
バルタ

の景色と、瑞典對那威は、雅典對スバルタと殆ど好き類比を備へて居る。而して千九百五年の兩國分離は即ちペロポネサス戦争の類ではないか。儻くは露西亞はアレキサンダアを出せる一のマセドンたるに止まるか。デモステネスがフィリッピクスに於いて、マセドン王フリッブと民主政體との兩立すべからざるを論じたるは、今將た鑿々として軍國主義、武暗主義と、文明主義との對抗に當る次第である。然らば則ち眞の羅馬たり、將た羅馬の後の列蠻たるもの之を安くにか索むべき。世界は漸次革命に向つて歩みを進めつゝある。

那威の特

色
那威に入りて瑞典と異なる所は、一つに餘り清潔ならぬこと、是は學校及び街道に最も能く現れて居る。二つに稍質素なること、是は人々の服装に現れて居る。殊に雨中の婦人が大きな護謨合羽を羽織つて街道を練り歩くなどは此國の特産とも謂ふべきである。三つに露西亞人を怖るゝことを口に出して言ふの稍罕なること。四つに鐵道行政の稍鈍きこと等である。電車は我國では左を行く、併ながら露西亞では右、瑞典では左、而して那威では復た右を行く。例へば瑞典の文部

電車の右

鼻唄

大臣、其他の人士、那威の外務省人事課長、其他我輩を案内し呉れたる人士は、皆對談の際にすら鼻唄を唄ふ、鼻唄の心理などと學者は何か言ふことでもあらう、何れにしる眞摯重厚の風氣には餘りめてたからぬ事である。

官等輕視

官等の極めて軽く視らるゝも亦スカンデナヴィアの一の特色である。那威の文部省の局長は、官等とは唯だ王陛下とは云はずが、宮中に引見する折の席順のことであると言つて居る。是等は平民的進歩の一の映像であるかも知らぬ。

芬蘭も亦

右の鼻唄及び官等の二つの事は、芬蘭に在りても亦同様である。大佐イエエエイエ、イエルム氏の如きは、始終我輩と對談のひま／＼に鼻唄を唄うて居つた。文部長官心得タヴァストヘルナ氏は、亦官等に就いて、此國にも官等はあるが、露國と異なりて一般社會からは何の注意をも惹かぬと言つて居つた。

音樂會

イブセンを出だし、ビュルンソンを出だし、ウエルゲランドを出だせるクリスチニアの國立劇場に、一夕の音樂會を樂んだ。音樂の發達は實に感ずべきものがある。現代の作曲家も、亦頗る多いやうである。例へばクレピスなどは頗る名手である。劇場の建築は餘り廣大でないが、充分に健雅なる趣味を發揮して居る。總て北方の音

中央座

樂には、我國人の趣味に入るべき旋律あるを可なり屢聞いた、幽渺綿々、葦蒿悽愴の幽懷を表すが如きもの間、之あるを聞いた。一夕また此國の中央座と云ふ小劇場にオペラを観た、質素ながら可なり相當の看客が入り、如何にも窮北の生活を寂しからぬものとするだけには充分なる設備である。

日曜

クリスチアニアの日曜に際會した。土曜の午後一時より月曜の午前八時まで麥酒、葡萄酒の外、一切の酒類は販賣を禁ぜられ、一切の店は日曜の終日閉店し、人々は清淨に服裝し、一日を心長閑に暮らす。朝十時より寺院に行き、讚美歌を唱へ、祈禱を爲し、説教を聽聞する。廣大なる寺院に數多き人の水を打ちたる如く靜肅なるは、一週間市中の光景及び生活に對して最も好き對照である。此一日にて、人々はその全週の塵懷を一洗することである。我國の宮寺で、子供や女どもが遊び所と爲し、祭禮若くは講式と云へば必ず喧囂を極むるとは、誠に裏腹なる現象である。午後からは一切の博物館が皆開かれる。公園には、夏ならば音楽あり、四時半からは、嚮に記せる中央劇場にて廉價なる晝芝居あり、散歩の餘之に入つて面白き劇を観る獨身者もあれば、家に歸つて家庭の團樂を樂む夫婦者もあるのである。凡そ

日曜とお正月

日曜は各家の内、外、家にも、市にも、一齊に改まればこそ我がお正月の如き心地はずれ、唯、寺院の内、のみ、日曜ては、其甲斐が甚だ微少なることであらう、新教は、今や社會の宗教と化しつゝある。

天主教寺

セントオラフ寺とて、天主教の小なる寺院にも立入つた例に依つて儀式は繁雜、或は莊嚴である。新教は社會宗教の初歩であるが、宗教らしき宗教は、矢張天主教に存することであらう。されど之には羅馬法王の跋扈、罪科贖免などの伴ふは必然である。既に、新教の寺院が唯一人の牧師から成り立つに引換へて、舊教寺院には僧正、僧都、稚兒等の十餘人なくては儀式が行はれ難いことである。されば宗教らしき宗教を信ぜむとする者は、我國にても、新教よりも、天主教に向ふは、自然である。新教は、更に進めば純然たる社會宗教たるべきものである、我國の新教の盛ならざる、西洋にての盛なる、其關鍵は寺院の莊嚴と否とも在るが、主として社會と一齊に進み、一齊に日曜を氣付けるが如き、社會的なる、否とに在ると知らるゝ。凡そ此國の市人が多く日曜に寺院に行き、而して多く靜肅なるは、未だ浮華の病の膏肓に入らぬものと覺えた。

浮華の病

教育の最も發達の傾向を帯びて居るは、那威を推すべきである。教育の最も平民的傾向を帯ぶるは、最も那威に於いて注意するに足る。國民普通教育は、露西亞に於いては未だ義務的ならず、其程度三年若しくは四年、都會に於いてのみ六年、我國は日露戰役前は四年、戰役後には六年、獨逸は六年若しくは其以上、芬蘭は六年、瑞典は六年而して獨り那威に於いては七年である。中等教育の進化に於いて最終の發達を遂げ、庶民教育も階級教育も何等異なる途を立てざるものは、唯、那威と我國とがあるだけである。

此國の人口は二百三十萬、然も國民にして最も能く教育せられ訓練せらるゝならば、質に於ける文明的戰爭に於いては、優に勝存者たるを期することが出来る。唯、獸力の世界は量の世界である、而して獸力の時代は未だ去らず。基督教文明は半人半獸の文明、蓋し世界進化の中世時代であるからである。此國の前途は未だ遽かに談じ易からずである。

我國では、若しも修學年限短縮の爲にのみは、中等教育進化の大勢に逆行する方が、或は寧ろ利便無しとせぬであらう、只管に短縮を事とせば、或は斯かる策論

も出るかも知れぬ。併しながら進化に逆行し、平民的を轉じて貴族的とすることは、大に考慮を要する問題である。

此國の教育の一つの名物として、クリスチアニアより北方一時間半餘を隔てたるアイゾップ村に庶民高等學校を視察した。十月二日、曉の雨を冒して、七時十分發汽車にて北の方六十八軒を走つた、河畔、丘阜の參差たるに據れる小村落、自治村である、英語若しくは外國語を話す人やあると、橋畔の珈琲店を首め二三の商店らしき家に就いて唐突に問ひ試みたが、行くこと四町許にして始めて乾物屋の主人、その嘗て米國に在つた爲に英語を話すに遭遇し、直に之を煩して庶民高等學校に向つた乾物屋はこゝで辭し、校長ソエレンセン氏の案内にて校舎を見て居る中、電話にて呼べる氏の友人辯護士ブレクタ氏が來りて通譯を爲し呉れた。

學校は去年建てられたるもの、建築の外部は未だ全く工を竣へず、二層及び地下屋根下、總べて四層の建物である、多く木材を用ゐたる、素樸なる建物は如何にも校長の風采と相應して居る。

學級は下級と上級とある、小學教育を終へたる者で、十七歳以上は下級に、十八歳

以上にして下級を終へたる者若くは相當の學力ある者は上級に編入する。學年は孰れも十月十五日より四月十五日に至るの六ヶ月、目下生徒が男女各五十人、内八十五名は寄宿生、但し十月十五日前であるので、今は皆家に歸つて居る。

教室及寄宿室

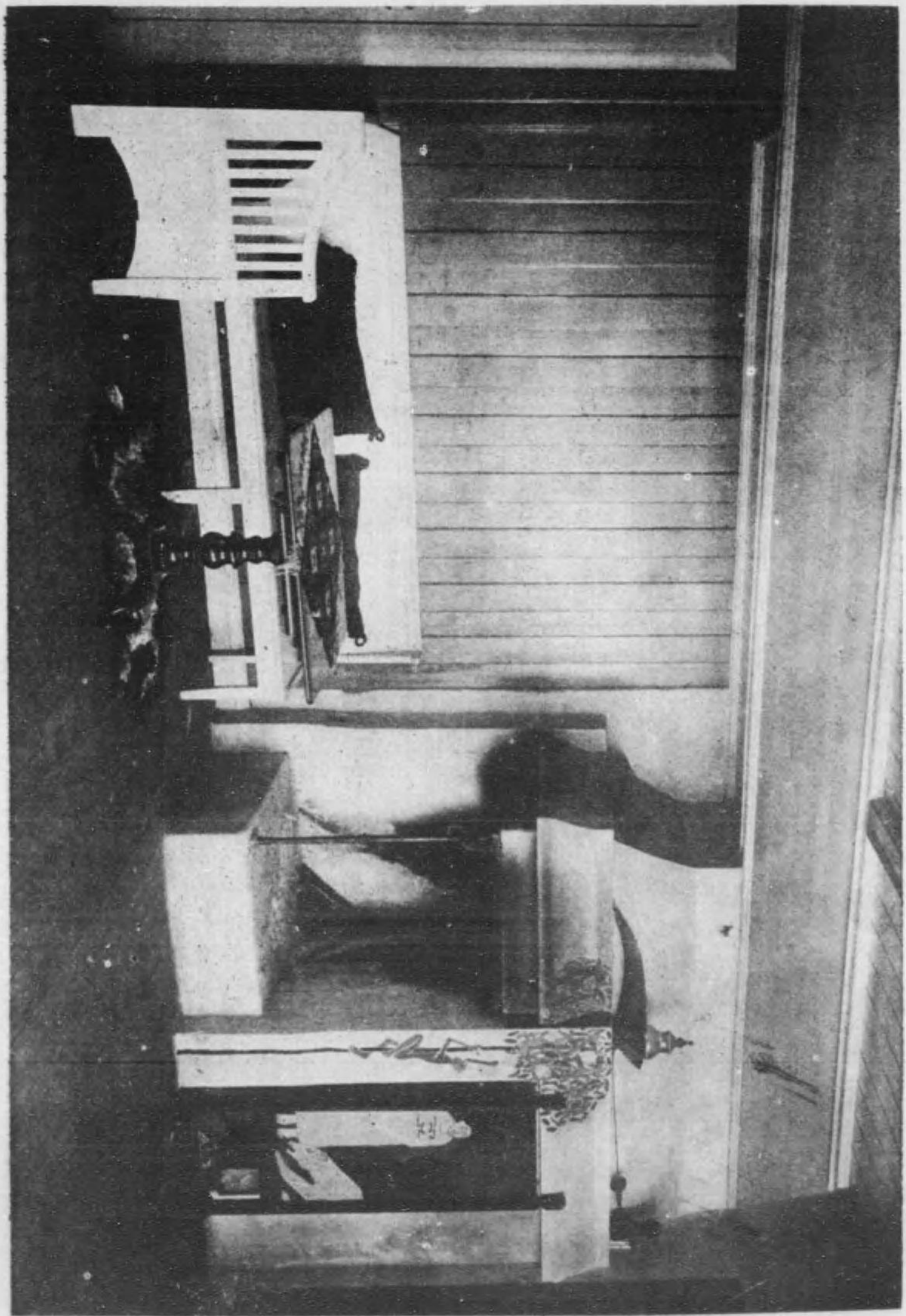
學校の教室は總べて三つ、體操室は一つ、階上及屋根下に男女寄宿室各十餘ある。多く二人乃至五人を一室として居る。素樸ながら、丘陵の上に立ち、山に對し、水を帶び、佳き景色と清らかなる空氣とを與ふるに充分である。男女兩部の間は、硝子の開き戸にて仕切り、夜は鍵で鎖す。一階には食堂、圖書室、及校長の住所がある。此住所は客間、事務室、食堂、及び家族室から出來て居る。外に二階に男教師宿泊室、二女教師宿泊室が三ある。目下七人の教師を有し、内三人は女である。地下室には料理室、料理教室、洗濯室、浴室、散步室等が型の如く備つて居る。

科目

此校の科目は宗教及び教會史、國語、算術、歴史、公民科、地理、理科、技工、唱歌、手工、女子には手藝、體操、上級には更に幾何、測地、植物、農藝、衛生、物理、化學、心性學、自由講演、學校旅行等がある。

經費

費用の支出は總計一萬四千百句、其内譯は左の如くである。



歐北の圍爐裏。

那威國アイツフォルド庶民高等學校。

校長ソエレンセン氏の書齋筆庫數。

右邊なるは此國の田舎に固有なる

大なる暖爐、この爐邊に校長、

夫人、は著者を饗待す。

アイツフォルド 村
アケルルス 郡

國

俸給 郡 國

下級の爲	九〇〇	二七〇〇	一六〇〇
上級の爲	九〇〇	五〇〇〇	二六〇〇
割烹料の爲		三〇〇	三〇〇

學生の費用は、本村より來る者は一學年授業料八匁、其以外は二十匁、寄宿生は一學年食料一切二百匁としてある。

校長は小學校教師から出て、此前五ヶ年此地に住し、衆望の一身に集まれる人、此國の田舎に特有なる素樸にして粗大なる爐の傍らに夫人にも紹介せられ、茶菓の饗應を受けつゝ、教育及び村治に就いて語るを聞いた。

庶民高等學校の生徒は、禁制と云ふ譯ではないが、商家の子弟は入つて來ぬ、殆ど常に農民である。純白の風を維持し、殊に男女共學の家庭的組織を以て、十七八歳の青年に長く忘るべからざる印象を與ふる仕組と覺えた。愛國的郷土的思想は、此寄宿舎の中から養成せらる。寄宿舎は全然一家の如く、毎週數回夜間の會あり、

校長

農民と此

同窓會

又爐に集へる子弟の會あり。女生は學校の賄洗濯一切の事に任ずる。男生は唯、手工の應用として、僅に器具の修繕を爲すのみ。此校出身の同窓會があつて、一年一度、此校で大會を催す、其時は師弟共に皆集まる。

雨の路程

午後一時半、再び雨を冒して辭した。校長は更に三四町もありぬべき林多き學校の敷地に伴ひ、此國の詩聖、ウエルゲランドの建石記念碑ある半成の庭園を過りて道路に至る角際まで送り呉れた。紅葉黄葉、此地は今秋の盛りである。

田舎の感

此國の田舎に遊びて殊に感を深うするは、平和と文明との發達せることである。山清く水静かに、田圃樹林相參差たるの間、三五の村舎、學校、寺院、點々散綴す、アイツ、フルドの如き僻地にして、尙電話の設けあり、共同生活の實は、誠に茲に擧がれりとも謂ふべきである。田舎の就學が都會より多きは、殊に一奇とすべきである。此國にては、就學比例、田舎は九九五、都會は九九一である。此文明、此平和而して、小國、此

文明と平和と小國

三者の並立は何れの時にか期すべき、何れの時まで期すべき。

小國と大國

小國は亡び、大國は残り、大國も亡び、最大一國世界を統一し、さて其内に肉欲競争等の腐敗及び分立の勢を藏し、再び小國の對立を誘ひ致す、古代に於ける羅馬は斯

「クンチア」曲

の如きものであつた、將來に於ける世界の帝國も亦斯の如くならざるを得るであらうか。

遠心力的宗教

クリスチアニアに入るの當夜、その地の樂劇館中央座に遊んだ。曲はクンチア、羅馬皇帝ジュリアンの時代に於ける基督教創始の際の傳説を骨子として作つたものであつた。基督教や、當初は純靈的なりし、第五世紀の頃に及んで、プラトオン哲學と稱する、歐羅巴古代の人情の肉欲的欲を美化せる教學と結婚し、即ち亦肉亦靈的新たなる一の宗教を作出し、是に於いて始めて肉を好むこと道に過ぎ、色を好むこと賢に過ぐる西洋人の頭腦、西洋の地味に其根を蔓らすを得たのである。クンチア曲の一部、無肉的當初の基督教は、遂に肉に抗敵し能はざるを露はす一齣があつたやうである。

基督教は、天に對するの外、此世に對しては、遠心力的宗教である、其教誦然り、其調子然り、而して競争は基督教文明及び該文明の時代の根本義である、正義も之に依り、社會進化も之に依る、苟も競争と云ふものが、斯く根本義たる限り、羅馬興亡の歴史は、恐らくは永久に繰返さるゝことであらう。

嘗て基督出て、世界を一新した。競争的進化は、實に基督教文明の特色である。ヘゲルの所謂自由の開展は、實に此文明の根本的効果基礎的の賜ものである。神武天皇紀元六百六十一年を以て、世界は基督教文明の時代に入った。今や基督教文明基督教時代は、少くとも所謂文明國に於いては、其天職を完うし終了した。文明國實に基督教文明に於ける造詣の最も完全なる諸の國民社會に於いて、彼の所謂社會黨なるもの、即ち此新たなる何物かに向つて、希ひ求め叫び喚ぶ所の懷疑的福音ではないか。コムトの社會學が、權利を捨て、義務を本とし、競争を去りて協同に就く、其人道教は、即ち是れ建設的福音の一面ではないか。

苟くも世界の歴史にして、基督教文明を覆し、基督教時代に終焉を與ふる所の、更に新なる時代に入り、文明の福音を齎らすこと、無き限り、歴史の循環は、極り無いことであらう。神武天皇紀元第何年を以て、世界は基督教文明より一轉して、新文明の時代に入るべき。若しも、此新文明の時代に入るならば、そこで、世界は、始めて眞の意義に於ける近世史を現出するであらう。而して基督教文明は、究竟中世史の眞髓たるを免れぬのである。

我輩は芬蘭より瑞典を経て更に那威に入り、所謂小國の前途を想ひ、個人教育の進歩を以て、天恵の幸福を享有する最後の保障、最大の保障と爲し得るの社會は、競争自由の上に立ち、即ち權利本位の上に立つ所の基督教社會には、到底あり得べからざるを感じ、世界の將來に想ひ到り、基督教の任務が、略ぼ終局に近づきつゝ、ある所以と、豫言者の出て、世界が、古代より中世に移るよりも更に大なる革命を経ざるべからざる所以を警告すべき時機に、今や達しつゝ、あることを胸の奥底に感じた次第である。

那威の國民としての事業の、最も悔るべからざる事は、海上に於いてある。古のウィキングの子孫たる面影は、今に於いても尙ほ現れつゝある。

五 丁抹の社會

十月三日、雨模様の大ぐれ、クリスチャニヤの名残を海山の影に藏して、南下一宵、四日朝七時四十分、スンド海峽を汽車運搬船にてわたる、渡りて著ける處、これぞ悲

曲「ハムレット」にて著名なるヘルシグボルグ、海頭の古城である。約一時間汽車は老樹芳草の郊を過ぎ、やがてここも亦會遊の境、丁抹の首都、北歐最大の都會、コオベン、ハアゲンに入る。名譽領事勳二等ヘンニングセン氏、おのが國人として、はたまれ人として、よろづ心着く。

ウイキングの本地

丁抹はウイキングの本地である。寺あり、遺跡あり、山河江水固より長へに存す、而して庶民高等教育の如き、歴史本義の教育主義亦存す、此國の前途は最も悲觀に値せざるものがある。

天の特産

ウイキングに於いて、那威は寧ろ丁抹と密接に關係して居る。凡そ偉人を有し、歴史主義の教育を有する國は、現在の不利益若くは短所の如何に拘らず、頗る天の特産を受けつゝあるのである。

風俗

十月三日

丁抹の一般風俗は、寧ろ瀟洒にして、那威ほどに堅實ではない。十月三日の日曜日は、收穫の花又は刈上げ花とて、一個十エエレにて、市の慈善團體を佐けて若い男女が花を賣り歩き、一日の賣高四十萬個、價四萬句を此市にて算した、是れ皆ツベルクロジス救恤の慈善に向くるものである。同一の方法にて、五月の某日には、小兒

悠長なる國民

助けの日といふ名で、十萬句を集むることも稀でない。總べて是等は結核病の爲めにする慈善金となるのである。凡そ必ずしも組織的に局せず、科學的なる傍らに幾分の餘裕を存するが、此國の特色のやうに思はれる。

國王の在らせらるゝが爲か、將た其他の理由のためか、此國は幾分官廳が形式的であるやに覺ゆる、北方の小國としては、稍斯く感ぜざるを得ぬ、官吏の數も他に較べては稍、少しく多いやうである、救恤の如きも幾分古風を免れぬ、右の「收穫花」小兒助けの日は、更にも言はず、全力を養老、恤老に注ぎ、勞動紹介を忽せにせる、強制勞動所の特別なる組織を以てする、一利一害はあるが、總べて此國の國情を説明し暗示するものではないか。是等に依りて、一般に與へらるゝ印象は、幾分悠長なる生温るき國民には、非ざるかと云ふことである。

大本山

トオルワルドセン

コオベンハアゲンに於ける丁抹國寺院の大本山は、聖母院とも譯すべきフラウエンキルへである。瀟洒たる大理石像の陳列、ルネイサンス風の建築、外に何等の金壁燦爛も無い、是れ亦此國の民性の歸趣を察すべきである。トオルワルドセンは、一の異材と謂ふべく、別に此國が爾來彫刻を以て世界に轟くにもあらず、最も長

劇場

ずる所は矢張繪畫であると聞けば洵に異様の感じがする。我輩を以て見れば、トルワルドゼンの如きは希臘の名工にも駕し、不朽なるべく思はるる。

十月七日王立劇場を観た。「ドット・オグマルスク」曲の歴史的なりしが嬉しかつた。此劇場は、文部省教育局、専門教育課の所管で、大學と相並ぶ。すべて自由運動を以て、唯、國家を敵とするから面白いと云ふが如き、淺慕なる見解に落ち行いてはならぬ。

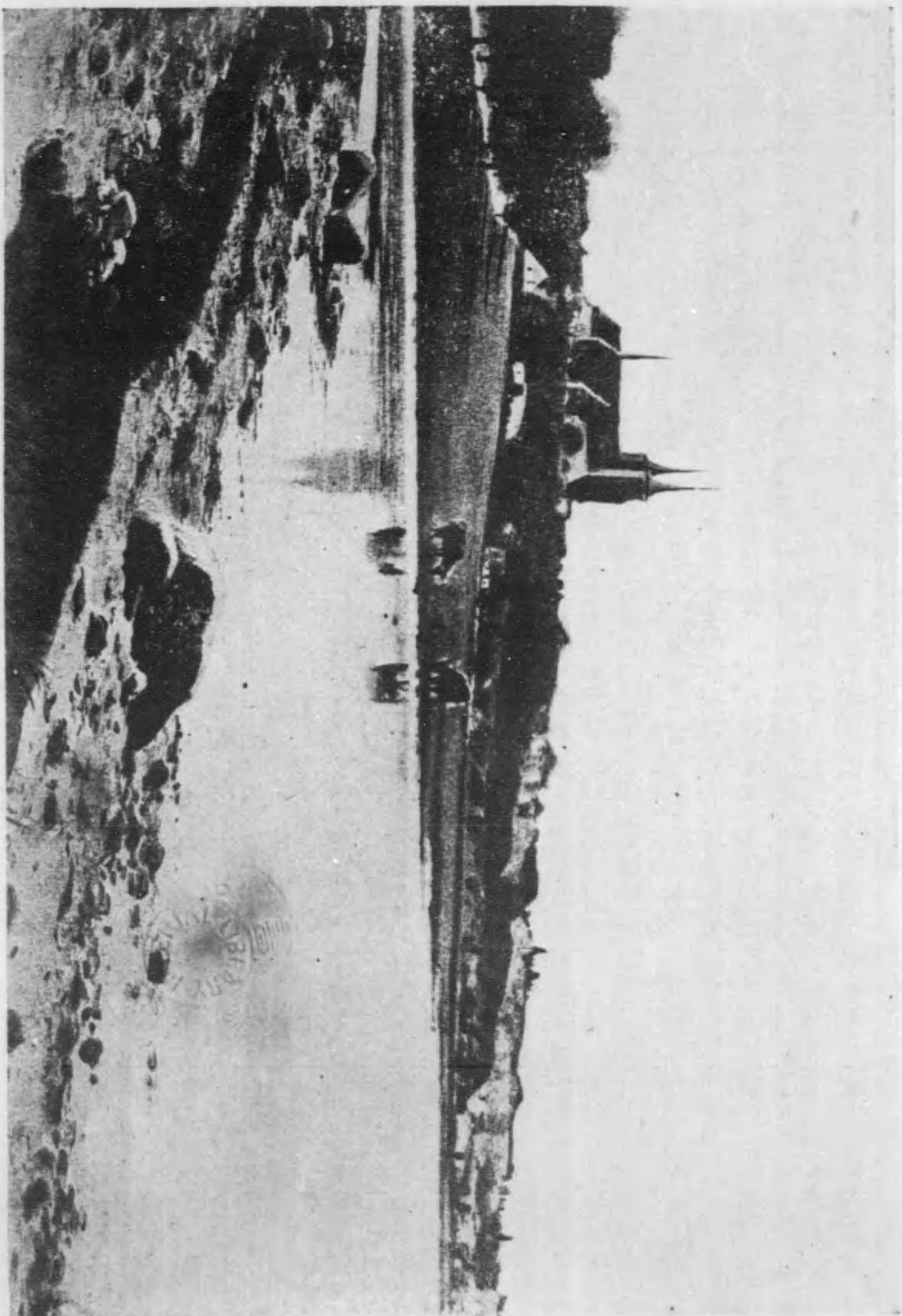
自由運動

此國に於ける宗教及び教育の自由運動は、誠に目覺しいものであつた。此精神、此氣力ありてこそ、列強の間に介在して、其地歩を完うするを得るのである。クリスチャン三世、前王の齒と徳とのみ、が此小國の品位を高からしめたのではない。芬蘭が總べて拘束せられ、繩縛せられ、其教育を以て、其智識を以て、尙實に次第に没落の否運を趁ひつゝあるに較ぶれば、丁抹の國運は、實に地を隔つるの感に堪へぬ。

ドスキル

併し、コオベン・ハアゲンの目さましき元氣の貴きよりも、ロスキルドの寂寥たる舊都、其入江、其隴圃、殊には、其ドオム寺觀、其地下に靜に眠れる墓の主たちこそ、丁抹

列王墳墓の所在、ロスキルド寺觀、及入江の風景。



庶民高等
學校の本
元

校舎

此入江
校長

の國運の爲には、殊に、貴いものである。

庶民高等學校の本元たる丁抹にて、其組織を見むと、十月七日、比ひなき秋晴の好
き日に朝八時二十分の汽車にて、西の方三十軒、此國の都府として三百年前までは
十萬の人口を有せし舊地、今は僅に六千の小都會なる、ロスキルドに、汽車は迢々た
る平蕪隴圃の間を馳せて、九時質素なる停車場に著す。屢、道行く人に問うて漸く
郊外の野菜畑に出て、うねりなせる隴圃の上に屋根をあらはせる、遙かなる赤き家
屋がそれなりと聞き、丘の上の畑を行きて、稍、二十餘町にして街道に出て、更に十町
許りにして名指す所の學校に達した。

校舎は小高き地に建ち、目の下にロスキルドの淡き鹹水の灣、寧ろ入江を眺め、遠
近の眺望、此大うねり成せる、好く開けたる隴圃と、入江の清き水光とは、誠に丁抹に
固有なる景色である。此學校の前の庭も、草花、松の木、若き菊の花など能く育ち、
今を盛りの秋の色を飾つて居る。ロスキルドは今も昔の歴代王室の廟墓あり、此
入江の水こそ、昔は此方の強を誇れるウイキングの軍船の遊弋せし所である。

脇なる小さき出入口にて訪へば、使女が出て來て取次ぐ、やがて導かれて校長ト

大主旨

オマス・ブレッドルフ氏の書齋に入る、窓の外の眺望は得も云はれず、校長は年齢四十五六、諄々として然も熱心に談論す、談話半時、導かれて校舎を見、且つ見且つ語つた、往々ベンチに踞し、興來れば處を擇ばず相語る。

抑、此庶民高等學校の趣旨は、純然たる精神教育に在り。精神的立志、上達の熱意を振作し、人格の養成を期する。活潑々地の志操を養ひ、主として祖國の歴史を教へて、殊に現代の世界に及び、國民的自覺、殊に時間的渾一體としての祖國の一員たる國民的自覺を感奮興起せしめ、むと期する。凡そ人の感奮興起は、必ずしも長時間を要せぬ、一時も亦これを能くすることあり。殊に一切の實用的智識は、殆ど此目的とは没交渉である。芬蘭の庶民高等學校は、殆ど實用的智識に偏し、所謂補習學校式に化し、那威は半實用的であるが、丁抹の庶民高等學校は、純精神的を旨とする、此點が最も注意を要する。

來歴

されば此校の在學期は、十一月より三月に至る五ヶ月を男子部とし、五六七の三ヶ月を女子部とする。抑、此類の學校の創始は、ロツデングに在り、千八百四十四年に在るが、千八百六十四年、シユレスウヰヒ、ホルスタインを獨逸に割讓した後、アスコ

オに移つた、今も全國約八十の庶民高等學校の中、最大のものが此アスコの學校である。此學校では十一月乃至四月の冬季は男子及び女子、五月乃至七月の夏季は女子部を置く。而して庶民高等學校が最も大なる効果を奏したのは、實に五十年來の事である。

ロスキルドの庶民高等學校にては、昨冬季、男生百四十五人、夏季女生百七十人、此十一月三日入學者は百五十人を算せむとする。學生の費用は、食料及び住居の爲に毎月二十二句、五ヶ月總計百十句、授業料は第一月二十三句、次々に十八、十三、八、三句として、通計六十五句、醫藥料二句、總計費用五ヶ月にして百七十七句である、外に書籍等の雜費約十句を要する、之が費用の總べてである。女生は食と住とて二十句、授業料は十七、十二、七句、外、醫藥料等に四句餘、總計百句、其外書籍等の費用約十句あるだけである。

學科には、必ずしも重きを措かぬ、然も能く注意して選定し、殊に方法と時間とに注意して居る、科目は國史を主とし、之に附するに世界歴史を以てし、就中第十九世紀の歐洲史を主とする、其傍らに讀書、書方算術、工藝簿記、體操、唱歌、女子には手藝を

學科

費用

附する。

併しながら此校の最も注意するは時間である。凡そ在校中は終日勤勉に従事せしむるを旨とする。午前七時より始め、夕五時に終る。其間朝食、中食、珈琲あり、五時よりは校長自ら講話を爲し、六時半に至る。さて晚餐となり、約十時半まで自修し、而して寝に就かしむる。就中中食は校長の家族も一處にし、八歳なる長兒も之に列する。更に最も注意するは方法で、其第一義は庶民的にして學究的ならざるに在る。此校に入り來る生徒は、主として中農である。平均地所六七トエネ、約一萬坪を有し、又住家を有して居る。十トエネを有して自作せば、大抵夫婦及び三人の子供を支ふる事が出来る。中農の外、稀には救恤を受くる者も來り、又稀には富める者も來る。夏季には瑞典那威よりも女生徒が入り來る。

初め此校を經始するや、校長は北方ヒルレロエドに教師として、時々此地に講話に來り、其際此地に此校を立つるの希望を述べ、土地の人々の賛成を求めしに、直ちに三萬句の出資を得た。そこで、銀行から四萬句を借り、知人から更に三萬句を借り、十萬句を以て此十三トエネの土地を一坪三拾錢の割にて買ひ、及び一切の建築を

時間

方法

主として
中農

歴史

職員

了し、而して直ちに百五十の生徒を得た。凡そ二年以上二十以上の生徒に授業し成績顯著なるときは、國家は二千五百乃至三千句の國庫補助を支出する。本校は今や恰も二年に達せるを以て、此秋より多分此補助があるであらう。併し國庫補助を受けなければとて何の拘束も無いのである。唯、視察を受けるだけで、若し拘束があるならば直ちに補助金を辭するだけの事である。されば此校は全然校長の私有である。此國此種の學校は皆左様である。

教師は校長の外四人、女教師一人、外に使女六七人、多くは前生徒である。園長又は農長とも謂ふべきが一人、是は書記を兼ねて居る。備農夫一二人、校長夫人は會計及び賄の長である。賄の主婦一人を雇うて置く、是も校の職員である。教師の一人は、校内に二室の一區があつて之に住し、學生監の職務を執る。凡そ此國此種の學校では、校長は、校父、夫人は、校母、たるを以て理想とする。校内の設備は、校長の住室大小六室、厨房、食堂兼音樂室、體操場兼講演集會室、教室一、寄宿室數十、大抵四人一室にて百五十人を容れる。教師室二室一區、浴室等である。建物は學校、鳥小屋、車馬置小屋、供待、是は集會の際村人の爲めにする。校長館、教師館、校長老父母館、各一棟

偉人の像

てある。

食堂にはビゴ・ベエテルゼンの祖國野原、丁抹神話の繪がある。半身像には庶民詩及び小説の作家として著名なるブリッツヘル、十九世紀の初め第一流の小説家アダム・エレンシニエゲル、文豪喜劇作家、史家及び大學教授なりし改革家ルビホオルベルグ、及び庶民高等學校の父と謂ふべきグルントヴィヒを飾つて居る。グルントヴィヒは本來僧侶であつたがまた教育家として立つた、以爲へらく、人格中心に非ざれば中心の感奮を期すべからず、多く讀み外國の事蹟を諳んずるよりも、目を以て目に確に刻むに非ざれば、教育とは云ひ難い、教育家は必ず創造せざるべからず、之が氏の主義である。丁抹の農業の進歩は、實に主として此庶民高等學校に於ける精神教育の餘蔭である。

丁抹出身
米人

教室には寫眞がある、丁抹出身の米人男女百餘人が、此夏一ヶ月半本國に來り、此校に寓して居つた。彼等は尙依然として丁抹魂を存して居る、滯在中大抵毎日二回の講演あり、主として祖國の歴史を講じた。

秋の會

體操場では、兩三日前三日間續いて秋の會を催した、是は一年間の最大講演會で、

丁度農事の終つたときに之を催す。此會は、常に講演のみならず、唱歌遊戯をも爲し、農村の老若男女が集つて面白く遊ぶ會である、集り來る者六七百人、講演者は校長、教師、殊に今回は丁抹出身なる普魯西國會議員某氏が、シレズウィヒに於ける丁抹獨逸兩國民の國民競争に就いて講演し、大に感興を惹起した。其他此種の例會は毎月一回公開し、以て地方啓發の中樞となる。

一切歴史

此校建築の設計は何等の華麗を許さず、全く中世の丁抹ミッドランド式にて、即ち中世の寺の庫裏及び城の式に則つてある、亦其歴史的ならむことを期したのである。教師室の屋根、風見の飾りは、亦ウッチェンの神話に因んで居る。寢室は番號を以て呼ばず、一々丁抹の古き僧院の名を附し、以て地理的歴史的にして居る。斯くて大小の事物悉く皆文化上、歴史上の意味あらしめむことを期して居る。

一種の主

厨房は専ら賄が之に當り、女生は之を課業とはせぬ、蓋し一般的精神的が此校の趣旨で、斯かる實業科の如きは、所謂補習學校にて十分であるからである。

二個の自
由運動

抑、此國にては、近年殊に第十九世紀の下半以來、大なる自由思想の實際的運動が、二個の潮流となつて發現し來つた、一は自由學校運動である、一は自由教會運動で

景光の外内校學等高民庶ドルキスロ國抹丁



自由學校運動

ある。

千八百五十年頃、父兄の間に、形式的なる、心太式なる國家の教育に嫌らず、自由なる教育を子弟に施さむとするの者漸く出て來つた。而して丁抹のソクラテスと仰がる、コルド氏に依りて、始めて自由學校は創立せられた。國家は何の拘束を與へず、唯、學生の程度が、一般庶民學校より低かるべからずと要するのみ、その教科教程の如きは全く自由である。今日では全國に斯かる性質の學校の數三百以上となり、益々増加の趨勢を呈しつゝある。現今の内務大臣クラウス・ビルンゼン氏は、微々たる自由學校の一校長であつたのが、選ばれて代議士となり、遂に此地位に昇つたのである。コルド氏は舊と庶民學校の教師であつたが、生徒をして學校規定の宗教の教義を學ばしむることに我慢出來ず、そこで此自由學校の運動の開祖となつた。凡そ庶民高等學校に來る最も良き生徒は、いつも自由學校出身者である。斯くて自由學校及び庶民高等學校運動は、丁抹の教育をして、大に面目を改めしめた。

宗教上の自由運動

○ 宗教上の自由運動は、千八百六十四年、今我等が對話しつゝある校長の祖父たる

ウィルヘルム・ブレックドルフ氏、僧侶にして且つ代議士なりし此人が、宗教上の意見一般と合はず、爲に僧侶を免職となつた併しながら輿論は、國家は氏の地位を奪ふとが出来ても氏の人を奪ふことが出来ぬと考へた。そこで大問題となり、其結果は推選教區法となつた實に千八百六十八年である、この法に依れば、若干の家族は合意に依りて一人の僧侶を選擧し、これを自分等の教區の僧侶と爲し、以て其下に屬することが出来るのである、勿論此被選者は神學士たることを必要とする。さりながら自由教會運動は尙是たけを以て満足せず、進んで神學士ならざるものをも僧侶として推選するを得るに至らむことを期しつゝある。想ふに此運動は、此國に於いて尙ほ進むことであらう。此校長自身は、丁抹に於ける此新しき推選教區にて洗禮を受けたる第一の赤ん坊であつたのである。

凡そ庶民高等學校の理想とする教育主義は、唯、人に在る、唯、丁抹に在る、其他、何も有せぬ。手工や裁縫は固より主義とする所でない、學科の重なる點は、公民的智識に在る、自治協同及び社會經營の事項に在る。蓋し、凡そ國民的資格は、前代、古代と強き結合を爲すに存する、一時的にして傳統的ならざるは、現代文明、現代教育現

代學問の暗黒面である最も空間的と同時に時間的渾一體に注意せねばならぬ本校の方針主義實に之に存する。

教師

教師は主として大學教育を受け神學士なれど總べて皆右の二大自由運動の人々て宗教や神學の垢離を脱却せる人々である。

食卓

斯くて校長校長夫人八歳七歳五歳三歳半なる四人の子供外一人の子供はなほ嬰孩使の女と食卓を共にし後園に産せる梨果を喫し繪端書を認め我輩の留守小兒に就いて夫人の同情深き談話に接し後園の草花果樹即ち林檎梨莓等の園を見それから老親館を見村端れまで送られて校長と手を分つた。校の所在はヒンメリフとて實はロスキルドとは別の村落であるが便宜の爲めロスキルドを學校の名としてあるらしい。ロスキルドの町には此校を以て名とせるホテルが二ヶ所まであるのを見た。

氣力ある國民

斯の如くにして庶民高等學校は丁抹に發達し純然たる精神的歴史的教育をこの國民に施し千八百六十四年丁普戰爭の結果は面白からぬものがあつたにも拘らず國民の愛國心敵愾心は翕然として茲に起り北方半島及び島嶼彈丸黒子の地に偏安して尙且つ大國と仰顔正視し能く衡を國際の中原に争ひ毫も獨立國としての體面を損せざる氣力ある一個の國民を現出するに至つた。丁抹はその節酒運動に於いて其婦人問題に於いて凡そハイカラ式文明に於ける造詣に於いては固より芬蘭に及ばず乃至瑞典那威にも及ばざる所ありと雖も其愛國教育國史教育國民本位の教育に於いては實に鬱然として盛なる望んで而して敬すべきものありと云はねばならぬ。

六 小國の運命

露國の高壓政策

露西亞は千八百八八年に瑞典より芬蘭を奪ひ今世紀に入りてより芬蘭に對する壓迫益加はり殊に日露戰役の前後芬蘭と人種を同じうする東亞の雄強國民に對する疑惧心は翻つて其配下に在る同人種國民に對する猜疑の干渉となり芬蘭に對する高壓的政策は駭々として進みつゝある次第である。我輩芬蘭を出て未だ一月ならざるに早く左の如き凶報の伯林の新聞に依て傳へらるゝを見た曰は

露國は愈々芬蘭のウイボルグ縣を直接露國の配下に編入するに決せり、芬蘭人民は之に反對するの氣勢あるを以て、近衛コック二個聯隊は聖彼得堡より芬蘭に出陣せり、其中の一隊の長は皇太子なり、露國は如何なる反對を排しても之を決行する意向なり。九月十九日夜九時十分、聖彼得堡發電。

保障なき自由

と。嗚呼、既に軍隊無く、又銃器無く、文治上如何に自由を享有すとも、保障無きの自由は究竟何の自由ぞ。露國は從來懷柔策を以て芬蘭に臨み、其利刃を奪ひ、其甲兵を解き、而して遂に何等の困難なく、其一縣、其一櫛肉を味うた。一櫛、二櫛、而して三櫛、芬蘭の全然露領に歸するは應に遠きに在らざるべし。而して瑞典や如何、而して那威や如何、唇落ちて齒寒し、彼等の間に區々たる感情の爲にする小紛争は、即ち是れ敵國の利てはないか。

露國政策の巧妙

凡そ露西亞の政策の巧妙は、現に露帝のリツヂアに於いて伊太利王と會合しつゝある旅行中に、この事を擧げたるにも見ゆる次第である。芬蘭事務大臣ランゴフ將軍は、この事の爲に職を辭し、而して之を襲ぐものは次官エテルなるべしとも傳へられる、これ將た何等の巧妙政策ぞ。その後十一月二日の柏林新聞に依れば、

猫と鼠

ウイボルグ縣の編入の件は、目下の所中止せらるべしとの露都通信を掲げて居る、果して然るか、然らば是れまた唯一時の形勢たるに過ぎざるのみであらう。十一月十九日の新聞には、露國の壓迫爾來益加はり、遂に芬蘭議會に解散の命が下つた旨が記載してある。然り、露國は一たび試みて手を付け、再び試みて手を付け、恰も猫の鼠に對するが如き態度を以て、終には眞の搏攫吞噬を試むる、これが露國慣用の對外手段である、暫時其銳鋒を收むるは、所謂受験生の場ならしをやつて見たに過ぎぬものと認めねばならぬ。越えて三年、今千九百十二年二月、芬蘭の水先案内及び燈臺は、全然露西亞の海軍省の掌中に取込まれた、是に於いてはスカンデナヴィアは大なる疑懼の念を懷くに至つた。瑞典は明けても暮れても、芬蘭の運命が、早晩己れにまで進み來らざるかを慮れつゝある次第である。既に瑞典にして亦此波に捲き込まるならば、那威は其次の番となるべく、而して丁抹も亦其次の番となる次第で、露西亞は獨り東方に於いて其鷗鼻の慾を縦まゝにしつゝあるのみならず、又西の方歐洲文明諸國をも脅しつゝあるものと云はねばならぬ。

水先案内及び燈臺

教育と國運

さるにても最も我々の注意すべき問題は、教育と國運との問題である。教育が

國運の發展に必要なるは言ふまでもないが、併し教育其者には、亦興國的、教育と亡國的、教育とのあることを審にせねばならぬ。教育方針の詮議は最も重要にして、苟も國運發展に助あるべき教育に非ずんば、國家の教育として力を注ぐの價値無きのみならず、或は寧ろ有害なる教育と云はねばならぬ。芬蘭の教育、瑞典の教育の或る部分の如きは、或は既に實地に教育の無効、若くは弊害を露はしつゝあるてはなからうか。

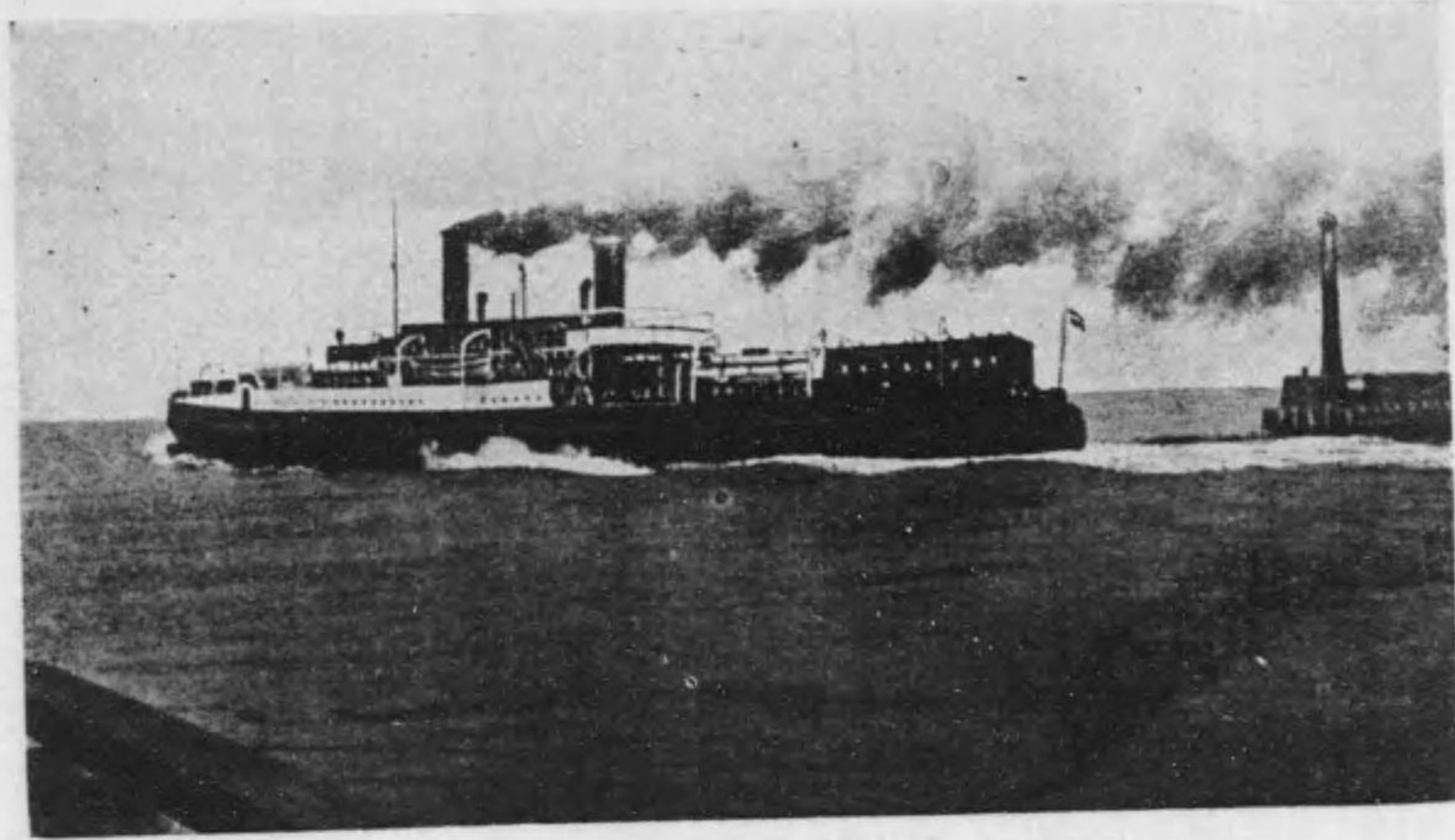
宗教如何

今日の宗教は、或る論者の目には頗る有力に映ずる。若しも宗教は有力なりとするならば、益、其宗教は不都合且不完全なる宗教たる事を證明するものと云はねばならぬ。如何となれば、其有力なる宗教を以てして、而して今日世界の狀態は、内政上、殊に國際上に何の體たらくであるか、春秋戰國の時代、群兒暗中に闘うて、孟子の所謂義戰無きもの、即ち今日の國々の對立する狀態ではないか。若しも宗教にして力ある者であるならば、而して宗教が往々自ら誇説する如くに、善にして且美なる地上に天國を立つべき力あり、資格ある宗教であるならば、何故に文明に於いて遙に後れたる武暗なる露西亞に對して、文明小國は斯の如く不安の念に充たされ

革命を要する世界

つゝあるのであるか。要するに今日歐米の宗教は、論者の考ふるが如き左程有力なるものではなく、勿論論者が考ふるが如く善美なるものでないことは事實の明證する所である。今日歐米に於ける宗教統制は、其力も微なり、其質も甚だ劣惡である。即ち世界は斯かる宗教の統制を以て最早満足すべからざるの機運に際し、而して其極めて明確なる一の證明的事實が、此北歐の四文明小國の運命に於いて顯れつゝある次第である。今日の世界は最早革命を要する世界である。社會統制上在來の宗教以外に、健實善美にして且有力なる統制機關を求むべき機運に迫りつゝあるのである。

へ 逸 獨 り よ 抹 丁



船汽積車汽の間國兩逸獨抹丁



地舊の遊曾年一〇九一、年九九八一に賞、ソラブド場俗水海の初最逸獨

伯林行飲。戲賦似同遊

諸子。己酉臘月初六。

楚臺雲雨感如何。秋月春光夢易過。
 年少人追織柳影。時平吾唱大風歌。
 漢家創業孰黃石。明室傾頽幾覺羅。
 七十二樓饒暖響。不知城外履霜多。

第三 獨逸社會の過去及現在

一 獨逸帝國の由來

曾ては千八百九十八年秋九月十一日を以て、今は千九百九年十月八日を以て、我輩は世界文運の中樞として仰がる、獨逸帝國伯林城に入つた。

會遊第一週伯林の中央、ウンテルデンリッデンの壯麗なる市街を見、向ふに聳ゆる凱旋塔を仰ぎ、古代希臘の華美と重みとを現し、更に近代の大帝國の威嚴を表するに充分なるブランデンブルグ門を望み、更に灰色なせる質素にして然も莊大なる王城を仰ぎては、獨逸帝國の近代に於ける成功を祝し、而して願ひて、我、日東帝國の現在及び將來に、想ひ及び、多少の感なき能はざる次第であつた。

一日或寄宿舎に人を訪うた。其壁間に掲げてある繪畫が鮮からず我輩の心に

伯林會遊
の感懐

一枚二面
の繪畫

印象した。此繪畫は一枚に印刷せる二面の銅版より成り、其一面は英風颯爽たる、丈の餘り高からざる武將の前に窈窕たる佳人が跪いて、何か嘆願しつゝあるが如き姿の畫である。今一面は堂々たる大元帥宰相將軍とも覺しき人々の前に、風丰氣高き併ながら稍、みすぼらしき面色の人が、白旗を立て、降参しつゝある所の圖である。圖の下の文字を見ると、先なるは「一八〇七チルシト」とあり、後なるは「一八七〇セダン」とある。是に於いて、か知る、此一枚の畫は、獨逸國の最大屈辱と最大成功、即ち得失敗の二面を現すべく、美術家が意匠を以て、國民教育上の意味を以て、銅版に印刷せる所の繪畫なることを。

抑、千八百七年のチルシトは、實に獨逸國極北の離宮所在地キエニヒスベルグよりも、更に北の端なる、所謂窮北の地で、此處まで奈波崙の暴威のために、獨逸は追うて追うて追ひ詰められて、極めて屈辱なる講和條約を訂結したのである。この圖の示す所は、時の賢にして徳ある皇后ルイイゼエが、那波崙の前に跪いて、講和條件の輕減を嘆願しつゝある所である。而して後なる千八百七十年のセダンは、言はずと知るき普佛戰爭の劈頭、早く既に佛蘭西が意外なる大敗を取つて、遂に其九月

チルシト

セダン

二日といふに、佛國皇帝三世那波崙は、白旗を立て、獨逸の軍門に降参しつゝある所の圖である。

伯林に遊べる翌年、千八百九十九年の五月、我輩は伯林の西郊シャアロテンブルグに、此國王室の廟所の一つなるマウソレウムを弔うた。千八百九十六年、獨逸帝國建國の二十五年祭があつた其折、紀念アルバムが普く獨逸の大中小學校に配られた、其一番初めの畫が此マウソレウムの景色で、大理石の石棺が飾られ、其上に皇后ルイイゼエの活けるが如き臨終の臥像が飾られ、その側に威風堂々たる王キルヘルムが無量の感慨を以て此母后の墓に詣つてつゝある所の圖である。此圖の表はせる時は、是れ千八百七十年七月十九日、時しも獨逸と佛蘭西との平和の關係は破れ、其翌々七月二十一日を以て、王キルヘルムは六十萬の大軍を率ゐて、佛蘭西の國境を壓すべく、將に征西の師を啓行せむとする、その折の幕詣の圖である。而して彼のチルシトの條約千八百七年以來、獨逸は一世那波崙の暴威に敵すべきあらゆる手段は悉く盡き果て、是に於いて賢徳あるルイイゼエ皇后は、獨逸帝國を興隆せしむるものは、唯、教育、而して唯、教育の外に途無しと確信し、是に於いて専心其二

マウソレウム

教育唯教

王子を教育するを以て、獨逸祖國に對するの任務とせられたのである。時艱に處して甚しく心身を勞せられたる貞婉なる皇后の健康漸く傾き、其後僅に三年にして、母后は重き病の床に臥せられ、千八百十年七月十九日を以て、遂に國運の傾仄に終天の遺憾を存しつゝ、頑是なき二人の王子を残して、遠く天に向つて去られた。その時王子の長は纔に年十三、而して次は纔に十一、此兄皇子は即ち後に普魯西王フリイドリヒキルヘルム第四世と申した方、而して此頑是なき十一になる第二の王子こそは、他日獨逸帝國を一統し、歐羅巴の中原に於いて、隆々たる國勢を以て、覇を稱するの大使命を有せられたる、キルヘルム大帝其人となつた方である。烏兔勿々六十年、當年十一歳の頑是なき王子は、今や鬢髮既に白く、堂々たる雄風は正に中歐帝國の大君主たるべき威風を現はし、乃ち此成敗得失共に獨逸帝國の伸るか反るかの大戦争に啓行すべく、恰も慈愛ある母后の六十年の祥月命日を以て、シャアロテンブルクのマウツレウムに詣てられつゝある。其圖が即ち是れてあるのである。

伯林大學の創立

我輩は此場合に於いて、尙一の記憶すべき事を述べなければならぬ。乃ち御年

獨逸の形勢

三十五歳を以て、教育の志業未だ半ならざるに、頑是なき二人のいとしき皇子を残して、ルイイゼエ皇后が早折されたる其同じ年に於いて、獨逸は國歩艱難の中に一の記念すべき大事業を成した。それは即ち伯林大學の創立である。今日一萬の青年が、青衫白帽、日に天地の眞理を研尋すべく、此堂庭に出入する。此伯林大學は實に此國歩艱難の年の記念として立てられたのである。獨逸の今日あるは、上ルイイゼエ皇后の二王子に對する熱烈なる精神、下獨逸萬民の教育學問に對する斯の如き熱心なる經營實に獨逸の今日あるは何れの關係よりするも、斯教育の賜と云はなければならぬのである。

抑、獨逸は歐洲に於ける中原の地で、其地味は肥沃、其地勢は雄偉、故に、若しも強き國家社會が、此土地に據るならば、其形勢の有利なるは、非常である。併しながら、若しも國家社會が一朝其強さを失ふに於いては、此地は忽ち四隣の爭奪の中心となるのである。今を去ること三百年前、三十年戦争の餘弊として、獨逸は此中原爭奪の中心たる弊害を被ること甚しく、獨逸の社會は全く四分五裂し了つて、而して到る處恰も我國應仁の亂後に於ける京都若くは汎く云へば日本の社會の如くに、其

獨逸の復
活第一期

國語整理

佛蘭西語
の勢力

文明は破れ、其歴史は壞され、而して生民塗炭の苦を受くるの状態に陥つたのである。斯の如き状態の續くこと百有餘年、第十八世紀の終の頃となつて、獨逸復活の第一期の曙光が漸く茲に耀き始むるに至つた、即ちクロプストック、レッシング、バウムガルテン等に依て新たな教育説が行はれ、新たな國語の整理が行はれ、獨逸社會は政治上と云はず、軍事上と云はず、寧ろ先づ無形なる國語の統一、無形なる社會的精神的統一に向つて手を著くるに至つた。從來歐洲の天地は、第十七八世紀を通じて、佛蘭西が最大先進國であり、最大強國であり、最大文明國であつたのである。故に若しも紳士として立たむと欲するものは、佛蘭西語を語り、佛蘭西文學に通じ、佛蘭西の文章を屬することを必要なる資格とし、哲學を論ぜむと欲せば、佛蘭西の哲學を論じ、佛蘭西の文章を以て其哲學説を書かなければならなかつた、現に普魯西の曠世の英主フリードリヒ大王の如きも、所謂サンヌウシイの哲學者として無慮數十卷の著述がある、是は即ち佛蘭西文を以て書いてあるのである。其離宮の名前のサンヌウシイ其者も、亦既に佛蘭西語を以て名づけたる名稱である。獨逸語の如きは全く下様の言葉で、到底之を以て高尚なる哲學、優美なる文學を成す

哲學

音樂

復活第二
期

ホオヘン
ツォル
レン博
物館

べき者でないと思へられて居つたのである。然るに獨逸國語を整理して、獨逸文學の基礎を置いたのが即ち是等の諸豪であつたので、是に於いて相踵いて出て來るが即ちシルレル、ギエテ、ウウランド、キルネル、ハイネ、クライスト等の諸文豪であつたのである。さて哲學の方面に於いても亦カントあり、殊にはヘゲルあり、國民的精神の潑瀾たる顯揚としての哲學説を創設し、既にして音樂の方面には更にワグネル、リストあり、獨逸の音樂は亦茲に成立し、斯の如くにして、獨逸人心の社會的渾一的結合は、茲に成立するに至つた。此基礎が出来て居るその上に立つて、獨逸帝國を建築すべく大なる成功を以て働けるものは、即ち獨逸復活の第二期に於ける皇帝キルヘルム、宰相ビスマルク、及び將軍モルトケの三人豪であつたのである。

羅馬は一日にして成るに非ず。今日獨逸帝國が其赫々たる隆運を以て巍然として中歐に立ちつゝあるは、伯林の中央に於けるモンビジウ城に造り設けられたるホオヘンツォルレン博物館にも知らる。この博物館は第十九世紀末に於いては、餘り秩然たる設備も無かつたが、併し思ひ出の多い物が多く列べられてあつ

た例へば現皇帝キルヘルム二世陛下のカッセルの中學、ボンンの大學の學生で居られた時分の鉛筆畫の如きが陳列されてあつた。併しながらこの度千九百九年に我輩第二の西遊を試みて見ると、是等の類は取除かれて而して此博物館の秩序は大に立ち規模も頗る廣大となつて居る。この博物館はホオヘンツォルレン王室の歴代の君王皇后の遺物を記念的に陳列せる所て、而して其中最も多く、の室を占領せるは實にルイイゼエ皇后陛下である。ルイイゼエ皇后陛下の室が六室、フリイドリヒ大王の室が四室、キルヘルム一世陛下の室が五室と云ふやうに、各室を巡覽すれば此王室と國運との關係が歴々眼底に映じ來るのである。

此所に陳列せられてある品々は、いづれ思ひ出の多からぬはないが、中にもルイイゼエ皇后陛下の封印印章の中に、特に我輩の心を動かした物がある。ルイイゼエ皇后陛下は、年代に依て用ゐられた封印が大分違ふので、約二十個餘、一つの函に陳列されてある。其中千八百七年より晩年に至るまで用ゐられたる印章には、松柏の類の木が中に書かれ、而して「ヒトオオネトレエネン」即ち「涙無きに非ず」と云ふ一句が之に題せられてあるのである。ルイイゼエ皇后陛下が如何に其温かなる

ルイイゼエの封緘

「涙なきに非ず」



那波崙と路易西后。

「まこと、國の將に起らむとする、必ず前詳あり、大王、那波崙の下に居り、積徳累世以て國室を致し、新田氏孤忠を以て時利あらず、その末終に大に起るものを徳川氏となす、普魯西今日の帝業、キルヘルム、ピスマルク、モルトケ、君相の世にも罕なる知遇によるといふも、抑亦一日のわざならめやは。フリードリヒ大王の後、數十年にして那波崙の厄あり、普魯は北歐露西亞境なるチルシットに迫ひつめられ、一八〇七年ルイイゼエ王后の歎願にも拘らず、剛愎なる那波崙は普魯を要して不名譽至極なるチルシットの條約を結ばしむ。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

獨逸帝國
大帝の乳
母車

スベア
ルベル
グ
離宮

胸に於いて、國運の爲に、民族の運命の爲に、極めて痛切なる寂しさ、悲しみ、一種の哀愁を常に備へ居させ給ひしかの事實は、陛下が不斷に用ゐさせ給へる、現在遙けき旅路より旅路に、漂泊ふ日、東帝國の一旅客、我輩の眼の前に陳列せられてある所の、此渺たる、此蕞爾たる一つの封印の印章にても知らるる事なからうか。此一片胸中の哀愁こそは、之が凝り之が固まつて、以て今日獨逸帝國の世界に於ける隆々たる進運を形造つたものであるのである。

キルヘルム第一世陛下が小兒の時分に乘られ、ポツダムポツダムの離宮の後庭を、ルイイゼエ后が自ら押して廻られたる乳母車は、先年千八百九十八九年頃にも、此博物館にあり、今も尙陳列せられつゝあるのである。其製法は恰も我國の舊式人力車の如く、殆ど金屬を用ゐずして、總べて木を以て造りたる極めて質樸なる物である。凡そホオヘンツォルレンホオヘンツォルレン家勤儉尙武の家風は、斯かる些細なる品にも見ゆる次第で、獨逸民族が一般に冗費を戒め、眞に勤儉尙武の美風を今に尙存して居るといふことは、其淵源する所實に深きものと云はねばならぬ事が感ぜらるゝのである。千九百九年時は、十二月一日の北地の寒さは、既に到つて、空どんよりと霜の厚き

獨逸社會の過去及現在

日の午後であつた。我輩は伯林の西南約六里なるポツダムポツダムの舊都に遊び、然も此度は餘り多く人の訪はざるバアベルスベルクバアベルスベルクの離宮を拜觀したのである。伯林なる同じ名の停車場より其地に辿り著きしは二時前十五分、冬枯の野路を馬車ひた走りに走ることや、半時ばかり、冬枯の木立多き丘の上なる舊き離宮の鐵門に著く。馬車を下り、守衛に道を示されて、よく掃除の届ける森の下道を、數町にして城に達す。丘の上、湖水を眼下に望み、グライニツケ橋を隔て、遙にワルゼエの湖をも控へ、景色は中々に面白いが、離宮は甚だ小さい。守衛二人、何れも年老いて居る。御學問所とも謂ふべき一室がある。此所にて大臣等を召して國政を視そなはせりといふ、極めて質素なるが中に、當時の机卓、其他記録の類さへありしまゝに列べてある。軍國の事にいそしむ間にも、おのづから閑適の間に、其神を養ひ營々として形カクシの役とならぬ偉人の面影、今のいそがしき伯林人などの思ひもつかぬ所である。階段を下らむとするをり、守衛は一本のステッキを取り出でて我輩に示した。其ステッキは、恰も小金井の花見見物に於いて、二錢を投じて買ふ所の櫻のステッキに彷彿たるもので、何等金屬の裝飾無く、然も其手の觸るゝ所七八寸は、櫻の艶かなる皮さへ

全く剥げ去つて、白き木地を露はして居る。たゞ是れ一本の粗末なる棒にして、何等ステッキを以て呼ばるべき物ではないのである。老守衛言ふ、是こそはキルヘルム大帝陛下が御自身で御作りになつて、晩年に至るまで、四十九年が間御用ゐになつた所のステッキである。素朴にして自然を愛し、儉薄躬を奉じて萬民を率ゐる、ホオヘンツォルレルンホオヘンツォルレルン家積徳のかたみとも今は見らるべく、限なき感懐の深きを覺えた。宮を出づるとき守衛に問へば、昔は七十、七十一年の役に、この老帝の下に鐵馬の間に馳驅せし、やつがれも亦其一人にて候と答ふ、今帝は、いまだ一度も此宮には住はせられぬよし語りて、無然たるさまである。

熟く獨逸帝國の由來を考へて見ると、一國の興るは實に容易なる事業ではなく、隨つて一國の衰ふるも亦容易なるものでない。功の成る、成るの日に成るに非ず、蓋し必ず由て來る所あり、禍の起る、起るの日に起るに非ず、亦必ず由て來る所ありと蘇老泉の論ぜるは、句は陳腐であるけれども、染々と獨逸帝國に就いて感ぜらるる次第である。獨逸に遊んで、其哲學を學ぶも大なる學問である、其醫學を學ぶも大なる學問である、其他經濟に、政治に、文學に、美術に、何を學ぶも皆是れ一として大

なる學問ならざるはないが、國運の隆替の際に鑑みて、興國の術を學び來るといふことこそは、想ふに大なる學問中の更に最大なるものであらう。我輩前後兩度獨逸に遊んで、最も多くの興懷と感慨と而して會心とを以て、幾分髣髴し得たと思ふ事は、實に此國運興廢の際に於いて存するのである。

二 伯林生活の現在

伯林八年間の變化は實に驚くべきものがある。高架電氣鐵道は當時千八百九十八年乃至九十九年及び千九百一年建築中であつたが今は十分に落成し、地下鐵道は新たに設けられ、極めて簡單なりし馬車と電車とが相混つて居つた所の市街鐵道は電車となつて殆んど百線の交通路を有し、圓太郎馬車は乗合自動車となり、ドロシケ(辻馬車)は自動ドロシケとなり、曾ては日影の長閑なりし伯林南方のヨルク街グナイゼナウ街の邊りは、樹木も繁茂し人の通りも繁くして、リンデンにも劣らぬ所となり、アルヌウボオ式の家屋は多く建築せられ、尨大ながら粗雑に見ゆ

る新築家屋が到る處に頗る多く、諸方殊に南方に向つて家屋は著しく増殖し、新しき町々の建て擴げられたる、いづれ伯林の擴張と繁華とを表せぬはないのである。さて此繁華の裏には何が潜んで居るであらうか。

ウンテルデンリンデンを散歩する。昔は伯林中、比類なき立派な街であつたが、今は見る影もなき態となつて居るのである。唯、歴史的の關係、それにオペラ大樂堂の所在地として、品格こそは今も好き所となり居るが、低き舊式の質素なる三階家屋の所々に混り居れる、餘り東京の新日本橋通りを笑ふことも出來まいと思はるゝほどである。併しながら更に齟つて心を過去に遊ばせて考ふるならば、斯かるウンテルデンリンデンを伯林第一の立派なる街として見ても居り誇つても居つた所の今の獨逸人の父祖父否な兄弟こそは實に々々獨逸帝國の建設者であつたのではなからうか。今のヨルク街を有し、グナイゼナウ街を有する子孫弟妹は能く此創業に對する守成の功を全うすることが出来るだけの抱負と自信とがあるであらうか。

劇場の類の數多くなれるも亦甚だ驚くべきである。寺院も王城前のルストガ

ルテンなるドオムの落成せるに準じて、若干の建立があるやうであるが、日曜なればとて餘り參詣者が無いと注せられて居る、然るに拘らず、毎日の新聞に現はるゝ「今晚の樂み」と題して劇場案内の載つて居る其數は、先年は多くとも十ヶ所内外に過ぎなかつたが、今は稍三十ヶ所を數ふる次第である。加之斯く増殖せる劇場が亦高價となれることは實に驚くべきである。例へばオペラは先年六馬の平土間が今は十一馬、五馬の場所が今では九馬、二馬五十の場所が五馬五十となつて居る。今の伯林の市街には昔、豪奢を誇つた所の王立樂劇館も甚だ狹隘を感ずるに至つた次第である、殊に豫約劇の甚だ多いことは、一層觀劇の費用を高價にする原因であると思ふ。

一馬(馬)は
約我四十
八錢

演劇の變遷

或晩、王立劇場に我輩の太だ好む所の「ジュリアス、シーザル」曲を見、或晩はまた嘗ても屢見た所の「ジイグフリード」曲を見た。さて十年前に見た所と今日見る所と比較して見ると、一般に今は昔に比して調子の輕くなつたといふことが著しき變遷である。「シーザル」曲に於けるブルタス、ジイグフリード曲に於ける其名の英雄いづれ沈鬱蒼勁ならざるべからざるに、最と輕々しく見えたるこそうたてかりける

次第である。獨逸、建國の權化を演ずるに、斯く輕々しき俳優を以てし、又斯く輕々しげに喝采する見物を以てする時代の變遷も是等に見ゆることであらうか。

「ハムレット」

十月三十日、獨逸座に「ハムレット」を見た。先年巴里にサラア、ベルナルのを見一昨年千九百七年本郷座に文藝協會のを見たのに較ぶれば、實に茶番狂言の感じがある。殊にポロニウスの仕草に對して觀客の哄笑するなど、全然悲劇の喜劇化せるを覺えた。我々社會觀察者には、演劇は唯、舞臺に於ける演劇として見らるゝのみならず、舞臺及び見物の感應に於いて、寧ろ一層大なる社會劇が見らるゝ次第である。伯林今日の美術家といひ及び之を享樂する社會といひ、如何許り眞面目なるかの點に疑を容れざらむとするも得がたきやうな感じがする。

女優

獨逸の演劇に従事する女優の數は、現在二萬五千、其中半數以上は年収入千馬以下、二割は千五百馬以下、二割は三千馬以下である、是を以て賣淫の弊風は、盛に行はれる。所て女髮結に拂ふ費用、衣服代——此衣服はオペラ附の女優は少くとも二十襲を要する——、座に拂ふ五分の劔ね錢、是等の費用は皆右の所得の中から辨じなければならぬのである。夏季舞臺の閑なる折は、殊に女優の慘狀を極むる時節



である。且つ興行主は往々女優の弱點に附け込む、されば女優にして、舞臺を以て賣淫の見世と心得る者もある、是等は一興行僅に二十乃至四十馬を以て従事する。此の概むべき實狀に對して、帝國劇場法の制定を國務當局に請願せむとの決議が、十一月十五日、ライプチヒなる女子職業研究大會にて、ドクトル・ブ・イフェルといふ人が提出し、滿場一致にて可決した、文明社會には、文明社會相應の問題ありと知るべきである。

。カフエ

クロオネンカフェと云ふ茶屋に入つて見た。音楽あり、立錫の地も無き有様、給仕は辛うじて一つの椅子に案内した、紳士一人、淑女一人、青年三人と我輩と六人にて一つの小さな圓卓子を圍んで坐したのである。次第に青年と話して行き、恐らくは大學生で在らつしやると言へば、否、私等は今上等中學を卒業して、是から大學に入るべき者共でありますと言ふ、十年前此類の茶屋には、中學生大學生の出入は全く見ざる所であつたのが、千九百九年、キルヘルム二世陛下の盛りの大御代にては、クロオネンカフェの客種の三分通りは、此種の青年とぞなりにける、次第である。

伯林。凱旋塔、ジイゲスゾエレ。

「伯林の中西部に約百町歩の面積を蔽ふ大森林あり、名づけて動物園(チエルガルテン)といふ、老樹様樹として鬱蒼たり、洵に是れヘルマン時代の物、今や此都最大の公園地として滿都の士女常に車馬を此に驅る。その北に王庭(キヨエニスプラッツ)と稱する庭園あり、園の中央、嶄然として高く聳ゆる者を凱旋塔(ジイゲスゾエレ)と爲す、千八百七十一年普佛戰爭凱旋の紀念として、其再翌七十三年の建立に係り、高二百尺、巨大なる圓柱形の塔上、戰勝神キクトリアの金色巨像、爛然たり、榮然たり、雲色近く飛鳥低く、眞に八荒を睥睨するの概ある者。王庭の東部は即ち國會議事堂にして、王庭と動物園公園との間は、坦道一貫、而して其東端を巴朗丁堡門(ブランデンブルゲルトオル)と爲す、門を入れれば即ち伯林の目抜にして、銀座とも趣町とも申すべきウインテルデンリッデン街と相成申候。」

十年前の拙著「西遊漫筆」

葡萄酒の四分の一、十分の一などいふ小盃の小賣が出来、葡萄酒を飲用する風が稍、伯林に擴まり行きつゝある、斯かるは十年前には全く見ざりし所である。麥酒の大杯を傾け、天を仰いで、浩歌するが、此國民的飲料に伴ふ國民性の一つの特色であつたのに、子子として十分一の葡萄酒の小盃を舐めて、美人と喃喃々切々するに至りては、吁世も澆季なりと嘆息する、西洋の天保老人もあるであらう。

北歐の小國にて、ゴエテベルグ式など、アルコール飲料を制限する方策すら行はれ、多くは金曜の夜から火曜の朝まで此類の飲料の販賣をも禁制するに、何故に伯林などこそは率先して、夜十二時以後の市街の照明、電車、汽車、オムニバス、ドロシケ等の運行禁絶を勵行しないのであるか。やらうと思つて出来ぬといふ筈はなからう。全體一週の中、日曜日の安息を勵行するが、必要ならば一日の中、晩くも夜の十二時以後の安息を勵行するが、一層の必要ではないか、神は第七の日に於いて安息日を設けたといふならば、亦夜半より夜の明けまでの間に於いて、安息時を設けて置いた筈である。社交上、風紀上、衛生上、種々の點より攻究すべき新たなる大問題は正に是てなければならぬ。

麥酒十分

カフェ茶屋の前なる大きな電燈は、十時から照す、飲食店は午前二時まで、カフェは午前五時まで、開店することを警察の規則では認め居るのである。伯林のカフェで、麥酒の十分の二といふものが今度新たに出来て居る、さて其コップの形も全く佛蘭西式である。

離宮の寂

十月十四日暮れ行く秋の七つさがりに、シアロテンブルグの離宮及びマウソレウム廟所に詣てた。離宮の質素なる、フリードリヒ王及其后ソフィエ、シアロテの徳が仰がるゝ。ブランデンブルグの太公より、普魯西の王となり、さて大獨逸の皇帝となる、その間儉徳を以て民を率ゐたるは、ホオヘンツォルレン家の家風なりしを、現皇帝に至りては如何あるべき。この離宮、その中なる神拜所之を使用せるは、先帝フリードリヒ陛下の臨終、一八八九年を以て最終とすと、案内の女は語る。さては、現皇帝には、まだ一度も此處に住はせられずと見える。此質素、此閑雅は、到底その衝天の聲と調和すべくは、あるまい。

マウソレウム

マウソレウムは、後苑の茂れる奥に在る。ルイイゼエ后の優しき姿、キルヘルム大帝の雄風、うす暗き復興式の廟所に、いつもながら此國の守護神たるべく拜ま

人口

れた。正面入口の内方に、天使ガブリエルの凜然たる姿は、此國の兵士の模範として警固しつゝあるのか。廟を出でて、宮苑を散歩する、落葉、芝生を彩り、古池の蘆や、枯れ、水禽、飛び、遠き森の邊より、秋の景色は、暮れ初めて、あはれ深きたそがれの霧の裏を、更に宮門の方へとたどつた。

軍樂隊

十月三日乃至九日の一週日、伯林の出生數八百五十五、内私生兒百六十六、死産三十四の内私生兒は九、人口は此期の終にて二百十萬三千四百三を數ふる。是は伯林本部だけで、伯林の郊外地、東京ならば品川、新宿、板橋、王子とも云ふべき所をも算入すれば、既に三百萬を超えて居るのである。軍樂隊の市中練り行きの罕になれる、曾ては毎日必ずこれを見しが、今は滯留一月にしてはじめてこれに接した。その太鼓うちの身振は、宛もカフェのコンツェルトの、ヴィオロン音樂長の、ヴィオロン曲奏の様子あり、輕佻である。

毒殺事件

此頃の新聞で、毒殺事件を報道するの甚だ多いのは、何等の現象であらうか、新聞三面記事の過半は、是れ毒殺事件である、さて羅馬の末年にも、陰に陽に毒を用ひての殺人が甚だ多かつた次第である。

十一月二十七日、今日の新聞に此國の國債が見ゆる。四分利附四億千萬馬、三分五厘利附二十億二千萬、三分利附十七億八千三百五十萬、特別四分利附三億四千萬、總計四十五億五千三百五十萬である。

十一月二十八日、日影寒き冬の日曜日の午後を、ステエグリッとなるフライシャル博士に招かれて、温き饗待に、折柄の霰を冒して博士夫妻とにぎやかなる散歩ながらの談話に、楽しく過した。散歩はてて、珈琲の卓上、日本の菓子のいちじるしく此國のより小ささを語れるに、博士夫人は、此國にても、近頃は、菓子のや、小さくなるを語られた。三男の今年十六歳、正則中學の二級上に在學するが、無邪氣に語を次いで、諸色の高價となれるが爲なりといふ、面白い。併し、菓子の小さくなるには、經濟もある、心理もある、倫理もある、さては、國勢もある。獨逸の菓子は小さくなり、而して皇帝キルヘルム二世は、また一度も、スプスクリブチオン、スフエストなる、上下一處の、舞踏會に臨御なく、キルヘルム大帝以來の儀典は、近年全く廢れたり、と、博士の談話の中に聞いた。

歐洲諸國おしなべて、女の數は男に超過すること一般であるが、此傾向は先年に

比して今は一層甚だしく進みつゝある。伯林などは、十年間に此進み方が殆ど三割を加へて居る。畢竟女子の權利多く、義務少く、男子の義務重く、權利少く、男子よりも女子の生存安樂にして容易なるが爲と知らるゝ。若しも男が女に外套を着せてやる風を改めて女より男に外套を着するの禮とせば、女の超過の數は、女百人中一人位はすぐ減ることであらう。

かくて女の超過は風俗の上に由々しき結果を生ずる。一つには淫蕩の風の増進である、二つには柔弱の風の増進である、三つには男に於ける神經衰弱症の増進である、而して男子の體格の萎縮、女子のひとり貧養飽くなき過健の狀を呈し來ることである。此事は先年巴里にて既に顯著であつたが、今や伯林にても次第に著しくなりつゝある。凡そ女子尊敬の過大なるは國家の衰亡、民族の萎縮を速く所以である。これは抑、何に本づくか、色情美術、色情文學、色情宗教、色情哲學、實にこれらが遠源である。さて更に遠く廻れば、歐西の食物、歐西の氣候にも達せねばならぬ、凡そ寒さの過ぐるは呪ひである、温帯民族は皇天に感謝せねばならぬ。

全體神といふもの、造物者といふものこそ、いぢらしかりけれ、と言ひたい。宇宙

を造りはじめてから、人間を造るに至るまでの苦心慘愴は、詩語粹金とくみうちして詩を作る漢學塾生の推敲そのまゝ、無より有を生ずるに於いて婦人が兒を産むにも優る苦みをなし、幾たびも稿を改め、幾たびも筆を加へ、添刪斧正を事とせるの後なるが面白い。

唯動物について見ても、初め八門の動物を造り、堅甲を外部に造りて得意なりしが、漸くにして遂に骨を内部に有する有脊椎動物とまで漕ぎつけた。さて爬虫を造つて見たが、偉大なる長さ十四間、高さ二間二尺もあるデプロトルス、カルネギエス(カルネギイが獨逸皇帝に贈呈せるもの)伯林高等農學校の列品室にあるに至りて、漸く四足を以て立ち得るものが出来、頭と首とを短くすれば尾がいらぬに氣がつき、さて二肢を羽として空を翔る鳥類を造つて見たが、一方四足を以てする方が、地を離れずして、一層變化ある生活を遂ぐるに都合の好い所から、これをも益發達せしめむと試み、熊に於いて猪首の極に達し、尾も極めて短くして、殆ど直立が出来さうにまで達した所、始めて上肢の物を攫むに適し得るに氣がついた。造物先生も、よい所に氣がつくには、氣運の相當に進める後ならては、能はぬものと見ゆ

る。

是に氣がついて見れば、矢も楯もたまらず、直に四肢のすべてを手にして見たのが猿猴類である。これは造物先生も亦吾々同様、極端に走れる輕率の過失で、猿は物をつかみ、はしこく立まはるのみ、却てどしりと落附くことなく、殊にロコモオンには不便であるので、造物先生もあまりに輕率に極端なりしを悔い、をりから口の方の推敲も熟して、口が小さくなれば頭は眞直になり、頭が直になれば尾なくとも立ち得ることがわかり、此方の推敲圓熟と合體して、茲に始めて、折衷的に、二脚と二手とある人間を造り出した。神は自分に似せて人間を造つたといふが、如何さま哲學者といふ人間、共が唯物論、唯心論など極端から極端に走りて、さて後に折衷論に落ちつくあたりは、正に神さまそっくりの所がある。斯く種々の失策をくりかへして、漸く人間作製の功を全うせるは、造物先生の勞も多しとすべきである。

口の方は、人間にて殆ど完全にいたれるやうだが、營養機關に對する、生殖機關の方は、造物先生もいまだ碌々推敲せぬものと見え、人間も動物や鳥類其他に比べて

殆ど何等の上進を見ぬばかりか、實際生活に於いても不便利尠からぬはどうか。伯林の夜の繁昌、フレイドリヒ街をオラニエンブルグ門からハルレ門まで、榮々として行き且戻る群集のさままことに造物先生の注意の足らざりし證據である。猫は戀する時期に限りあり、鳩は春のみ戀すとか、人は十四五歳、バイロンなどの詩人といふ連中になると八九歳から六十歳にいたる年、百年中戀のしとほしといへば、此點では却て先生の退歩を見るべきやうである。若し人の戀が一定時に限られてあつたら、道徳、立法、皆甚だ好都合に行くであらう。封建の昔は生涯であつた兵役も、今は三年乃至一年にして了るが、人間の色、役も三年乃至一年、男は二十五歳前後、女は二十歳前後、産蔭の事もあるから男の三倍位の時と限られて居るなら、男の兵色二役との釣合もよく、誠に社會生活も簡易とならう。或は人間も卵生で、人工解化でも適用が出来たら、女子の色役年限は更に大に短縮が出来やう。所て一方、本々人間社會生活の可なり古いところは、家の社會から始まつて居るので、斯く戀が短期となると、社會生活起らず、社會生活起らずんば道徳、智識、學術、文明、一切人間の萬物に靈長たる所以のものも起り得ぬであらうといふので、有限

有限色役



獨逸、普魯西王國。

傷心の路易西后及其二王子。

晩年健康すぐれ給はず、ポツダム離宮の
後苑に逍遙せらるゝの圖なり。

「一八〇七年ルイゼニ王后の歌頌にも拘らず、剛愎なる那波崙は普魯西を
して不名譽至極なるテルシットの條約を結ばしむ。王后婦徳君徳と共に
高く、勤儉尙武にして民と親しみ、ホオヘンツォルレルン家固有の美風
を發揮して、盛徳逸事いひつくしがたかるを、時利あらず、國勢盛まり、
今は如何ともすべからず、されば唯一の希望と光明とは偏に二王子の教
育に繫るを確信して、熱心にいそしみたまひしが、天壽さへ長からず、
一八一〇年七月十九日をもて、遂に永遠の眠に就かせたまひぬ、御年僅に
三十五と聞えし。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

神の日進
月歩

色役案は造物先生も流石に實行に躊躇したと見え、さてこそ人間どもは今日の體
たらくである。西洋の紳士が用事の爲の旅行にまて、用事には無關係なる細君を
同道し、社交がいつも男女兩本位なるなど、皆造物先生が人の戀を常住にせるの過
失、有限色役案の難點排除に工夫の足らざりし所から來る現象である。船饅頭、夜
鷹地獄、デルネットウム、プロスチト、チオンの必要等はこれと同一なる原因から來
る所の兄弟的現象である。

色だけでもかく不充分多きを人間のあらゆる性質形態については、更に如何に
推蔽の餘地の多かるべき事であらう。所で神は自分の形を手本として人間を造
つたといふ以上、神はこれ以上のものを造り得ぬのか、氣の毒なる次第である。併
しながら過去の形跡から察すると、神そのものが日進月歩すること、動物造出に於
ける推蔽にも歴然である。神は今人を以てその最上の製作品とするが、カントが
六十超えてから轉じて批判哲學の建設に進める如く、神も追々は更に上級に進み
行く事であらう。神もまた誠に好望なる青年といふべきである。右は十一月二
十日、高等農學校列品室參觀の所感である。

獨逸社會の過去及現在

歐西の音楽批評家は、ハルモニイ、ジムフォニイといふことをやかましく言ふ、先づ音楽をカフて聞き、次いで公園に泉石草樹を賞し、さて料理屋にて夕食し、食後はメトロポオル座に馬鹿をどりを見るなど、これは、ハルモニイなき愉快の取り方ではないか。泉石の美をつくせる庭園に晩涼を入れつゝ、藝妓を揚げ、飲み且食ふは、これこそハルモニイある愉快であらう。愉快を取るだけは東洋が進めりといふを許すのか。將た又その料理だけで言うても、オールドウヅル、ボタアジ、魚、肉、菜、鳥、菓子、氷、珈琲とつき／＼に食ふよりも、すべての調和排列せられたる食膳に對し、同時に色々の馳走を味ふこそ、ハルモニイある食膳であらうてはないか。さて、メトロポオル座の王立オペラ座にも増して、綺羅びやかなる新營こそ、伯林の由々しき發達てがなあらう。十九世紀は既に了れるに、フンドシエクルは、いまだ去りあへぬ事か。

三 獨逸の村落生活

「あをによし奈良の都は、咲花のにほふがごとく、今さかりなりといふとほり、都會生活は繁茂せる枝葉の上に爛熳たる百花を咲かすの類である。花の咲き過ぐる年は實が乏しい、あまりに花が咲くと樹を枯らすことさへある。かゝるをりに其樹の運命を見やうとするには、根が如何あるかを見ねばならぬ。田舎生活は、一國の根である。其土臭きは乃ち根が土中に蔓る所以、田舎の産物は人と食物とである。田舎の樂屋で人が生れ、都會の舞臺で人が活動する。田舎の根を絶つならば、都會の花は忽ちに枯れて了ふ、都會に向うて其處に活動する人を供給するものは實に田舎である。

今や伯林現今の生活を瞥見せる我輩は、更に獨逸社會の根を一二ヶ處掘つて見て、其樹木の元氣よきかどうかを調べて見ることを要する。

十一月二十六日、自治村視察の準備の爲、普魯西國、ブランデンブルグ州、ポツダム縣、ニイデルバルニム郡役所を訪ふ。伯林市は勿論其管轄外だが、市の北なる一郡、南なる一郡の役所は、交通の便宜上之を市内に置いてある、今の郡役所は伯林スプレネ河畔、フリードリヒカアル河岸に在る。郡長ロエデルン伯は、懇懇に延見した。

ブルウム村

自治村
領村

此國の自治體は州郡市町村の三段である。縣は純然國家の機關である。郡長は一面國に屬し、他面自治體に屬する仕事を取扱ふ、官選にして郡會の承諾を経るを要する。郡長は四等官少佐相當、郡參事官も亦四等官及アッセッソル、此三人の高等官あり、其下に判任官書記十八人居る、郡長の外は皆全然國の官吏である。此處にて視察はブルウムベルグ村、ヘルムス村、及ニイデルシエンハウゼン村と定める。

冬の初、十一月二十九日、雪あり、泥深き道をたどりて、伯林の東北六里なる停車場から三町餘にしてブルウムベルグ村の里落に達し、村長グリッヒ氏を訪ひ、其邸内の農舎の一部を一室に作り成して充てたる村役場にて、唯一人しかなき書記を相手に、氏の説明によりて種々の事項を相語る。

此自治村は、九百五十の人口を有する寒村である、其長として氏は村長たり、同時に名譽職なる署長を兼ねぬ、此署は此村と相並べる領村をも併せ管する。此領村はアルニム伯の所有で、其城あり、大なる庭園あり、これには村民も出入遊覽を許さる。此伯は此外シュレジエンの方にも數箇所の領村を所有して甚だ富む、即ち我封建藩主が藩祿奉還をせず、其ま、華族となり、居るものと見るべきである。現

豫算

時此城に住するは其世繼夫婦で、領主はシュレジエンの方に住む。此領村の人口二百九十二、團體の差配が専制獨裁の長て、先づは、我藩政時代の名主である、其下に小作、其他種々の役あり、恰も一家の長が其資産を管理すると異なることなく、自治村とは全く其趣を異にする。

ブルウムベルグ自治村の豫算は、

六〇〇〇、	自治村貧院 <small>住居五箇あり</small>
一〇〇〇、	拘留所、火番屋
一〇〇〇、	死屍運搬車
四〇〇、	地所二五 ar 〇一〇 ar 二五 畑地
二〇二〇、八六	貯金元金及利息
計一〇四二〇、八六	
負債	
三一七五二、	

鐵道債償却殘金 賦一八九八年より一九四二年に至る四十四ヶ年

獨逸社會の過去及現在

収入

二〇七八一、

一〇五〇、

一〇〇〇、

三〇、五〇

一八〇、

一一六七三、四六

○馬を償還す。
學校建築債殘金の二七〇元〇馬を約九四〇馬を償還す。

前年度繰越

領村よりの収入小學生徒を預る爲なり。

小作料右二五

貸家料貧院の住居の中、四個を貸す。

直税

地租附加税十四割、家屋税附加税十四割、工業税十四割、此三者は今國税に代り、營業税附加税十四割、村割、これは初より國は取らず、村の酒〇〇馬以上所得税に課加するが、村割、これは四二〇馬以上取する、但し伯林など大市には此事なし。又十四歳義務教育以上の子供を更に高等の學校に送るときは、税の軽減あり。子共二人以上無税なりするが、教員は一人毎〇に九五年五月減あり。待遇改訂正及共員に拂ふに拂ふ。一りし、が、教員は一人毎〇に九五年五月減あり。待遇改訂だけけをに得拂ふ。

關稅

村のこれのみは

計一四四三三、九六

支出

一五三六、九六

六五、

七三〇、

六五四、

三一〇三、八三

五四四、五五

七〇、

一二三六、

一九二、

一六六五、

一七五五、

二〇〇一、一七

八八〇、四五

諸給 村長八〇〇、收入役三〇〇、村使丁七〇、夜警一人三六六、九六。村使丁は役場の小走及罪人引渡に任す。

物品費

應費

救貧費 里子一人一〇八、一人九六、幼稚舎尼僧二人、手當二〇〇、貧老院等一切其他救貧費二五〇。

學校費 村員擔分、國庫は各種費目に多額の支出を成す、今詳説せず。

寺院費 修繕費二〇〇、儀式費一九一、九七、地所の代りに僧に拂ふ一五二、五二。

建物修繕費

土木工事費

火防費

鐵道債償還費 停車場及鐵道を此村にかゝるやうにせるをりの負債なり。

學校債償還費

郡稅

教員給改正實施の爲支出費

獨逸社會の過去及現在

計一四四三三、九六

右は村會の議を経たる後、郡役所に提出して郡長の許可を得、次に郡參事員の閱を経て確定する。

學校會計

學校會計は、村學務委員豫算を作り、之を經營する、大體左の通り。

收入七二五七、〇七

内三一〇三、八三

村より

八八〇、四五

村より、新令實施の爲

二〇九七、七九

領村より

一一〇〇、

國より

七五、

國より建築費として増額あり。

支出の内教員給は

國より新令の爲五〇〇、を増支出すとせば、教員給は學校經營の九割二分八厘に當る

三三〇〇、

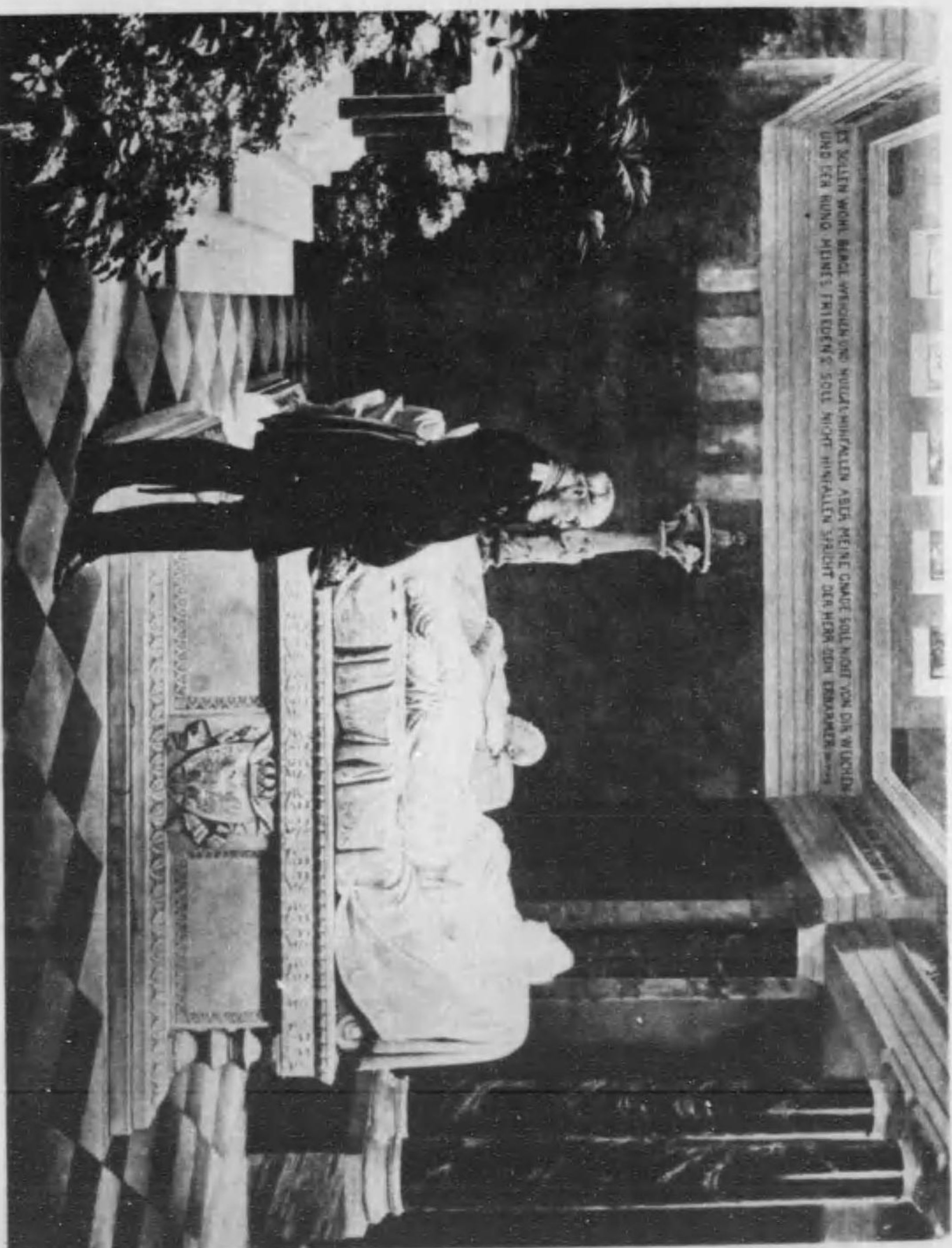
首席妻帯 見外住宅 二四〇

二五〇〇、

次席妻帯 二〇〇

一四〇〇、

末席無妻 二〇〇



路易西母后の廟に拜謁する普王維廉。

「……御年僅に三十五とぞ聞えし。烏鬼幼々六十年、世の浮きふしの定めなく、當年十三歳の頃はなき、御母后の牀前に泣き伏したまひし第二の皇子キルヘルム、今は髯髮既に白く、凛然たる威風、隠然中歐強國の君主たる天運を負うて、一八七〇年七月十九日、伯林、西郊シヤアロワテンブルグの廟所、眠れるが如き御母后のやさしき大理石像の傍に、こたび佛國との戰爭にこそ、在天の神靈を慰めまつらむ時は來にけれど、首途の告辭に詣てらる。——」

十年前の拙著『西遊漫筆』

寺院經濟

寺院經濟は、村にも他宗のものもあり、寺區は全く別にして、經濟も村と關係ない、但し財産あり、何も村民より拂ふに及ばぬ。

役場の書記は、村長の手元から二百馬の手當署豫算からは百馬餘を貰ふ。
署は警察事務に任ずる、其豫算左の通り、

收入一六九一、二四

- 内 八〇、 郡より
- 三五〇、 罰金
- 二〇、 押送費
- 一一四七、二四 自治村及領村の支出
- 二〇、 戸籍役場收入
- 五〇、 興行税
- 四、 車税
- 二〇、 普請税

支出一六九一、二四

獨逸社會の過去及現在

内 八〇六、二四

書記給

一五〇、

使丁給

其餘

應費、救恤費、警衛費等

これも村費同様郡長等の認可を要する。

村會議員の選舉は、年齢に拘らず納税を以て資格とする。第一、家屋所有者、但し數人一家を所有するときは此數人にて一個の選舉權を有す。第二、唯所得税のみを拂ふもの。第三、村外に住して此村に税を拂ふもの。第四、國税を拂はず六六〇乃至九〇〇馬の村税のみを拂ふ男。此四種が選舉權を有する。三級選舉法である。目下一級選舉人十人、二級十六人、三級數十人ある。三年改選、毎三年、初年には一級二人、二級一人、三級一人、次年には一級一人、二級二人、三級一人、末年には一級一人、二級一人、三級二人、かくて十二人、被選人は誰でもよい。斯くして成立するものが村會である。村會は村長一人、村參事員三人を選ぶ、村の納税者ならば皆これに選ばれることが出来る。

普國代議員の選舉は、全く同斷の手續にて、先づ選舉人を選ぶ、唯二十四歳以上に

選舉

所得税調査

戸籍

小學校

選舉者を限るの別あるのみ、さて選舉人は更に代議員を選ぶのである。獨逸、帝國會議議員の選舉も亦これに同じ、但し選舉者は二十五歳以上で、救貧を受けざるものは皆選舉權ありとする。

所得税の調査は、郡役所にて、委員會あり、郡長その長となる、年々財産状態の届出調査を各戸についてする、その結果で臺帳を作る、これには、負債、及、利子の支拂も、明細に記載あり、之を差引せるものを所得とする。

戸籍は三種の臺帳を以て成立する、第一は出生籍、第二は死亡籍、第三は婚姻籍である、これも各事實の時日に隨うて個人別に記載し、一家族と纏めたるものは存在せぬ。

さて此村の公營造物を歴覽する。小學校は、教員三人、生徒百三十人、内八十人は女生、學級は四組、四級は第一學年、三級は第二、第三學年、二級は第四、第五學年、一級は第六、第七、第八學年の複式である。三級二級では學年に隨うて甲乙と分つことがある、一級でも分けて甲乙以上にするのではない。四級は午前は授業せぬ、いつも同時には三組だけの授業がある。四級の算術、二級の淨書及圖畫、一級の獨逸學及

歴史を參觀する、獨逸學の外、決して書籍を持たしめず、極要點だけを筆記させ、口授及問答を以て授業する、中々よく覺え、且教場は大に活氣がある。一級の獨逸學、鐘の梗概を十四歳許の一女生が述べ、さて人生觀などの問答、詳に行はれた。ワルレンスタインの問答の際、その歌を衆は一齊に唱ふ、教師の機智である、さて又直に文法の問答に移つた。歴史は逆教授である、グロオセ、クウルフルステンの時代以後を主とし、其他は附たりである。教員住宅は、次席及首席の教員には學校の右翼の階下及び階上を充て、ある、各四室、一房、厨房、及共有として穴藏の洗濯所及物置より成り、充分の廣さである。首席教員には舊學校の建物全部を供し、一軒建にて、六室あり、手廣い。次席教員は三女一息、其長女及次女は伯林の高等女學校に通學、三女は尙幼なるを以て此處の小學校に居る。首席教員の長女十七歳、此處の小學校を了へて今は補習教育を伯林で受けて居る、一男は四ヶ年此小學に在りし後今は伯林の正則中學に通學中、教員待遇の優れること、これにも洞見すべきである。

首席教員の宅の裏から寺門に入り、墓の間を進みて入る、住職、寺役員、及寺使丁の三人ある、寺役員は首席教員之を兼ねぬる、オルガン、洗禮の水掃除の監督、讚美歌の番

寺院

拘留所及
消防車詰

幼稚園及
貧老院

貧會

村の賑ひ

號を司る。住職の住宅は首席教員のよりも莊麗である。

拘留所と消防車詰とは同じ棟に在る、牛小屋の様、二室あり、乞食、其他の警察令違反的犯罪のものを取敢ず拘致して之を警察に引渡す所である。消防車詰には人力ながら大仕掛なる唧筒が二臺あり、一臺はやゝ古りたれど尙役に立つ。

幼稚園は親が勞役に出るとき、學齡未滿の小兒を託する所である、尼僧が二人之を保管する、四十人許居る。貧老院は幼稚園と同じ棟に在り、三室、今は一人七十九歳の老婆が居るだけ、此處では全く働き得ざるものゝみを收容して之を扶持するや、やはり同じ尼僧のかゝりである。

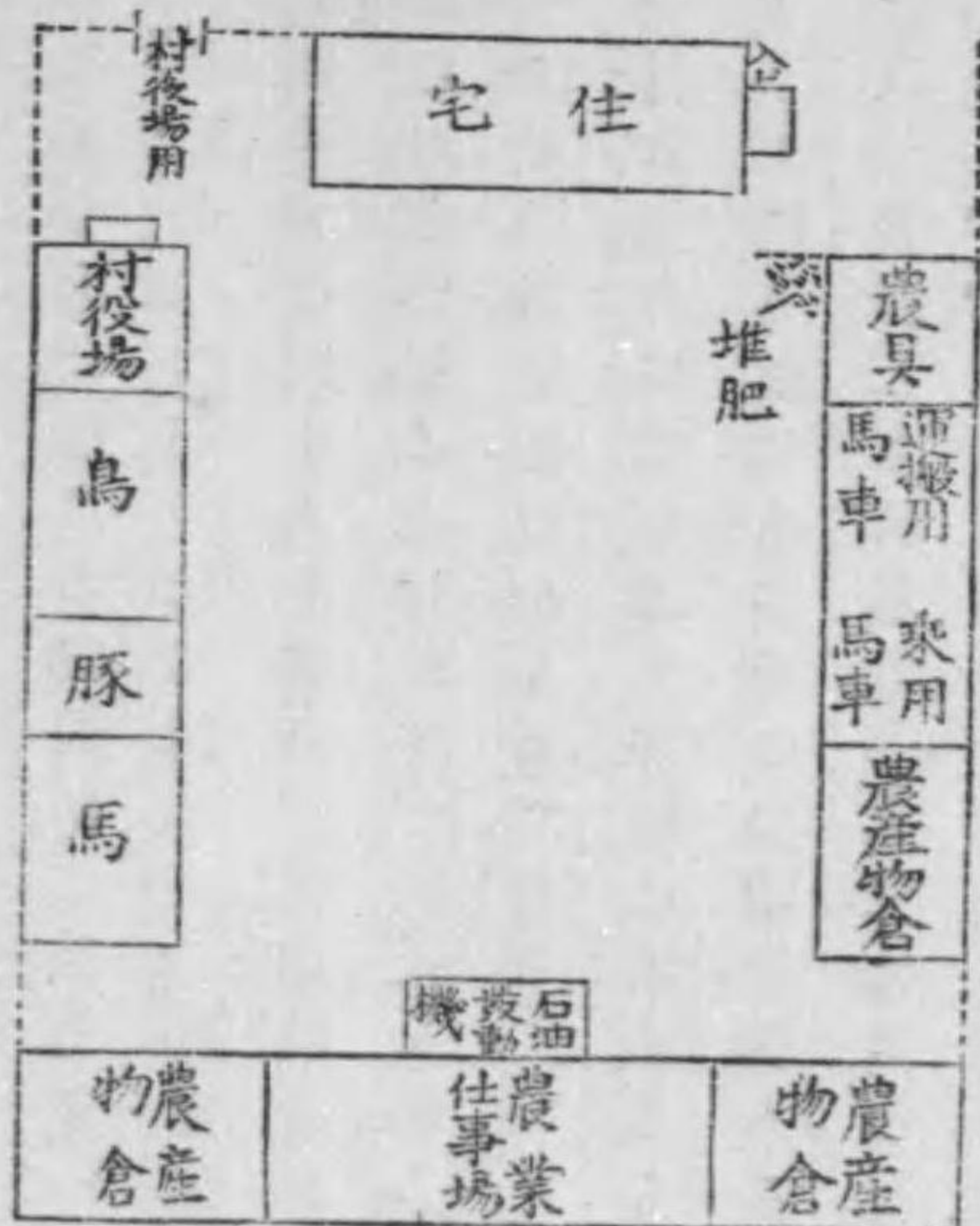
村立貧會は、貧しくも勞働に堪ふるものに、唯、住處を給するが主旨である、場合に、よりては其他にも多少の扶助を與ふる、今は一住居のみを之に充て、餘は明き居るを以て賃貸し、これが村の豫算に入つて居る。

村に村祭はないが、舊兵士の會なる戰會にて年に一二度盛なる會あり、また歌の會あり、夜番組の會あり、體操の會あり、労働者會あり、殊には、菊上祝ありて、いづれも村の賑ひとなるのである。

村長住宅

村長の宅は、一棟の住宅、一棟の十餘頭の馬及び若干の豚小屋、その前方一部が村役場である、其の他尙二棟あり、都合四棟から成立する、詳しくは圖で示す。村長大

極めて質朴なる人、この家に住むべきは百姓である、折柄牛糞として賣り出すべき、蕪青がいづれの農産物倉にも充ち満ちて居る。村長に送られて雪のあかりに黄昏の途をたどり、夜伯林に歸り著いた。



其翌三十日、此度は郡長の自動車で、郡高等官フォン・サイドロップ氏の案内で同郡ヘルメス村を視察する。伯林の北三里半、三十年前は唯三百の寒村であつたが、今は人口五千二百、住民は概して中等社會、官吏仕舞うた屋等、労働者は居ない。役場には村長室、届出室、警察室、戸籍役場室、金庫、但し金は始終伯林の銀行に送る、此

役場
村ヘルメス

學校

水道部及
瓦斯製造所

ニイデル
シロイ
ハウゼン
村

處にて税を取扱ふ、一人の書記即ち收入役及一人の助手従事す、稅務室、文書室、會議室あり、役員は村長、書記六人、助手八人、中々ブルウム、ベルグの比に、非ずである。議員は九人、村參事員二人、村長事故あるときは代理する。

學校は男女二部に分れ各七級、その第一級は二年に亘る、校長、男教師十人、女教師三人あり、理科教具室、歴史地理等の掛圖あり、これに植民地の風土圖及物産標本あり、また陸軍的、行軍の際生徒をして叩かしむる太鼓もある、これには上三級だけが出掛け、目的は持久力の練習に在り、行軍、里程五里、女生は固より加はらぬ。

此村の附近、舊領村に屬せるもの皆自治村に買収せられ、全く純粹の自治村となつた。村に水道部あり、創立費四十五萬馬、瓦斯製造所あり、創設費六萬四千馬、此村の營造物はこれだけである。

更に轉じてニイデルシロイハウゼンに向ふ、十年前は人口三千、五年前は九千、今は一萬四千三百、こは伯林の近郊地、若し家屋が既成の街道を滿たすに至らば、二十萬の人口を保有し得るの廣さである。今や六十萬馬の豫算で新役場の建築中である。小學校は二ヶ所、高等女學校あり、火防設備所あり、貧院あり、水道部は五十

萬馬を費して一九〇三年に落成し、下水部は導管總體百十萬馬、下水部本所五萬三千馬、一九〇五年に落成した、村内の下水を此一個所に集めて、更に伯林の大暗渠に注ぎて後始末をする仕組である、是が爲に此村と伯林市との間には特別の條約が存立して居る。右の外、私立にて住宅組合がある、百八十六住居を、松の翠深きよき地に有する組合員は、當初各三百馬を出金し、圖にて住居を得、一ヶ年八三〇乃至八七〇馬の家賃を拂ふ、四室、二房、厨、浴室あり、ホオフといふものなく、皆前室にて、住みよげである、創築費は百六十萬馬を費し、地所は此外である、組合員は大抵官吏である。此村の村長アブラム氏始終案内す、大學教育の人で、特に町長の稱號を有し、七千以上、一萬の年俸を受く。ブルウムベルグとは雲泥の差である。之を要するに、獨逸の田舎生活は、伯林生活とは月と監との隔たりのあるだけは、注意せねばならぬ。

月と監

四 獨逸の社會問題



普王維廉と、囚虜たる前佛帝那波崙三世。

「……こたび佛國との戦争にこそ、在天の神靈を慰めまつらむ時は來にけれと、首途の告辭に詣てらる。積徳の注ぐ所、積威の發する所、向ふ所なく、メッとなり、セダンとなり、ストラスブールとなり、而して巴里、ヴェルサイユとなり、當年の風骨全く雪ぎて、更に獨逸一統の業を成す。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

人種問題
波蘭人

社會問題は、近世の文明國孰れも之を有せざるはなく、其種類も亦多々あるが、併し茲に特に獨逸に於いて注目を要する二三の問題のみを擧げて見やうならば、第一は人種問題である。其一に獨逸、就中普魯西の東部に於ける波蘭人の問題がある。波蘭は獨逸、埃太利、及び露西亞の三國に滅ぼされ、而して三國に分割せられた。普魯西は其版圖に歸したる、就中東普魯西に甚だ多き波蘭人を獨逸化すべく全力を注いで居る。東普魯西の首府ポオゼンには大學こそなければ、^{アカデミイ}ポオゼン大學校を設けて、盛に獨逸式學問文明の中樞を建設し、而して一般中等及び初等教育にも、此獨逸化政策を熱心に施しつゝある。波蘭にては、初等教育にても、獨逸語をば必須科目として授くるのみならず、宗教に於いて些かの例外あるの外、諸學科皆獨逸語を以て教ふる、宗教のみは波蘭語にて授くること出来る、學校にては波蘭語を教へず、證議の上、隨意科として之を教習するを許すことあるだけである。

人種問題に入り來る其二は其他のスラヴ人である。例へばメクレンブルグにはウエンデンと云ふスラヴ人の一種がある、是等は今日に於いては殆ど總べて獨逸化して居るが、何分其血統上スラヴに屬するといふ感じだけは、全く取り切る譯に

エウデン

獨逸社會の過去及現在

アルサス
ロオレン
人

は行かぬ。

其三はアルサス、ロオレン人である。アルサス、ロオレンが佛蘭西より割譲せられて獨逸の版圖に入つた時分に、一ヶ年半を期して退去せむと欲する者は自由退去を爲すべく許された。そこで稍氣概のある佛蘭西人は、此間に皆我祖國たる佛國の各地に散り去り、比較的氣概なき樂天的の人民だけが残つたのである。それとも此兩州に於ける人種上の考は、頗る調和を缺くものがあるのである。

併しながら人種問題は、要するに餘り重き問題ではない、次に來たる所の者は宗教問題である。之には聯邦の中、巴威里が舊教國で、而して此國たるや、其版圖の大人口の多き、美術學術、文明の進度に於いて、直に普魯西に亞ぐ所の一大王國である。此國は舊教であり、地勢深く南方に入り、而して之と相隣接せるが即ち奥太利で、奥太利は亦舊教の國である。斯の如き事情より、さなきだに普魯西を盟主と仰ぐに餘り快からざる巴威里、普魯西とは總べて睽離反目せむとする所の巴威里が、宗教上、普魯西及び多くの獨逸聯邦と全く異にして、却て別國なる奥太利と其信仰を同じうするは、獨逸帝國の鞏固統一に向つては、甚だ不利益なる事情である。巴威里

宗教問題

巴威里

加特力保
護權問題

は列國の或る者と特に全權公使を交換し、動もすれば、我は獨逸聯邦の一ではあるが、他の聯邦の如く、全然聯邦に出頭没頭するものに非ずと云ふが如き、小見識を振廻すやうに見ゆる形跡が十分あるのである。斯かる間に立ちて、宗教問題は亦稍、頭を擡げ來る傾向の必ず生ぜざるを得ぬ。

宗教問題の其二は、加特力保、護權問題で、是は獨逸帝國の大部分が新教を奉じて居るにも拘らず、然も其新教は獨逸に於いて出來たる一種の新教、即ちルツテル派福音教會であるにも拘らず、偉大なる現獨逸のキルヘルム二世陛下が、列國殊に東洋に向つて、世界の加特力教を保護する俗權者は、不肖なれども朕自ら之に當らむといふ意氣込を示されたので、是が一種の問題となりつゝある。是は國威の發揚としては洵に結構なる事であり、國際上の悍勇なる競争策としては、洵に適切であるかも知れぬが、併し、斯くなり來るといふと、獨逸國民の信仰、其者が多少侮辱されたる嫌は、あるまいか。キルヘルム二世陛下といふ方が、一個人として如何なる物好きをされやうとも、それは格別として、獨逸國民の主張であり、御自身もまた一定の教會、一定の信仰を有して居られるのが、外の事ならばいざ知らず、宗教と云ふ

無上の權威を人の思想に對して有すべき所に對して、朝に越客を送り夕に吳客を迎ふるといふが如き態度に在らるゝことは、吳と云はず越と云はず孰れも侮辱されつゝあるかの感じがせぬものであらうか。斯の如き事からして宗教は其權威を減殺し、而して宗教問題は根柢に於いて既に楔に弛みを生ずるものではないからうか。

社會問題の第三として、更に國語問題を擧げねばならぬ、但し此問題は今は大方落着して居る。

支那には普通の文字がある。支那の社會は所謂礪石瀟湘限りなきの路、北滿洲より南雲貴に至るまで同文である。想ふに支那の各地各族の言語の差異は、北歐の瑞典、那威、丁抹、さては獨逸語及び英語をも含めるチウトン語系の中に於ける差異よりも大なるものがあるであらう。而も此異語ながら同文として立ち得るは、實に口語、文章、音韻、文字に依らず、文語、文章、象形文字に依るが爲である、此支那と北歐と地勢の差はあるべきも、其外に斯かる國語關係の統一立國に著大なる關係あるを見るべきである。

獨逸の如きは、其國民的統一に於ける國語統一の恩賚は實に大である、併し之が爲には獨逸國語の泰山北斗、樞軸標準の出づるを要し、法制の力を以て劃一整理の絶えず倦まざる實行を要した次第である。右の泰山北斗の爲には文豪の輩出といふことがあり、絶えず倦まざる實行の爲には洵に仕合せなる國家政策が行はれ、以て此國民統一を致すことが出来たのである、是れ實に高き價を拂うて買ひ得たる好き貨物である。

然るに東洋殊に支那の如きは、實に價を拂はずして、此統一的好き貨物を有するのである。さて我國の書翰文は、實に一般論者が標準語など騒ぎ立つるに先だちて、夙に普通語となつて居つたのである。若し我にして百餘年前に羅馬字を用ひ、東北のズウ、佐賀のバツテン、皆音韻文字、且口語文章にて認められ居たりとするならば、那威の、獨逸の、瑞典の、那威の、丁抹の、以上の懸隔は直に生じたに違ひないのである。而して維新一統の大業は、亦甚だ困難なりしことは更に疑を容るべき餘地が無いのである。

但し小國分立より競争を生じ、社會文物の進歩を致し、大國統一より却て停滯不

進歩を生じたといふことを擧げて、小國分立に謳歌するが、それならばそれは自ら別問題である。古に在りては小國分立、今に於ては大國對立、是れ實に最も世運の進歩を致す所以である。さて大國對立には小國の聯合を要する、而して文語象形は統一的、口語音韻は分派的、是れ殆ど争ふべからざる事實ではないか、國語政策に考慮を費す者の最も留心を要すべき所である。

獨逸の社會問題の第四は聯邦問題である。流石に大小五十有餘の聯邦を以て組織せる一帝國であるから、其中には絶えず小不平といふものがあるのである。就中其甚だしきは巴威里で、之が爲に千八百八十六年、既に其國の王様の生命も此波瀾の犠牲となり、スタルンベルグ湖畔、碧水蒼々萬里深き處、いにしへ洞庭の南瀟湘の浦娥皇女英の二女ならなく、綿々たる遺恨萬古絶せざることもあるのである。併しながら聯邦の運命の爲には幸に、小國の分立は到底今日の時勢の許さざる所なるのみならず、聯邦の合同統一を以てこそ、獨逸民族は世界に仰顔正視して横行濶歩を試むる次第なる事は、國民の胸裡に深く印象しつゝある次第で、殊には思慮ある其國の政治家が、有形に無形に、政治に教化に、悉く聯邦の基礎を鞏め、アイニヒ

聯邦問題

カイト即ち一致結合、シュッツ、ウント、トロツ、即ち攻撃にも防禦にも、必ず一致結合するといふことを、幼年少年の腦裡に深く刻み込みつゝある次第であるから、聯邦問題も亦年を逐うて其事端を軽減する次第である。

五 獨逸教育の精神

日本人の長所は、手先の器用なるに在ると云ふが、總べて細かなる細工は巧みであるけれども、巨大なる仕事はさまたてない、有形の事のみかは、無形精神上の働きにも亦爾あるやうである。百年の大計などは日本人の長所に非ず、萬里の長風などは日本人には向かずと言ひ去ることは口惜しい。

歐洲人にも、最も大い事に要領を得て、細かい事に拙なるものは露西亞人である。露西亞人の國民的發展の迹を辿り、其經營の體系を察すれば、如何にも大局より打算し達觀するの上に於いて、露西亞の歐洲諸國民よりも一日以上の長あることが見ゆるのである。獨逸人は露西亞人に劣り、北歐の諸々の民族、芬蘭人、

日本人の
手先の器
用

露西亞人

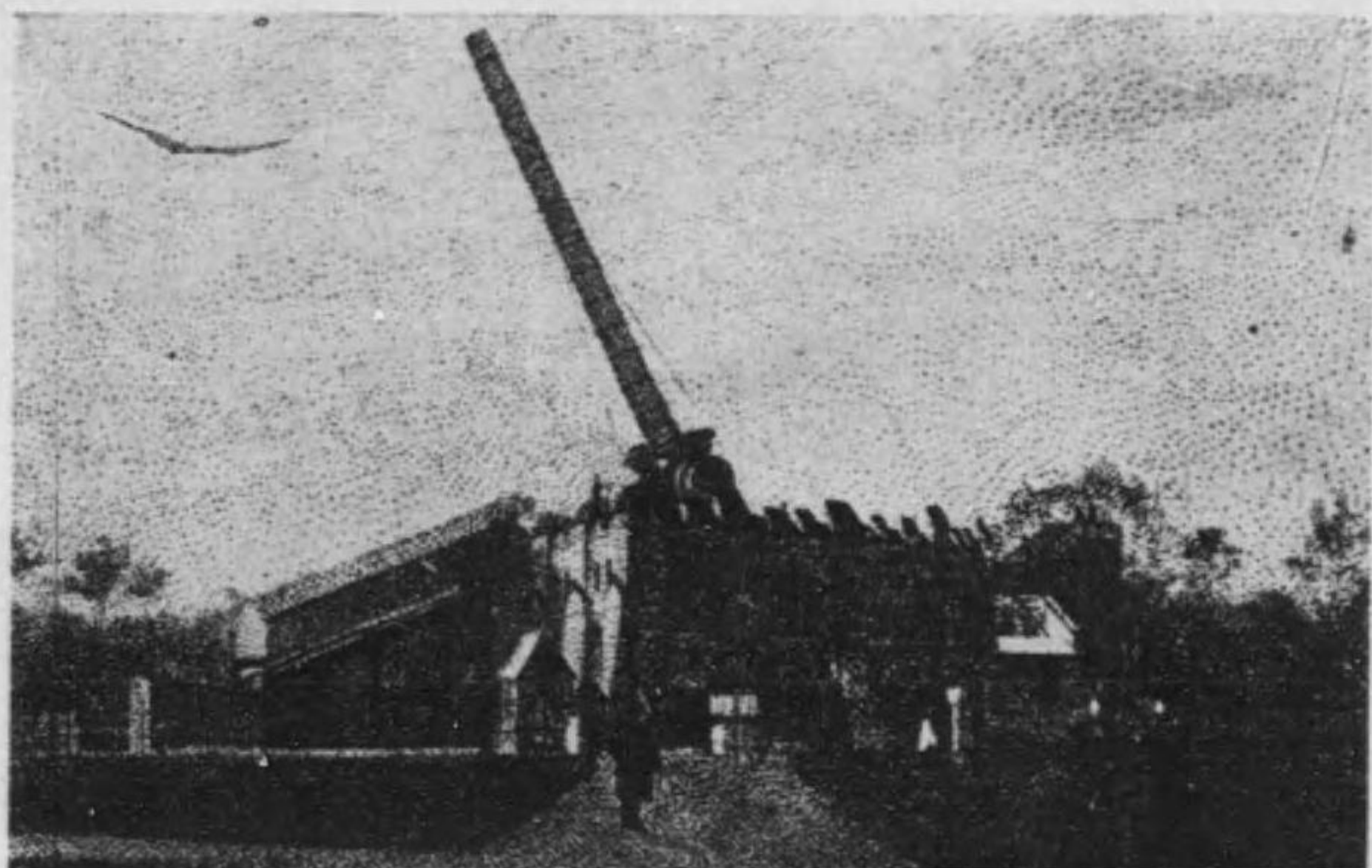
に之に劣ること數等である。

さて此長短は時代の變遷、民族の老幼に依りて移り變りがある。概して國家社會、民族社會の幼き時分には、大なる事に明かにして細かい事に暗い、希臘然り、羅馬のビュニク戦争前後然り、十七八世紀の英國然り、十八九世紀の獨逸然り、今日の露西亞然り、三韓征服の當時に於ける日本然り。近く之を見るも、維新當時には、大局に通ずるの政治家が、ちよいと見えなかつたが、近頃は此事は止みになつたやうである。恰も尙當年我日本、三韓に於けるが如く、文明の進度より云へば、三韓は日本に優り、芬蘭は露西亞に軼ぎて居る、然も大局に明かなるものは、實に日本である、露西亞である、而して成敗得失の結果は、即ち歴史が明證する通りではないか。

今日の所謂大學教育は、之を庶民教育に較べて、纖細巧緻なるを特色とする。凡そ今日の大學的學術研究の態度は、丁度蟻が高塔を築くやうなものである、幾萬の蟻群各、倦まず懈らず、驚くべき靈妙なる精神的及び肉體的能力を以て協力分業以てこの大業を成す、幽を聞き微を顯す、學術研究、軌近の流潮は、亦正に斯の如きものである。然れども之を目して以て驚くべしと云ふは、蟻の力を本位として云ふ

獨逸興國の兩機關

愛國心と實理科學。



上の圖は伯林東郊

トンプトウ通俗天文臺、

半空に斗出せるは、望遠鏡。



中下兩圖は伯林遊就館なる

大壁畫、一八七〇年九月

一日セダンに於ける佛帝那波爾三世降服の圖と一八七一年一月十八日佛國ヴェルサイユに於ける獨逸皇帝即位式の圖となり。

だけの事で、人を以て之を見、目的よりして之を云へば、亦唯一舉手一投足の事僅に生存の一義を遂ぐと云ふだけである。此事業の中に何等の偉大も見えなければ、何等の驚くべきも見えないのである。

仍りて想ふ、大學的學術研究に於いて、日本人が獨逸人を駕することは、世紀を期して待つことが出来るであらう。併し大局を達觀し、宇内の大勢を制するに於いて、日本人が露西亞人を凌がむは、夫れ果して何れの日に在るであらうか。

右は獨逸教育の些か暗き方面である。併しながら獨逸の教育と雖も暗き點のみでないのみならず、概して言へば明るき方面の掲ぐべきもの極めて多々であるのである。

獨逸の教育制度の儼然と整うて居り、下、庶民教育より上、大學教育に至るまで、悉く研究的に進歩發展を期して居ることは今更言ふまでもない。千八百八十三年に、キイゼと云ふ教育家は英吉利の教育を視察して、實に我國の教育は未だ甚だ幼稚である、英吉利の教育の如きは、實に成熟せるものであると感服の一語を以て結びたる、厚き報告書を書いて出版した。併しながら今日、英吉利のコウルトンは一

書を著し、我英國は餘りに長く眠つて居つた殊に教育の方面に於いて眠つて居つた、我英國が眠つて居つた間に、看よ大陸に於いて、列國、就中獨逸は非常なる發達をして居るではないかと、今日に於いて痛切に指摘して居る次第である。如何にも獨逸の教育に就いて、長所の擧ぐべきものが多々あることは否むべからざる事實である。

我國にて學校生徒の科目の繁多に過ぐるを指摘して、以て改めなければならぬ弊害と爲す所の論者は洵に宜い、併し國民に責むるに同時に夥多の科目を以てする者多きは何事である。國民として國家主義は避くべからず、されど世界の一員として世界主義をも有せざるべからず、利用厚生の現世的事項の外、超絶的の宗教的向上精神をも有せよ、といふの類、數ふるに堪へぬではないか。是れ皆之を國民に責むるは、科目繁多の弊害に陥るものと謂ふべく、普通人民の能力程度にては、必ず蠱蜂取らずに了る外無い次第である。

歐洲でも、獨逸だけで今尙市井の年少が、我々日本人を來往指辱して、目笑指斥するの蠻風を存するは、殊に目立つ事柄である、併し是は此國の専門的祖國主義、獨逸

國民の科目繁多

觀過斯知

主義の餘弊たるに過ぎぬ。斯かる弊はありとて、獨逸の教育が國民をして専心適歸する所を知らしめたるの大功は實に没すべからざることである。何處の國でも他國の爲に自國が存するては斷じて無いではないか。

抑、教育とは、或る理想に被教育者を化する事である。若しも周圍の社會にして相當に進み居れば、普通の知識などは、別に教育せずとも自然に開け自然に進むものである、されば獨逸の如きは、兎に角教育の眞面目なるものと云はねばならぬ。

獨逸教育の精神の第一は、實に其愛國教育に存する。小學と云はず、中學と云はず、歴史の教育も、文學の教育も、總べて此愛國教育に歸著する。獨逸の中學では、歴史を初めて教ふるに、先づ現代の自國を中心として説話を始め、而して次第々々に遡つて遠き遠き古に及ぶ、即ち世界歴史の淵源たる埃及にまで逆に進み行いて、さして一旦太古に到著するや、更に繰返して次第に降つて現代に及ぶ、斯かる順序方法を用ひて居る。獨逸の學校では、獨逸史、世界史など云ふ區別はせず、歴史と云へば唯一つ、而して自國を中心として、漸次利害關係の薄らぐ所の遠方に及ぼして、以て世界を一體とする所の、ただ一つの歴史科があるのみである。獨逸の語學文學

眞面目なる教育

愛國教育

歴史の進

唯一つの歴史

とも謂ふべき者に、獨逸學と云ふものがある。獨逸學即ちドイツと云ふ學科は、決して獨逸語の稽古ではない、決して獨逸文學の稽古ではない、乃ち獨逸の立派なる文學に於いて現れたる獨逸の國民的精神、獨逸の國民性、獨逸の勇士の態度、面目、獨逸の佳人の風采、心意氣を、其優美なる文章、詩句を媒介として、感得する、それが獨逸學即ちドイツの面目で、其副産物として、獨逸語も覺ゆれば、獨逸の文章をも覺ゆるといふ次第である。斯の如くにして獨逸の教育は、獨逸思想、獨逸魂、獨逸氣質之を養成して、是に於いて自ら根柢ある愛國的精神、愛國の性情を涵養すべく力めて、而して十二分の効果を擧げつゝある次第である。

獨逸教育の精神の第二項は富國教育に存する。本來ホオヘンツォルレン王家の御家風の下に在る獨逸は、充分に打算的であり、經濟的であり、而して商工的であつたのである。この下地に加ふるに、更に充分なる富國教育を以てする。小學校に於ける地理の教育の如きに見るも、如何にも其が單に氣候や、人種や、人口や、宗教やについて地理上の知識を授くるのみならず、實に殖産工業、物産貿易、斯の如きものに就いて、多大にして深厚なる注意を拂ひつゝあることが明瞭であるのである。

斯の如き富國教育の結果として、獨逸の商權が世界に於いて年一年より發展し、行くことは當然起り來らざらむとするも得ざる次第である。

獨逸教育の精神の第三項は、宗教に關しての中和教育に存する。如何にも外に向つては宗教の尊嚴を維持し、宗教上に就いては、蟲も殺さぬ信心家の寄集りのやうに見せ掛けるが、併し宗教に泥んで、時勢に於ける活動を害するの弊を避くるといふことは、獨逸の教育が極めて細心なる注意を以て實行しつゝある所である。

獨逸教育の精神の第四は、學術の高等研究に關してである。獨逸學術の高等研究は、美術の傑作と同じく自然の結果で、別段學術高等研究を人為的に造り設けるといふことは無いのである。何を以て自然の結果でありながら、獨逸に於ける學術研究が盛に出て來るかといふと、それには三つの事情がある。一つには獨逸に於ける高等學術を研究する者の地位が、全く世界的であるからである。凡そ獨逸の大學教授の位置ほど、派手なる商賣は無いのである。政治や經濟や商業などに従事する者は、獨逸に於いて其名を擧げるだけであるが、學術に従事する者が其研究の結果を公けにするといふことになる、それが忽ち世界の津々浦々の大學ども

に響き渡るのである。乃ち日本に於ける大學教授が甚だぢみなる、寂しい地位に在ると違つて、實に派手なる世界相手の職業である。二つには獨逸に於ける學術機關の系統が整備して居る所から、學術の高等研究は自然に盛に起つて來るのである。三つには第十八世紀以來の積疊的勢力から、學術の高等研究の此國に起れるや一朝一夕の事ではなく、次第々々に進み來つたものであるが故に、恰も小さき樹に實の著くこと少いが、大きな木になると、少しぐらゐの暴風雨があつても澤山實が著くと同様に、今日獨逸の學界、學術の高等研究は、正に木が充分大きくなり、根が張り幹が強くと、而して充分の果實を結びつゝある時代に達して居るのである。

獨逸教育の精神の第五點として見るべきは、其社會教育に於ける愛國的精神の漲溢である。試に獨逸各地、到る處の博物館に入つて見ても、一として祖國を記念し、人々の愛國心を熾にすべき用意の分明に現れたるものに非ざるはない。獨逸の大小各都會の粧飾として飾られたる記念像は、軍事と云はず、政治と云はず、文學と云はず、經濟と云はず、總て國家の恩人を記念すべき物に非ざるはない、是れ亦實に愛國的精神を鼓舞するに非常なる力あるものとなるのである。美術館の如き

社會教育

博物館

記念像

美術館

演劇

帝室

は、固より美術を主とするものなるにも拘らず、其畫題に於いて、實に愛國的精神の極めて著しく現れて居ることを、人をして感ぜざるを得ざらしむるものがある。演劇の如きは殊に然りて、愛國的文學、愛國の詩歌、愛國の演劇が最も屢演ぜらるる、而して其最も多くの人氣を集むるは、恰も我國に於いて芝居が流行らなくなつたら、忠臣藏を打てば必ず立て直すといふ状態と同様で、獨逸のオペラは、ジイグフリードを以てすれば必ず太入となるといふ状態があるのである。即ち社會教育、民育は、實に愛國的精神を以て漲溢しつゝある、是は最も注意を要する事柄である。

獨逸教育の精神として更に第六に擧げなければならぬのは帝室である。實にルイイゼエ皇后の逸話に就いても述べたるが如く、フリードリヒ大王以來、キルヘルム大帝に至るまで、獨逸教育の精神の根柢たる勤儉尚武の大本山は、實に獨逸の帝室であつたのである。唯、茲に一言を添ふべきは、此頃にては此事の少しく變遷を経つゝある事である。

獨逸教育の精神を約めて言へば、凡そ以上の六項に歸する。斯の如き精神を以てせる獨逸の教育が、其實行に於いても、目覺しきものあり、國際上、獨逸の地位を高

め、獨逸の地位を鞏固するに向つて教育が極めて直接なる極めて偉大なる効果を爲すことは、復た異むに足らぬ次第ではないか。

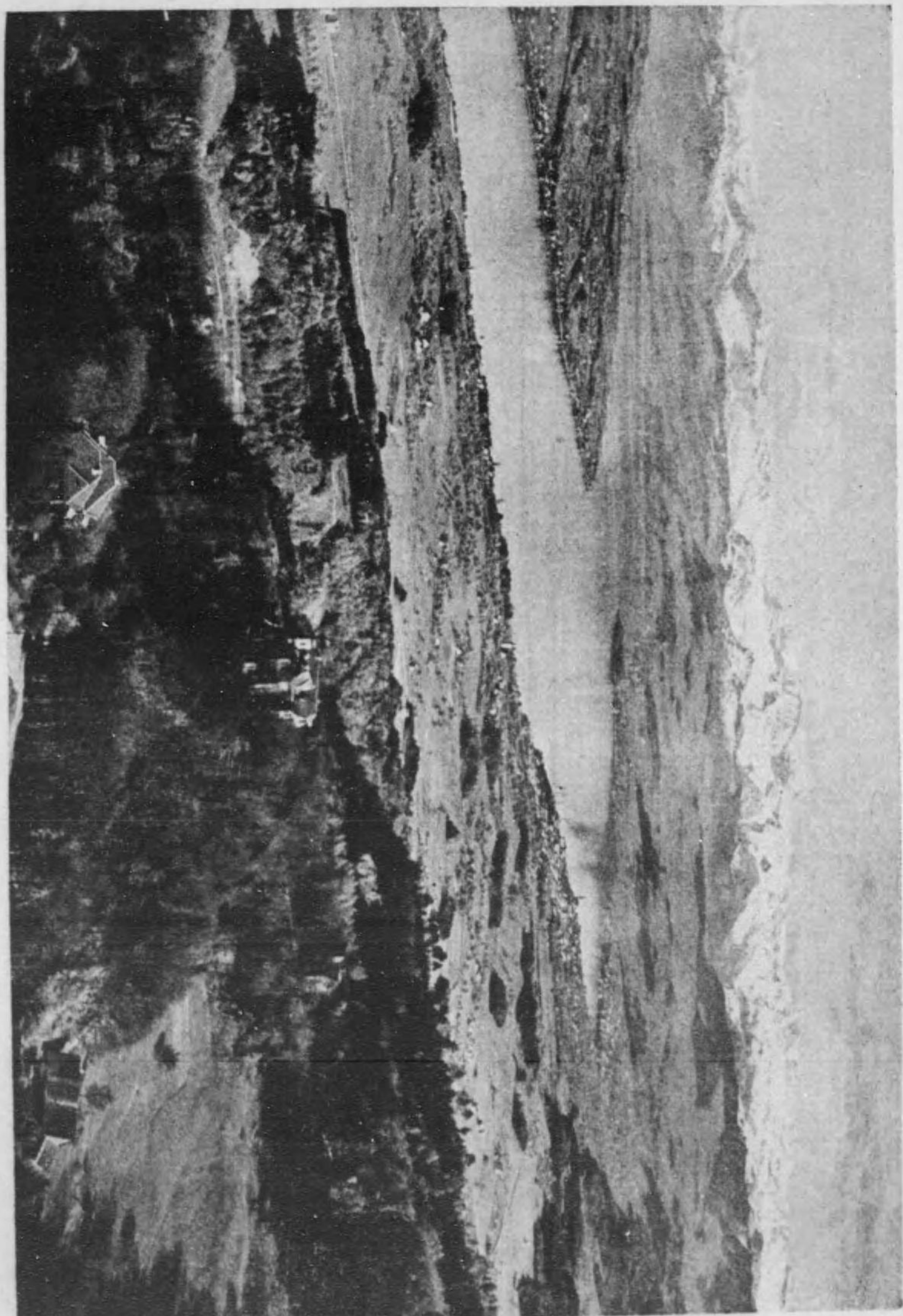
六 官僚政治及官僚社會

人為淘汰

獨逸の官僚政治ほど巧妙緻密なるは恐らくはあるまい。試験制度により、微細なる點まで特殊の檢定を爲し、即ち人為淘汰を爲して所謂適材を適所に置き、以て其巧緻細密なる、寧ろ繁縟の弊にも近き官僚機關を運轉する、之を運轉して些の過失無からむが爲には、必ず彼が如き特別な能力の保障ある大小の官吏を要する次第である。

修養階級

官僚政治の人為淘汰は、やがて官僚社會には、兎も角も教育あり訓練ある人士を吸收するといふ結果を生じ、我國の古の武士階級の如く、又は支那の官僚の如く、兎も角も多少一定の修養ある階級を全社會の中に形造る。而して若しも國民一般が萎靡衰頹に瀕する場合に際することがあるとしても、此修養ある階級は後れて



瑞西國。チュウリヒ湖畔の景。

チュウリヒ湖畔より

アルプスを望む。

一九〇一年、四月二十五日、

會遊の境。

常祿

凋むといふ形迹を呈することゝなるのである。

官僚には俸給を固定的にし、退隱料を固定的にし、且厚くし、成るべく古の常祿に近きものとして、官僚をして安んじて官を家と爲し、わき目をふらずに生涯官に従事せしむるの組織、その精神は正に我封建武士の階級と似通へるものがある。

斯くて、武士道が、我封建武士の階級の斯かる制度の間から發生せるが如く、獨逸にては今や當に官僚道の此間に發生しつつある次第である。官僚道の一種の長所を有するは固より當然であるが、併しまた其短所の認められぬでもない。

大學は官僚の養成所である。所謂アカデミー、シグベルデット、大學養成といふ言葉は、實に官僚氣質、官僚道の最初の搖籃を意味するものである。大學にて學究的に訓育せられ、其以前中學にて、主として羅旬、希臘の死語教授にて鍛へられ、其後試補、參與、兩度の試験と執務とに一局一課的にきたへられ、而して成り上れるが即ち獨逸の官僚である。之れに對抗する議員、新聞記者の如きには、多くは所謂大學教育なきがあるので、其出處、其の思想、彼と是とは多く太甚だしき逕庭を見る。彼等は自由職業以外に其手腕を伸ばすこと能はず、相率ゐて民間の事業に従事し、

官僚の養成

官僚道

國事に就いては唯、新聞に依りて叫喚し、(文部省參事官ドクトルフライシヤル氏の談及び語唯、議院にて囂歴するのみ。國民は官僚、非官僚、二派の截然たる色別から成立し、此點に於いて猶太人は最も非官僚に屬するが、更に又宗教、人種の色別の雜然且つ紛然たるものある次第である。されば、此國の一致は、主として外難よりせる他働的、一致である。皇室は寧ろ官僚の首長たるの觀がある、殊に質樸にしてぢみなりしホオヘンツォルレルン家の家風の漸く薄れ行きては、益、此傾を強うせるやうである。

繁縷

官僚政治の實際の運行の繁縷は、官吏俸給令にも見らるべく、又一たび文部省などを覗けば明かである。而して其態は、正に獨逸の學者の著述と相似て居る。要するに官僚政治は學究政治である、其スタイルに於いて、其臭味に於いて、其細事に詳にして大局を遺忘するの點あるに於いて、其庶民俗流と相對するに於いて、官僚政治は實に學究政治である。

社會僞英

實に獨逸の官僚政治は獨逸名物の最も著しきもの、一つである。其弊は、役所を一寸弊見しても見える、役所の經驗多き當局者すらも、事務の繁冗を我々外國人

に向つて訴ふる次第である。併し、官僚と云ふものは、實に一國の僞英の、大部分である、エリートの、一大要部である。法律と云ふ人爲的模型に依りて確に形造られ、試験と云ふ人爲的淘汰に依りて明白に一種の優者となれるものより組成せられ、其行動は服務規律に依りて限られ、其道徳慣習は其忙はしき業務に依りて限制せられ、實に一たび官吏となれば、中々晝日中酒を飲み、物觀遊山をすることなどは、到底思ひも寄らぬことである。小人閑居して不善を爲すの反對で、彼等が中古時代の僧院生活よりも几帳面なる生活を爲すべく餘儀なくせられ、此餘儀なきが遂に習ひ、性となることは、是れ自然の勢である。斯の如くにして、總べて、是等の特色を具有する官僚は、實に社會僞英の、重要な部分である。

今や熟く獨逸社會の趨勢を觀るに、其社會的中等階級は、稍々として低下の流を趁ひつゝあるやうである。五十以上の人は、多く祖國云々を口にするも、三十以下の者の口からは、殆ど之を聞くべくもあらず。嘗て第十九世紀の末、我輩が下宿して居つた所の貧しき仕立星の主人、ベルクホルツなる者が、一夜舊情を叙すべく其妻兒を擧つて我輩の旅宿を訪問した。此貧しき仕立職、年齢五十五六なるが、開口

一番先づ我輩に話し掛けた言葉は、日露戦争に於ける日本祖國の發展に就いてあつた、彼等の頭腦が今尙祖國を以て充ちつゝあるを見るべきである。さて五十以上と三十以下とが斯の如く時勢の變遷を示しつゝある是時に際し、隨分窮屈なる殺風景なるや、俗なるものとは云へ、獨逸官僚が頑然として中樞的社會的任務を完うするは、此國社會の進運に取りて幾分慶すべく安んずべきものとせねばならぬ。官僚政治の社會的功過を論ずる者、此に心を留めなければならぬことである。

軍人
武士道と
官僚道と

字治川の
先陣を争ふ

軍人は官僚の一層癖ある、一層窮屈なるものであるが、その社會中樞としての功過は、また同様に計測せらるべきものがある。軍人の理想的典型を名づけて武士道と云ひ、以て社會僑英の理想とするのが可いならば、官僚の理想的典型を官僚道と云ひ、一層切實に社會僑英の理想とするに何の不都合がある。支那の所謂士君子、道士の道、君子の道、使ひ易き小人儒に對する、人を愛する君子儒の道は、實に理想的、官僚道に外ならなかつたものである。唯、立食に於ける武士道など、理想的ならざる、見在的武士道の厭ふべきを見抜いた所て、然る後始めて見在的官僚道の俗惡を

非議するの資格も生ぜやう。

七 獨逸の對外活動

華と實

獨逸國是

以上の如く、多少の長短得失はあるが、要するに獨逸帝國は、最近二十年間に於いて蓄積せる社會的活力、茲に大に華と實とを結び、活力内に溢るれば、復た必ずや外に活動せざるを得ぬ。實に近頃、に於ける獨逸の對外的飛躍は、最も注目を値する。獨逸は千八百七十一年以來、一個の大なる國是を立て、分立せる諸の小國を聯合して獨逸聯邦と成し、普魯西はこの聯邦を率ゐて一個の獨逸帝國を造り、此獨逸帝國を以て覇を歐羅巴の中原に稱し、此覇權を以て更に世界的大帝國を造らむとするの大理想を懷くに至りつゝある次第である。其状態たるや、恰も賴朝が其初念一隅に割據し、伊豆一國を得て以て伊東氏に報いむとするに過ぎざりしものが、既にして關東を夷げ、尋て六十六國の總追捕使となつたと頗る相似たる所の史實である。

今少しく獨逸最近の政策を一瞥して見やう。フリードリヒ大王の時に、土耳其のムスタファ三世は、埃太利及び露西亞に敵對して普魯西に結んだが今は獨逸のカイゼル・キルヘルム二世陛下は、耶蘇教國に對抗して土耳其王アブダル・ハミツド陛下と結んだ次第である。千八百九十八年の十月、獨逸皇帝キルヘルム二世陛下は、其天を衝くの聲を逆だて、然も殊勝氣にバレスチナなる基督の墓に詣て、合掌禮拜して珠數を爪繰つた其旅行の歸り途に、珠數を爪繰れる其手を翻して震天動地の外交的大經綸を實行されたのである。我輩は千九百十年三月中旬、土耳其の君斯坦丁堡に遊び、其市のスルタン・アメッド寺の前に据ゑ付けたる、獨逸皇帝より其當時寄附になつた所の大なる淨水盤を見て實に獨逸皇帝の活殺自在なる外交的襟度を欽羨措く能はざりし次第である。淨水盤は回教徒に取つて極めて神聖なるものである。斯の如くにして獨逸皇帝は、全耶蘇教國に對抗するの價を拂つて、土耳其の君民の歡心を得、而してバクダッド鐵道敷設の權利を獲得するの第一石を下した次第である。

バクダッド鐵道

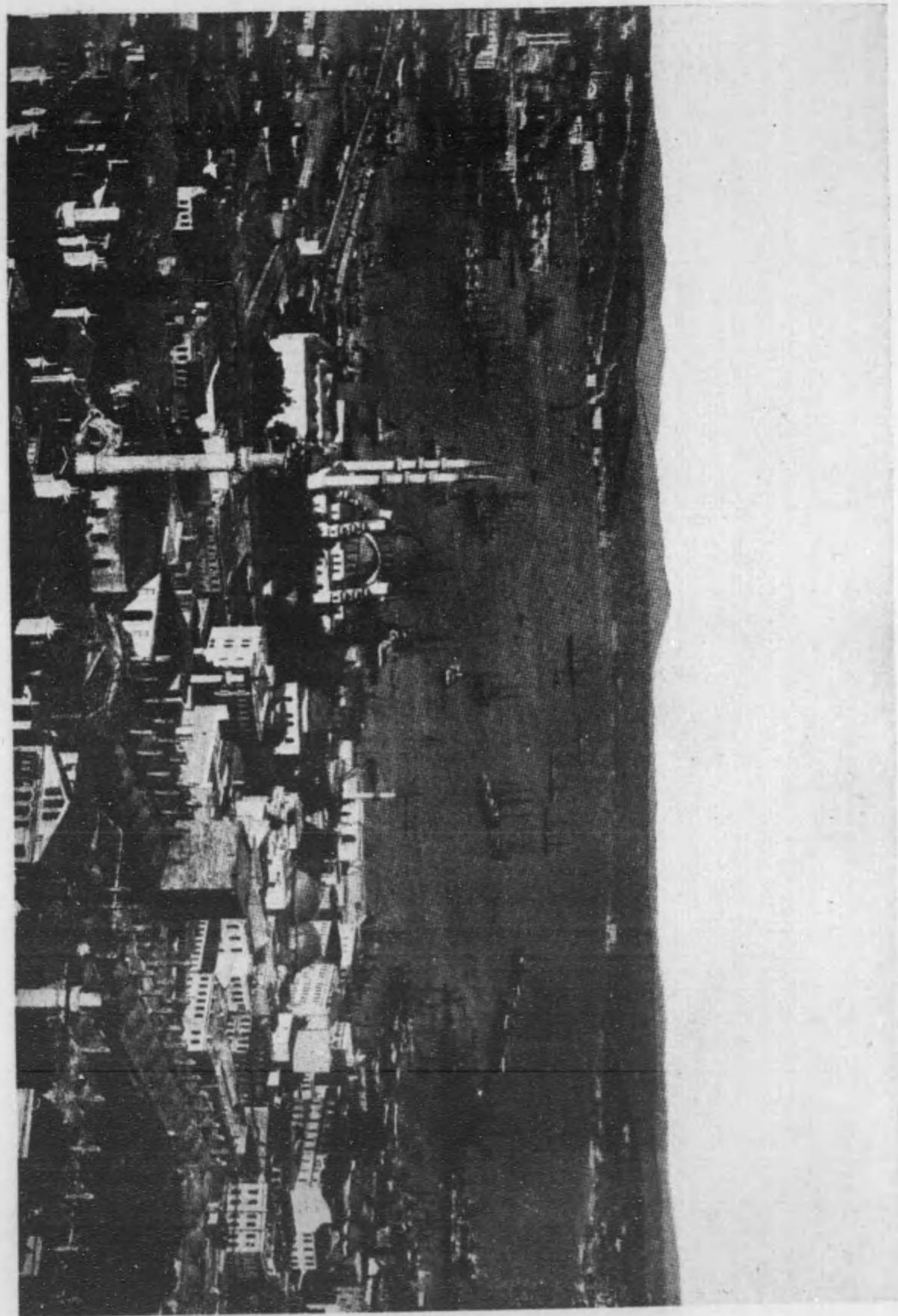
果せるかな千八百九十九年十一月二十七日、土耳其政府と、前獨逸銀行總裁、アナ

此鐵道は何物

大動脈

トリイ鐵道會社長、シイメン博士との間に協約は成立し、千九百二年一月十六日を以て敷設實行協約は成立したのである。然るに此君にして此臣ありて、千九百三年、ピウロフ首相は國會に於いて演説し、我獨逸の政策は、決して自働的に非ず進取的に非ず、と言ひ抜けて居るのである。其白々しさ加減は、如何にも五代目の辨天小僧の貫目十分で、眞に政治的演劇の上乗なるものと云はねばならぬ。况や千九百年佛國巴里に於ける世界大博覽會の獨逸工藝館の門に掲げられたる額には、獨逸皇帝の有名なる句「吾人の將來は海上に在り」如何にも獨逸皇帝の兩刀遣ひの達人たる宗教と外交海上と云ふ額を掲げて置いてバクダッド鐵道と云ふ陸上の大成功をするなどは、實に手の離れたる藝當と云はねばならぬのである。

茲に少しくバクダッド鐵道の何物なるかに就いて諸君の注意を惹かう。抑、バクダッド鐵道は、北海上に於ける一大商港、漢堡より、君斯坦丁堡を経て、直に波斯灣に至る所の、其大鐵道幹線の亞細亞方面の全部を形造るもので、その長さ三千五百軒以上、價格にして一億六千萬圓以上を要すべき、世界の大なる幹線鐵道の一つである。其過ぐる所の地域は、現今世界文明の大動脈ともいふべき、漢堡、伯林、ドレスデン、ブ



歴山大
と維廉二

歐洲と
印度の
連絡

極めて
富める
地域

ラ、ア、グ、維、也、納、ブ、ダ、ベ、ス、ト、君、斯、坦、丁、堡、を、北、よ、り、南、に、縦、貫、し、來、り、實、に、數、千、年、來、眠、れ、る、西、洋、古、代、文、明、の、地、域、に、向、う、て、進、み、入、る、の、で、此、地、域、に、向、つ、て、有、形、無、形、西、洋、文、明、の、血、液、と、精、華、と、を、以、て、復、活、の、活、を、入、れ、る、も、の、が、即、ち、此、バ、ク、ダ、ド、鐵、道、で、あ、る。地、學、者、ジ、オ、ジ、ス、ミ、ス、は、古、バ、ビ、ロ、ニア、王、國、の、榮、え、た、時、分、の、バ、ビ、ロ、ン、一、市、だ、け、の、人、口、を、八、百、萬、と、算、當、し、て、居、る、の、で、あ、る。所、謂、チ、グ、リ、ス、河、ユ、ウ、フ、レ、エ、ト、河、の、流、域、世、界、最、古、の、繁、榮、な、る、文、明、國、家、の、あ、つ、た、地、域、を、此、大、鐵、道、は、過、ぐ、る、次、第、で、今、日、に、於、い、て、も、苟、く、も、之、が、適、當、な、る、經、營、を、經、る、な、ら、ば、忽、ち、に、し、て、繁、榮、な、る、商、工、區、域、と、化、す、べ、き、は、疑、ふ、べ、か、ら、ざ、る、次、第、で、あ、る。且、此、線、路、は、印、度、に、向、つ、て、歐、羅、巴、か、ら、の、新、し、き、而、し、て、最、も、短、き、道、で、あ、る。但、し、昨、年、十、二、月、の、初、に、英、露、の、間、に、協、約、せ、ら、れ、た、る、所、の、波、斯、鐵、道、は、幾、分、之、に、影、響、を、及、ぼ、す、が、併、し、な、が、ら、其、影、響、は、好、き、影、響、と、云、ふ、の、外、は、な、い、の、で、あ、る。バ、ク、ダ、ド、鐵、道、の、經、過、す、る、地、域、は、一、言、に、し、て、い、ふ、な、ら、ば、其、昔、歴、山、大、王、が、東、方、經、略、を、試、み、た、る、其、道、を、再、び、開、く、も、の、と、云、つ、て、宜、い、の、で、あ、る。バ、ク、ダ、ド、鐵、道、の、政、治、的、經、濟、的、及、び、文、明、的、意、味、の、重、要、な、る、こ、と、は、是、に、て、も、略、明、か、て、あ、ら、う、と、思、ふ。

歐亞の咽喉。

土耳其國、君斯且丁堡府、

及其附近なる、ボスフォルス海峡を隔てし、

亞細亞對岸、スキュタリ

及ハイダル・パシヤを望む。逶迤たる山勢、

呼べば將に響へむとす。ハイダル・パシヤに、

獨逸の經營にかゝるバグダッド鐵道會社、

起點停車場の宏壯なる建築、

海墻を築して建つ。獨逸皇帝の眼底、

既に歐亞の咽喉なし。

鐵道經營

さて此大鐵道は、其經營上から見ると、之に關係ある線路は總べて四類ある。即ち純然たる獨逸の勢力の下、獨逸人の事業としての會社の線路が四千四十軒、それから獨逸の管理の下に在る會社の線路が二千五十七軒、獨逸の勢力の下に立ち得る諸の線路が二千三百五十八軒、而して全く獨逸人の勢力以外の會社の線路は僅に五百五十一軒に過ぎないのである、更に之を精細に表として掲げて見やう。

第一類 純獨逸會社

サロニキ—モナスチイル

二二〇^軒

アナトリイ會社線

一〇二〇

内 ハイダル、パシヤ—イスミット

九一

内 イスミット—アンゴラ

四八五

エスキイ、ケヒイル—コニア

四四四

コニア—波斯灣(コウエト)

二八〇〇

第二類 獨逸管理會社

オリエンタル諸線

九五八

獨逸社會の過去及現在

世界列國の大勢

メルシナー—アダナ
 スミルナー—カッサバ及延長
 スミルナー—アイデン

第三類 獨逸勢力の下に立ち得る諸線

ヘヂャツ線

パイロイト—ダマス

ダマス—ムセリッブ

ラヤク—ハマヤ

サンジャダクル—ダマス

ジャファ—エルサレム

第四類 非獨逸會社

サロニキ—君斯坦丁堡

ムダニア—ブロッサ

斯くて北漢堡から南波斯灣のコウエトに至る、中間要處々々の距離は左の如く

六七
 六一六
 五二〇
 五二六

一六〇〇
 一五五〇
 一〇三〇
 一八八〇
 二五三〇
 八六〇

五一〇
 四一〇
 五五一〇

である。

漢堡

伯林

維也納

ブダベスト

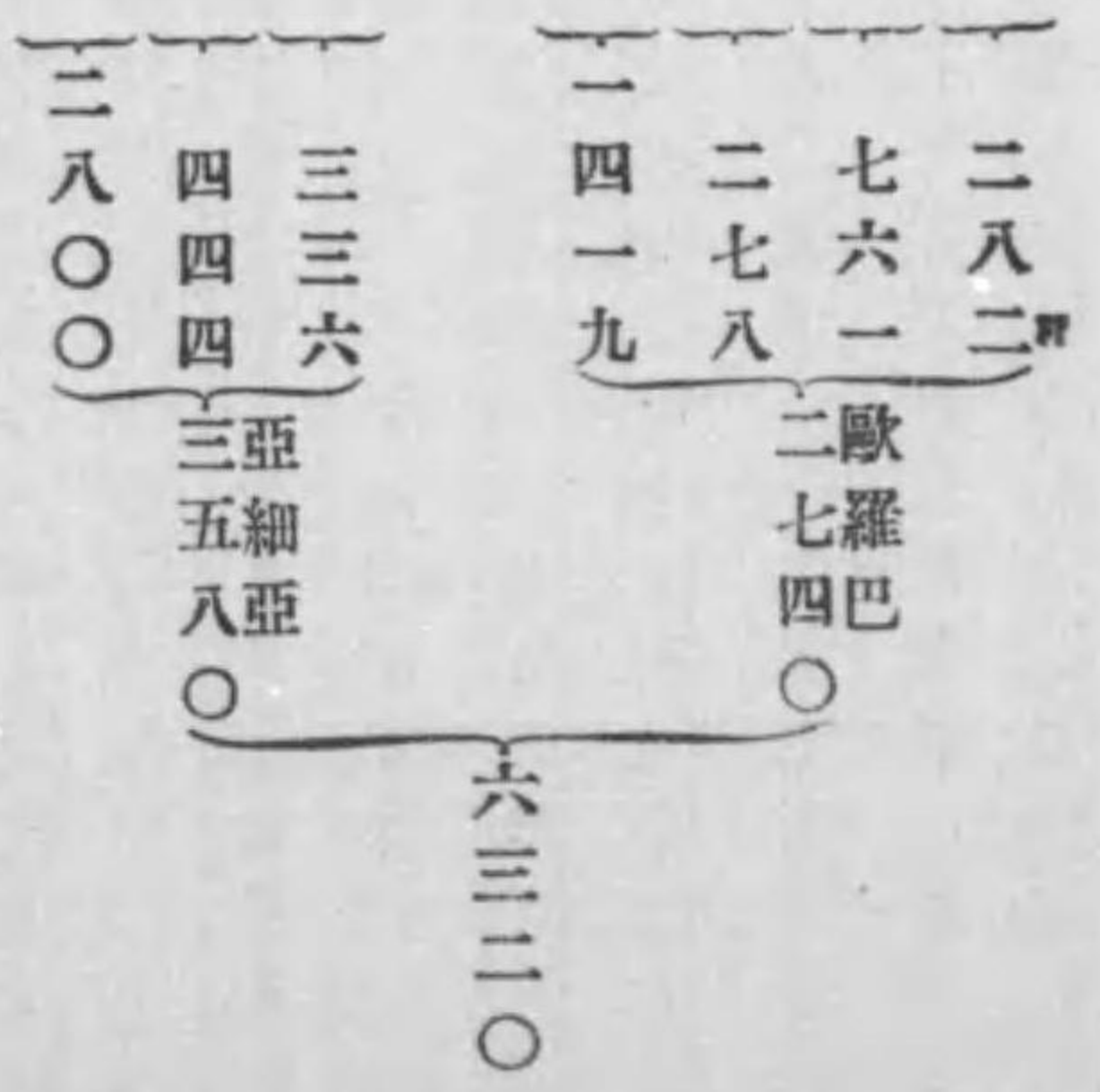
君斯坦丁堡

ハイダル、バシヤ

エスキイ、ケヒイル

コニア

コウエト



漢堡若くは伯林より波斯灣頭に達するに、其距離は恰も北米横断に匹敵する、將來三晝夜にして達するは、さまで困難ではないのである、尙獨逸民族の經營に依る所の線路にして茲に洩らすべからざるは

ニス(セルヴァ)——サロニキ

獨逸社會の過去及現在

三六〇

三六〇

の二線である。是等は歐洲の中原に國するものが地中海の東部、多島海を制馭する所以の要具である。

波斯灣の覇權

之を要するに、パクダド鐵道は實に波斯灣の覇權を握る所の最も重大なる勢力である。東半球の中央を貫通する所の一大勢力である。東半球の中央に於いて將來若し大帝國が起り得るならば、此大帝國の大動脈となるべきものは即ち此パクダド鐵道である。其意義の重要なことは實に測り知るべからざるものである。

南米經營

併しながら獨逸最近の活躍は、唯一つのパクダド鐵道に止まらずして、尙一つ極めて重要なものがあるのである。それは即ち獨逸の南亞米利加經營である。

五種の事業

獨逸の南米經營の目的は、政治的及び商業的の二點に在るが、併しながら此二點は畢竟一に歸する次第で、決して相矛盾せぬ。此目的を達するが爲に獨逸が執つた手段事業は、普通に見る所の植民に非ずして、左の五つの事柄に存する。一つは太西洋の航路開始、事實に於いて太西洋の海上事業は、殆ど獨逸を以て最大有力者とせねばならぬ。殊に南亞米利加に向ふ所の大なる航路は、實に獨逸の掌中に存す

米國と獨逸

る。二つには銀行業の經營、三つには電車、電燈、水道、其他の種々の工務經營、四つには投資事業、五つには各種の商業的發展、此五種の事業手段に於いて、獨逸人の南米經營は今や堅確に進行しつつある次第である。

獨逸の南米經營に對する前途の妨障となるべきものは、實に北米合衆國である。實に南米に於いて北米合衆國は獨逸を煙く思ひ、獨逸は亦北米合衆國を以て最も有力なる競争の敵としつゝある。次に又亞米利加の大陸に於いては、凡米主義、パンアメリカニズムと云ふ一種の主義が行はれて居る、即ち亞米利加總體の聯合と云ふ主義である。是れ亦尠からず獨逸の南米經營に向つて前途の妨障をなすべきものである。凡米主義の外に、凡イペリヤ主義、パンイペリヤニズムと云ふのがある。是は西班牙人、葡萄牙人を以て主腦と爲し、亞米利加、少くとも南亞米利加は、イペリヤ半島からの植民人の子孫、即ち西班牙人、葡萄牙人の南亞米利加とすべしとの主義であるけれども、獨逸人の眼中には、此主義は無いのである。斯かる多少の妨障のあるにも拘らず、獨逸人は著々として南米經營の事業を進行しつつある。現今に於いては、南米に於ける獨逸人は、ブラジルの南部に四十萬あり、其他は多少各

南米に於ける獨逸人

獨逸と以太利

地に散在し、今尙孤立の状態に居る、而してブラジル南部の獨逸人は、其増殖の數が實に著大なる率を呈して居る。數から云ふと、以太利人の南米に植民せる數は既に二百萬に達して居る、以太利の識者例へば教授、議員、且社會黨の領袖フェルリ君の如きは非常に樂觀を有し、一昨年六月九日、以太利の議會に於いて、以太利の南米經營の忽せにすべからざるを論じ、以太利の社會黨をば、國民的國家的社會黨と變形せしむるまでに至つた次第である、が併しながら要するに、これは以太利の將來に取つては重大なる關係があるけれども、若し夫れ南米其者を主體として考察するならば、獨逸人の以太利人よりも遙に重要なことは言ふまでもないのである。日本人の南米に於けるは如何の状態であるか、之に關する情報は種々である、又之に關する意見も種々であるが、是は慎重なる調査研究を待つて、而して後に斷ずべき事と確信する。

米國の外

然るに斯の如く南米に於ける獨逸人の勢力が隆々たるに對して、其實競爭者として立つの止むべからざるの勢あるに拘らず、炯眼なる北米合衆國の外政家は、既に日本に先だちて、獨逸の心を得るの必要に著目して居る次第である。南米に向

變遷の獨逸

獨逸と羅馬

つて事を爲さうと思ふものは、獨逸と手を握ることが極めて必要である。我國の外政料理家は、是等の點に就いて、果して如何なる考を儲へて居るのであるか。

八 結 論

近世二百年、其後最近世の百年、更に最近の二十年、就中最近十年、獨逸の社會は、實に變遷進歩して須臾も停まらず、其間波山あり、波谷あり、波瀾疊出、殆ど人をして應接に遑あらざらしむる間に、實に其成敗得失の迹、史を讀んで興味を感ずる者をして、驚心駭魄の感に堪へざらしむるものがある。獨逸帝國の變遷は、實に社會變遷の活劇である。羅馬が紀元前七世紀に其國を肇め、紀元前五百九年を以て、タルキヌスの退位と共に七王の時代は終を告げ、而して羅馬共和國は茲に開かれ、爾來二百年に亘りてビュウニク戦争あり、カルタゴとの競争角逐、時にカルタゴの侵入を被り、殆ど自家の存在をも危くすることもあつたとは云へ、堅忍不拔、倒れて復た起ち、遂に克く外敵を夷げ、紀元前百四十六年を以て、此強大なる外敵を全然滅亡に歸せ

しめ、而して同じ年を以て更に東、希臘を略し、是に於いて羅馬の勢威は破竹の如く、爾來八十年間を以て、羅馬共和國の地中海を湖水とするの大膨脹大發展は、略、其功業を成したのである。獨逸の國運の發展成功は、未だ當年の羅馬に及ばず、雖も其變遷進動に於ける目覺しき歴史上の事蹟は、殆どいにしへ羅馬勃興の勢を想ひ起さざるを得ぬものがあるのである。

社會の少壯中老

併しながら社會にも亦往々にして、少時壯時、中年時、而して老年時のあることがあるのである。獨逸は少くも今や少時を過ぎて居る、恐らくは今復た其壯時を過ぎむとしつゝあるのではなからうか。

獨逸の將來

然らば、則ち獨逸の將來も、實に其中年期の永續如何に繫つて居る。但し近き將來に於いて、獨逸は益志を得るであらう、而して此中年期を永續せしむるの根柢的勢力となるものは、實に獨逸の教育である、實に獨逸の官僚組織である。



路易西皇后

「水城生獨國に入り伯林に遊びて然其社會文物の實勢を觀、深く其興隆の由來を察して、聊か得る所ある者に似たり、顧て家國百年の運命を想へば、遺た感慨に禁へざる者なきに非ず。秋風落葉、雲傷心の色、客窓書を讀み罷んで、獨り筈を巴朗丁堡門下に曳けば、亭然たるザクトリア、新興帝國の歴史と國運とを語りて、遠來遊子の襟懷を憐む者の如く、惡々たる冷風チエアガルテンの枯林を掃つて、轉た凄其の感なきを倍す。蓋し一國一人を以て起り一人を以て亡ぶ、…然りと雖も天の將に大任を是人に降さむとするや、必ず先づ其心志を苦しめ其筋骨を勞し其體膚を餓し其身を空乏にす、個人と國家とに論なきなり、是を以て虞舜は父の頑、弟の愚に困阨して遂に四海を有ち、文王は羌里に拘せられて、紂の帝業を成り、希臘には波斯二百萬軍の襲來あり、羅馬には貴族の專制壓虐あり、皆大に其内に在る所の者を淬礪振作して其大發達を促進する所以に非ざるはなし。今や新興の普魯西王國亦此運命に遭遇せり。佛國革命の爆發、餘力を域外に縱にして、全歐の平和を破れ、東僅にライン一帯の水を隔つる北獨逸の諸邦は直に兵禍を蒙り、…時利あらず、戰敗れ、普魯西王國亦竟に雌伏の屈辱を蒙りしも、王布烈的立維廉第三世及皇后路易西、賢にして人を愛し、民心會て離畔せず、國本却りて鞏固を致す。驕陽烈日遂に能く久しからず、那玻璃の没落と共に中歐の形勢俄然として其面目を一變し、而して干戈落々の間に賢明なる父王、淑徳ある母後の教育を受けたる好望の王太子は、やがて嗣立して普魯西王の位に即き、獨逸人が誇揚頌讚の套語たる「戰勝光榮の九十一年」は茲に始まり。――」

十年前の拙著『西遊漫筆』

第四 奥匈國の地位

一 地位

奥匈國の地位は、ドナウの中流を控へ、正に歐洲中原爭奪の地にして、地勢廣濶、土地肥沃、強國之に據れば彌々強く、弱國此に居れば倍々弱しといふべき地勢である。第十五世紀に土耳其は其滔天の勢を以て、ドナウの流域を遡り、直に歐洲の心腹を衝き、長驅して奥國の國都維也納を圍んだことがあつた。今日維也納より汽船に搭じてドナウを下るときは、奥太利と匈牙利との境なるブレッサブルグの險要を踰えて以後、殊に當年の土耳其人の侵入せる遺跡の、歴々として兩岸の山頂山麓に指點すべきを見るのである。

奥太利は地形恰も帶の如く狭小にして、南西より次第に東北東南に趨り、正に之

歐洲中原
爭奪の地

奥匈の地
形

奥匈國の地位

海の不足

と相反する地形楕圓形若くは弧三角の形を成せる匈牙利を包むの形に於いて在る。而して奥國匈國とも海岸線の極めて短き點は全く相同じい故に兩國共に海上の覇者たるには全然不適當である。即ち其陸に於ける農業上の富其住民の勢力は假令侮るべからざるものありと雖も之にして若し海上の力あるものと結合するにあらずんば世界的の強さを爲すには餘り多くの希望を繋ぐべからざるものと云はねばならぬ。

ドナウの
大江

ドナウの大江は歐洲第一の大河にして、其源を獨逸の南方シツルツワルドの山中に發し、更に巴威里の境域を横斷して、奥太利に入り、匈牙利を經、而して巴爾幹半島を貫流して、東の方黒海に注ぐのである。奥國の域内に入りては、其幅、其水量共に大に増し、其航海上の便利に於いて、及び其灌溉上の洪益に於いて、歐洲では殆ど他に比肩すべきものなき重大なる効果を地理上に與へつゝある。されば奥國の形勢は、又一つは此の川を理解することに依て領かるゝものがある。北の方奥國と獨逸との境は、必ずしも險峻踰え難き山あるに非ず、唯、ザクセンの方面に向つて、七年戦争を以て有名なる七峯山ジョイエンシュベルグ及び之に接續せる山脈が重疊せる爲に、幾分

山嶽

淹留八旬

天然の國境の形が無いでもない。併しながら斯の如きは今日としては殆ど言ふに足らざるもので、寧ろ西方チロオルの山中よりアルプスの本據たる瑞西に續く所の地勢が、一層險峻なりと云ふが適當であらう。西南以太利に向つては、又アルプスの裾が天然の境域を形造りつゝある、併しながら帶の如きアドリアチック海を隔て、相對する奥太利と以太利との海岸線は、踰ゆべからざる境域を成すには、餘りに狭く餘りに近いのである。故に以太利と奥太利との勢力若くは民族の交渉が、此方面より盛に行はるゝは、自然の勢で之に向つて奥太利の政治、經濟、其他社會上の關係に少からざる影響を受け、若くは他に被らしめつゝあるのである。年の十二月十四日の早曉を以て伯林を辭し、行々エルベ河畔の雪景を賞し、街燈寒き夜二更、維也納に入る。曾遊は一八九九年の夏、僅に二週間、此度はワイナハト、ノイヤアルをもかけて居り、淹留遂に八旬に及んだ。

二 人 民

奥匈國を理解せむとする者は、其人種の分布の著しく複雑なるに、先づ尠からざる困難を感ぜねばならぬ。我々は繁雜を忍んで暫く此國の人種及び其分布を見ねばならぬ。

今奥太利の人口に於ける百分比例を擧ぐれば、獨逸人三五七八、ボヘミア人二三二四、波蘭人一六六、ルテニア人一三二一、南スラブ人四六五、セルヴィア人二七七、以太利人二八三、ワラック人〇九といふ比例を示して居る。即ち奥太利は往々獨逸人の國と見誤らるゝが、其實獨逸人は僅に奥國人口の約三分一に過ぎざるを、牢く心に留むべきである。

さて匈牙利に就いて見ると、是は稍純粹なる所がある、即ち百分比例に於いて、匈牙利人即ちマジアル人四五四、獨逸人一〇一、スロヴァク人一〇五、ワラック人一四五、ルテニア人二二二、クロアチア人八七、セルヴィア人五五、其他雜が二一といふ比例を示して居る。

斯の如く、奥匈國は、孰れも極めて複雑なる衆人種より成立して居る。其社會的利害得失は、言ふまでもなく極めて不便不利なることであるが、併し匈國は、未だ過

半数には至らずとは云へ、匈牙利人が比較的極めて優勢を保ち、其勢力に於いては匈牙利人と對敵すべき獨逸人も、匈牙利人の四分一に充たず、ワラック人は其三分一に達すと雖も、是れ固より匈牙利人と相拮抗するに足らず、乃ち匈牙利は、此點に於いて幾分の利益を有して居ると云うて宜い。然るに奥太利では、獨逸人の數總數の約三分一にして、之に亞ぐ所のボヘミア人は、獨逸人の三分二に達して居る、而してボヘミア人は、スラヴ人種の有力なる一民族にして、數の比例と殆ど同等の力を以て、獨逸人に拮抗すべき勢力を有して居る。波蘭人は獨逸人の約半数に達し、是れ亦有力なるスラヴ人である、即ちボヘミア人及び波蘭人を合算するときは、優に獨逸人を凌駕するに足るべく、斯の如く、奥太利に於ける獨逸人の勢力は、到底匈牙利に於ける匈牙利人即ちマジアル人の勢力に較ぶべくもあらぬ、即ち人種關係上、奥太利の社會は、匈牙利に比して一層大なる不利益を見つゝあるものと云はねばならぬ。是に於いて匈牙利は、此點のみより奥太利に對して多少の小野心を儲へざるを得ぬ、併し此小野心こそは、匈牙利に取つて實に大なる損失たるべき端緒であることを考へねばならぬ。

匈牙利人
獨逸人

ボヘミア
人等

各人種の
消長

今絶對數に就いて見ると、少し古い千九百年の統計を擧ぐるならば、埃太利に於ける獨逸人は九百十七萬、匈牙利に於ける匈牙利人は八百七十四萬、而して匈牙利に於ける獨逸人は二百十四萬であるから、埃匈國に於ける獨逸人は實に千百三十一萬を算し、即ちマジャル人よりも約四分の一だけ實際多いのである。之に亞いて有力なるはボヘミア人五百九十六萬、波蘭人四百二十六萬、ルテニヤ人埃匈國を通じて三百八十一萬、セルヴィア人埃匈國を通じて百七十六萬、ワラック人同じく埃匈國を通じて三百三萬、スロワアク人二百二萬といふが如き順序を示して居る、即ち埃匈國總體に就いて見れば、獨逸人が最も有力なることは明白である。埃匈國の聯合に向ふ所の力として、獨逸人あり、聯合に反する所の力として、匈牙利人あるが、此人口分布の實情よりしても、此事は半推測せられ得るのである。

今又兩國に於ける人口の動態を見ると、千七百八十七年に於いて、匈牙利人は二百三十六萬を算し、其他ワラック人、獨逸人、スラヴ人、クロアチア人及びセルヴィア人總體を以て六百六十四萬を算した、さて千八百五十年には、匈牙利人五百萬、ワラック人二百三十萬、獨逸人百七十三萬、スラヴ人百八十萬、クロアチア人及びセルヴィア

マジャル
人の
匈牙利
人口増加
率

人二百三十萬を算し、千八百八十年には、匈牙利人六百四十八萬、ワラック人二百四十二萬、獨逸人百九十六萬、スラヴ人百八十七萬、クロアチア人百四十萬、セルヴィア人九十六萬を算する。されば嚮に掲げたる千九百年に於ける人口をも併せ觀て、匈牙利人即ちマジャル人は、千七百八十七年に總人口の百分比二・六二なりしものが、千八百五十年には實に三・七八を算し、千八百八十年には四・一二を算し、千九百年には四・五四を算するに進みつゝある。然るに獨逸人は千八百五十年に一・三一を算したのが、千八百八十年には一・二五に降り、千九百年には一・一一となつて居る。其他クロアチア人のみが千八百八十年の八・九より僅に八・七に降れるの外、ワラック人の如きは千八百五十年の一・七四より一・四五に降り、スラヴ人は千八百五十年の一・四六より一・〇五に降り、セルヴィア人は千八百八十年の六・一四より五・五に降りつゝある。即ち匈牙利が次第に匈牙利人即ちマジャル人の匈牙利となるの勢に進みつゝあることだけは、此人口統計を以て先づ確かであると云はねばならぬ。

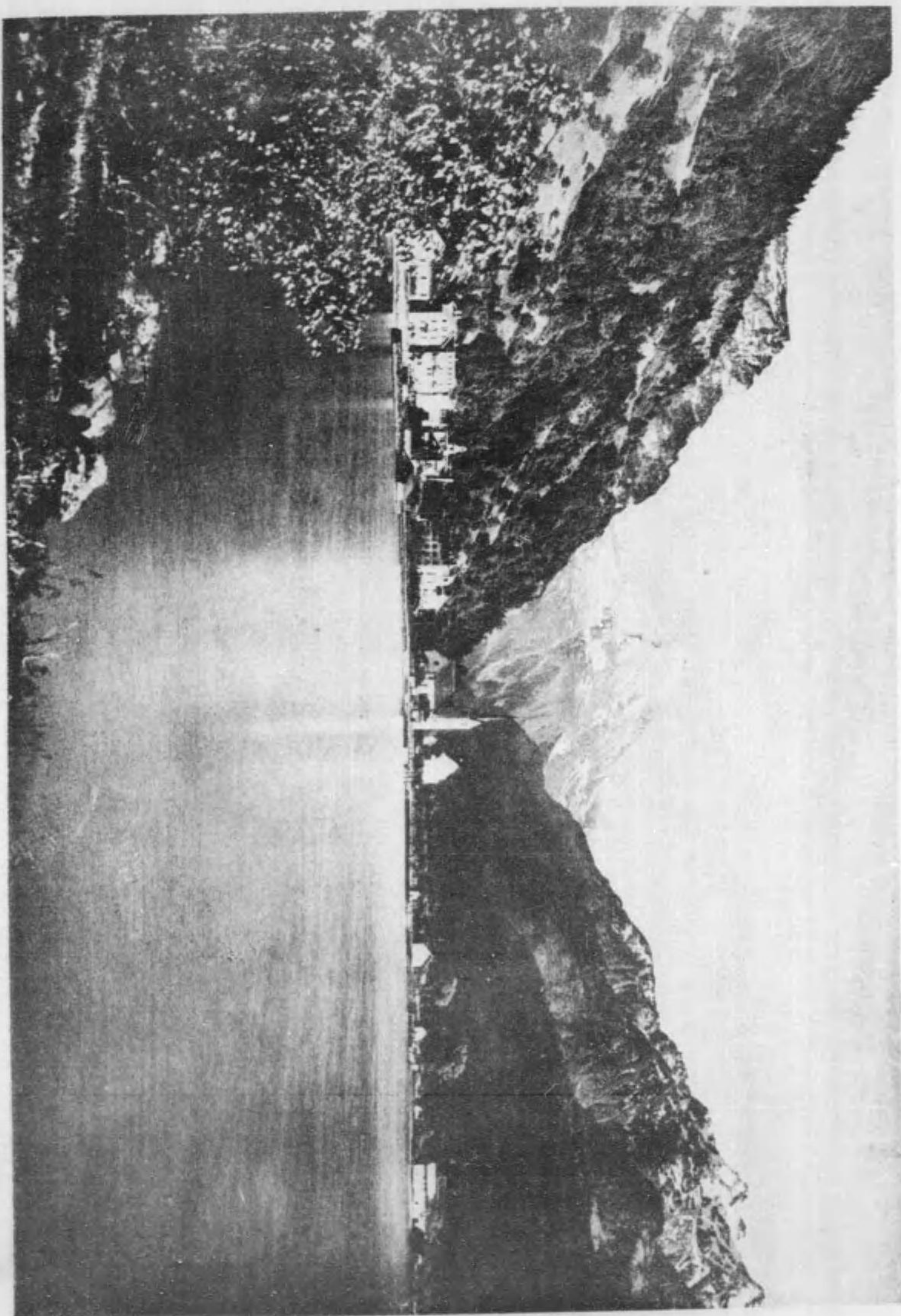
斯の如き數を示すには、人口増加率も亦十年一期として見ると、左の數を示して居る。千八百八十年より九十年までの十年間に於いて、匈牙利人の増加率は百分

の一五二、ワラック人は七七、獨逸人は八二、スラヴ人は二四、クロアチア人及びセル
 ヴァ人は一〇九、千八百九十年より千九百年に至る十年に於いて、匈牙利人即ちマ
 ッル人は一六九、ワラック人七四、スラヴ人五一、クロアチア人七五、セルヴイア人一三
 而して獨逸人は實に〇三の極めて微小なる増加率を示して居るのである。乃ち
 匈牙利が實に匈牙利人の匈牙利となり、殊に非獨逸人の匈牙利とならむとするの
 勢は、最近に於いて益々駭々たる情勢を示して居ると云はねばならぬ。

實に人種及び國語の種々なるはこの國の一大弱點である。國語の問題は内務
 及び司法にも關係するが、主としては教育關係事項である、併し陸軍にても、同一聯
 隊に種々の國語あるが如き頗る困難を惹くことである。奧太利帝國では、一般に
 小學には獨逸小學、スラヴ小學、以太利小學と云ふやうに、各國語別に小學の設立あ
 り、高等小學即ち公民學校にては、例へばボヘミア學校では、ボヘミア語の外に、必修
 科として獨逸語を教へ、ボヘミア語の行はるゝ土地に於ける獨逸學校にては、隨意
 科としてボヘミア語を教ふる、維也納には私立學校があつて、公立學校の生徒は、多
 く放課後此學校にて他の國語を學び、斯の如き方法を以て、國語の相違より來る所

國語の問

奧帝國



瑞西八森湖南隅の濱。

フリユエレン及アリステンストック。

是の如きの江山、

蓋し曾て埃太利の版圖たりしもの。

古稱す、苛政は虎よりも猛なりと、

旨あるかな。

獨逸語の減少

國民主義と民族軋

法律語

の意思の疏通せざるを、幾分匡救せむと力めつゝあるのである。中學にては、生れつきの常用國語の外、或はボヘミア語、或は獨逸語、孰れも隨意科である。

斯くて教育あるボヘミア人種の中に就いて見ると、獨逸語を解する者は、一代前に比べて今は寧ろ減じつゝある。凡そ斯の如きは、固より教育に於いても出来るだけの事は爲しつゝあるけれども、何分第十九世紀の末葉より今世紀に掛けて、國民主義が歐洲一般の趨勢となり而して、民族軋の頗る熾んなるものあるに至つたが爲である。

法律は、國法即ち帝國の法律は、必ず諸々の國語にて之を公布し、而して就中獨逸語を以て準據とする、諸々の國語とは獨逸語、ボヘミア語、以太利語、波蘭語、ルテニア語、ルウマニア語、スラヴォニク語、クロアチア語の八種を含む。州法即ち各地方の法は、各州の人民の話す國語にて之を公布する、例へばボヘミアにては獨逸語及びボヘミア語にて之を公布するの類である、皇帝の裁可を経る場合には、各々の言葉に獨逸譯を添へて上覽に供する、即ち一頁を縦に半分に分けて、半頁に原語を書き、半頁に獨逸語を認むるやうになつて居る。

凡そ諸々の國語の總べて均等なる事、教育上にも各國語の均等なる機會と尊重とを受くべき事、各州の各人種を問はず公民權の同一なる事、公民權ある者は官吏となるに同一の權利ある事、是等は總べて憲法にて明白に規定せられて居る。併しながら何れにしても人種の差別ある事、埃國の施政上萬事に故障を及ぼす一大原由であるが、さて斯かる諸々の民族の調和が次第に有望に向ひつゝ、ありや否やに就いては、未だ容易に樂觀すべき傾向を見ざる次第である。

匈牙利王國にては、國立小學校は、その教授用語は必ず匈牙利語即ちマジアル語に限定せられて居る。マジアル人以外の人種も、國立小學にては匈牙利語を、必修せしめらるゝ、但し宗立學校私立學校は此限りでない。ところで小學校全體を、其教授用語に依て區別して、各々校數を擧ぐれば、匈牙利語即ちマジアル語は一萬二千五百四十八校、ルウマニア語二千六百三十九校、スラヴ語二千五百二十六校、獨逸語四百六十七校、クロアチア、スラヴ、オニツク語二百七十一校。此の如き状態であるから、右の制度を以て匈牙利語即ちマジアル語は、次第に全國民に傳播するや、になりつゝある。而已ならず匈牙利の小學校は、本來國立、公立即ち町村立、宗立及び私立の四通

りあつて、其中宗立が最も多いのであるが、是等は漸次宗教又は町村の希望を利用して國立と化するの方針である。全體國立小學では、建物及び雜費は町村に屬し國は人員の給料を拂ふ、但し建物も國營なるが無いては、殊に貧乏なる地方にては其例が比々として多い。宗立に於いて教育待遇の菲薄なるは最も免れ難い之が次第に宗立が轉じて國立となる所以である。此小學校の國立化政策は十五年來の事柄である、其の實行の順序は、多くは宗立より町村立に移り、町村立より相談に依て國立となるのである。

三 維也納の生活

千九百十年二月二十日の夜、維也納の帝室樂劇座にマルガレエテ曲を見た、千八百九十九年の八月一日より正に十ヶ年半を経て、同じ所に同じ曲を見たのである、此夜皇帝も親臨せられ、中々の嚴かであつた。劇の演じ振りは、伯林ほど浮つきたる態見えず、此十ヶ年間の變遷は、伯林ほど著しきものは無いと感じた。

其翌日元帥フィドル大將の葬儀あり、之にも皇帝の自ら葬を送られたるに會うた。皇帝フランツヨーゼフ陛下の徳の高く渡らせらるゝは今更でもないが、斯かるを皇帝の徳とするの必要ある社會は、孟子などの思ひ當る所であらう、我國では少しく思ひ兼ねる事である。

葬儀見物

葬儀見物とて、二三時間前より詰掛け待掛け、往來を塞ぐを物ともせぬ老若男女幾萬人、さては駄菓子賣り、麵包賣りの、人出を當込み、飯時を當込み、見物の腹の減るのを當込み、辻の隅々に陳列せる、此國の人々の悠長なるは、是等にも現れたりと覺えた。併し都會にては萬事が緩びて居るやうに見受けるが、奥太利の村落こそは、組織も簡に、制度も繁冗ならず、此國の發達の氣運は、田舎にこそ顯著であるやうに覺ゆる、凡べて都會のみを見て、田舎を見ずに、輕々しく其國を評し去らむは、あるまじきことである。

グリンバルツの不入氣

維也納の劇場にて帝室劇場の主任の更迭あり、三月一日から新狂言に移つた、其第一著の藝題として、同夜はグリンバルツのサツフォ曲を出した。さりながら能く調べて見るに、國民のグリンバルツに對するは、今は聊か義務の感じを以て

ファッション

軍備と奢侈に疲れたる國に於ける衰ふ氣

し、眞に熱心なる國民的尊敬を拂ふが爲でないといふことである。是等でも、亦幾分世運の變遷を見るべきである。

一月下旬から、二月、三月の月上旬までは、ファッション季節の最中として、毎夜市中に大小幾多の舞踏會が行はれ、青春より老年に至る男女、皆狂せむばかりである。中には一月中旬の宮中舞踏會、一月二十七日の市役所舞踏會、一月三十一日の官憲舞踏會など、盛なるものと稱へられて居る。總べて斯かる舞踏會の翌朝の新聞には詳細なる記事が掲げられ、其中特に一欄を、トワレットと題して、某公爵夫人の裝飾は、著物何々、頸飾何々、腕飾何々、靴がどう、髪は結ひ様がどう、髪飾が何々、某伯爵夫人は何々云々と極めて仰山なる記事がある、是は正に奢侈の獎勵である。

凡そ今日軍備に疲れたる各國の社會は、如何にするも斯かる奢侈を容るゝの餘地あるべき筈がない。理窟を推せば、どうしてもさう斷定せねばならぬのである。が第十八世紀、佛蘭西や奥太利の宮廷に於ける奢侈の餘習として、かつ傳へかつ新たにして、奢侈の風尚は盛に存續し、而して世人も亦毫も之を思ひ之を省み之を憂へず、見て之を怪まないものである。此現代粧ひにして、舊時質なるは、佛蘭西の共和

粧にして王國質なるに見るのみならず、實に歐洲各國一般の一大矛盾、一大痼疾である。さて社會黨と云ふものが徐々と出掛けて来る。

小巴里
ブラアテ
アヴェネチ
ブルン

維也納は實に小巴里を以て呼ばれて居る、小と云ふもさまで大小懸絶する譯ではない。成程此評は能く中つて居る。試みに維也納の大公園ブラアテルに笛を曳いて見ると、其中央のハウプトアレエ大通り、約我が一里餘に當る、眞直なる、坦々たる大路に、淑女貴公子、所謂公子王孫が肥馬に跨り、銀鞍軽く、今日は更に高尚なる何等惡臭ある燃料を用ゐざる自動車を驅り、車轆々、馬蕭々、日に日に此世の歡樂を縦まにして居る。凡そ公園の制限として、普通の自動車即ち一種の石油質燃料を用ゐる所の自動車は、此ハウプトアレエ大通りを通ることを禁ぜられ、脇の森蔭の細路だけを通るべき事となつて居る。ブラアテルの一隅には、我淺草奥山の如くウオオタアシユット、大車、其他種々の子供らしき大人の見世物遊戯を集めて設備せる、ヴェネチアと云ふ小樂園あり。ブラアテル大公園と相對する都の彼方には、更にシエンプルン、甘泉殿の離宮ありて、其廣大なる森及び森の下道は、皆公園として一般人民に明け開かれて居るのである。是は歐洲各國殆ど皆然りであるが、文王の國

華美なる
風俗

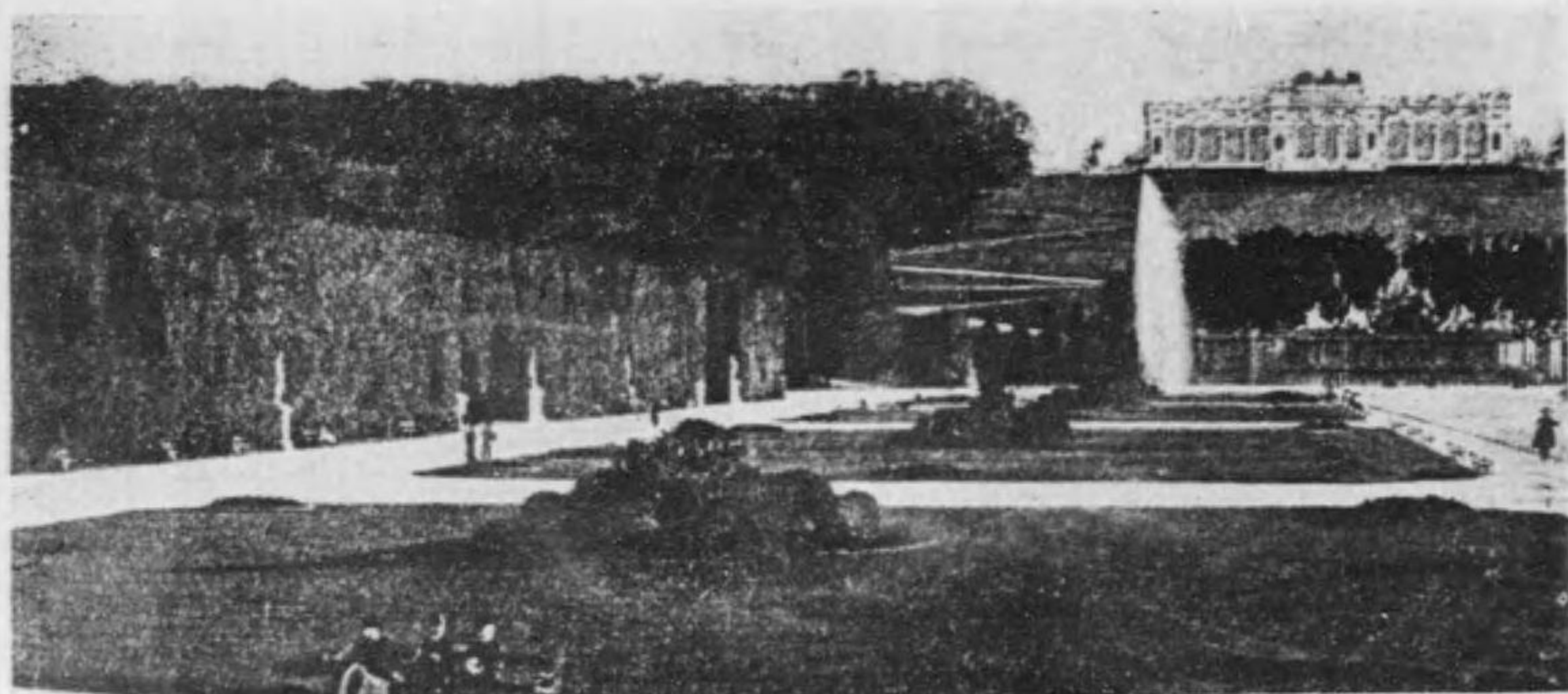
美術

方七十里、民と其樂を共にするの趣ありて、甚だ床しく思はるのである。

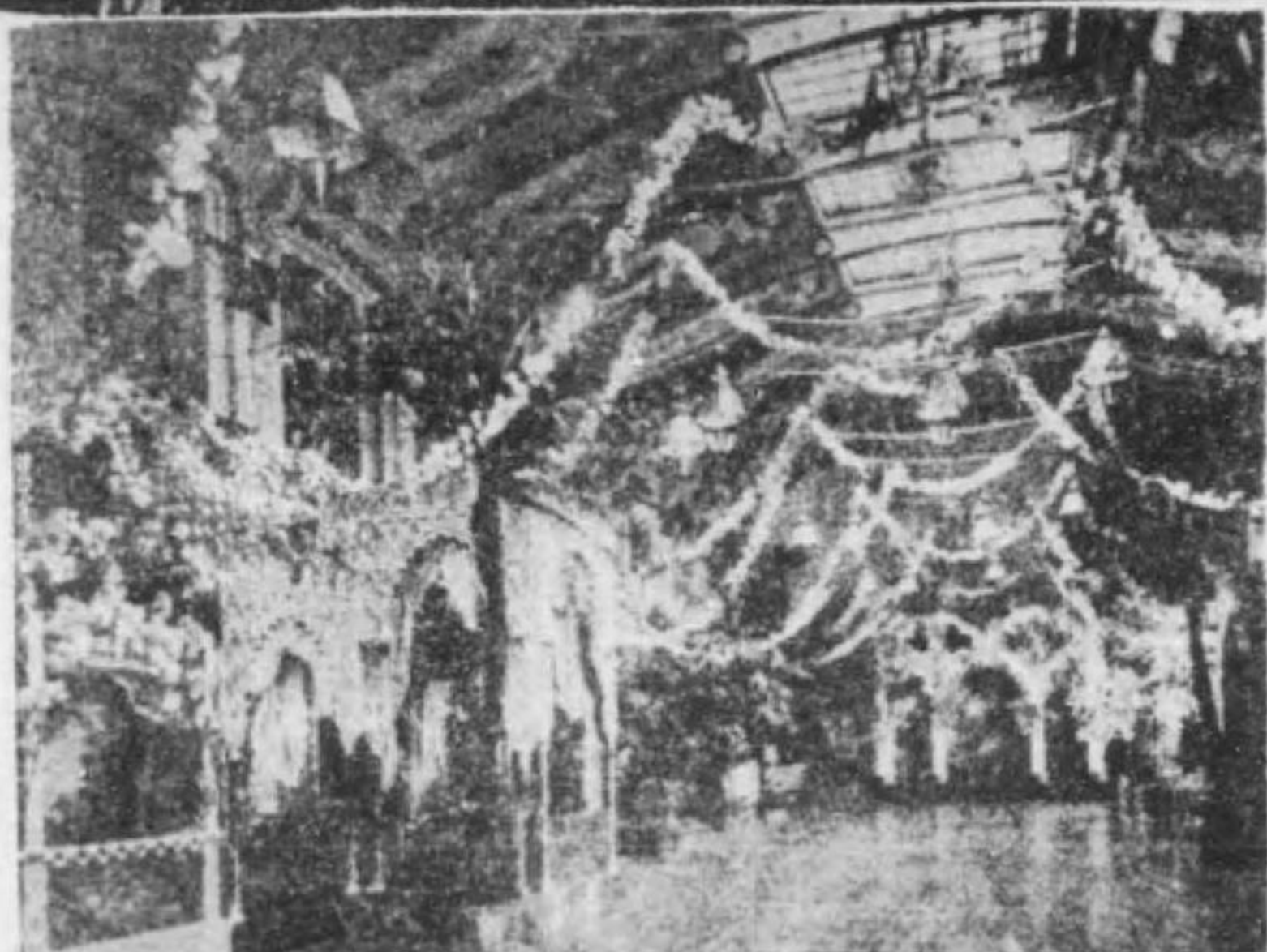
小巴里の風俗は、寧ろ大巴里を壓するかと思はる。ブラアテルと云ひ、シエンプルンと云ひ、及びリングと云ひ、春夏の候、時服既に成るや、三々五々、紅紫絢爛、花かと擬ふばかりの盛装せる佳人が、往々公子と相携へて、鮮かなる新緑の青葱たる下を徘徊する、長安洛陽、寧樂の都の盛時もこれには過ぐまじく、人世の快樂と歡樂とは是に極まるかと想ふばかりである。佳人公子の容貌風采は、此國の特色たる、人種の入り混れる爲もあり、北歐羅巴の純粹ブロンドではなく、目は清らかに黒く、髪も稍、栗色若くは黒味を帯び、丈は必ずしも甚だ高からず、而して皮膚は甚だ艶かなるが故に、人間容貌の美は、正に大巴里を壓すと謂ふべきである。

劇場に於ける趨勢は、既に、少しく觀察したが、更に美術に於ける一種の趨勢は、亦此國風俗の變遷を叙するに於いて見通すべからざる事であらう。セセッションと云ふ私設美術展覽會がある、繪畫の印象派を極端にせる、畫風の何等の沈著なき、畫題の荒涼たる自然に取れるが多き、宗教的畫題の樂にも無き、彫刻の妖怪的なる、象徴的の極端に馳せて客觀の事實を無視せる、其題目の人生の極端變奇的なる、即ち

維也納の全盛

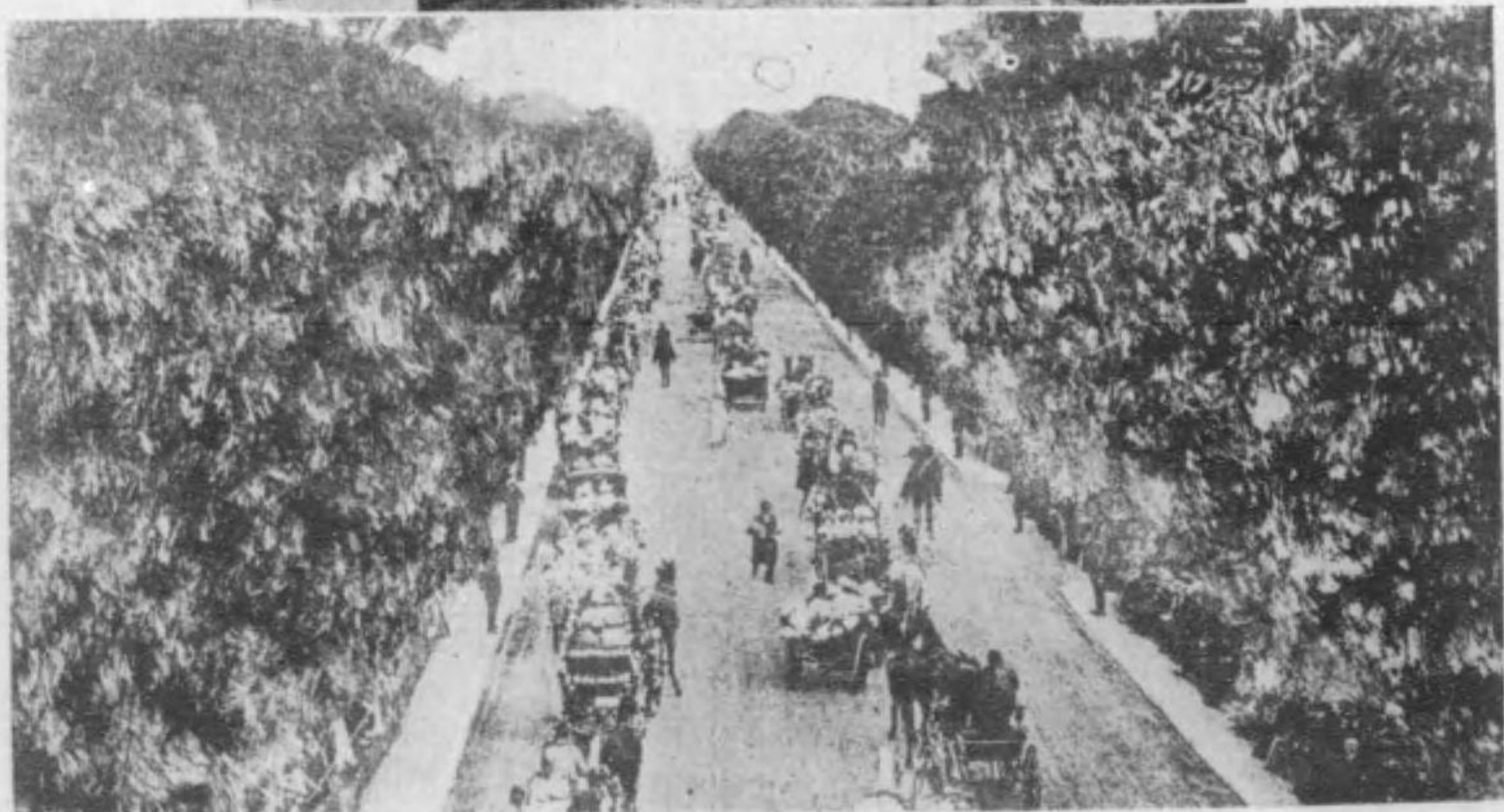


舞踏會場



維也納
シヨエ
ンブル
宮

ブラアテル
公園



主義成品半

宗教の反
古宿り

新聞紙

悲痛、嘆、怒、老、病、疲等に取りれるの激烈なる、孰れも古き美術を以て満足せず、違々焉として新に就かむとし、然も適從する所を知らざるの状を呈するものならざるは、ない、正に是れ現代歐洲文明の象徴其物である。

科學の客觀に忠實なるや、幽を析き微を探る、之に飽き將た之を玩び得ざる者が、往々還て神秘主義などを執る。美術の變遷に在りて、此非客觀、浮き立、不忠實、半成品的なる潮勢は、或は科學界にも遠からず襲ひ來ることが無いであらうか、何とも保證の出來ぬ次第である。かの神秘主義、宗教鼓吹主義は、實に半成品尊重主義である。

クラカウにて、宗教の經典を反古として使用したとて、檢事の告發を受け、大審院にても七日の拘留處分を是認したといふ事實が、一月上旬の新聞に見えて居つた。凡そ宗教が人の心靈に宿らざること、日既に久しく、唯、紙屑や反古にのみ宿るに至れる事實の徴と見えて、寧ろ淺猿しき感じがした。

新聞紙の諄く冗漫なるも、此國の盛衰、國情、民風の反映として、面白い。専門記者徒に多くして、紙面の統一なきの明かなる、此國の官僚政治も稍、其臭がするが、恐ら

くは同一の弊に基けるものであるらしい。併し此國の新聞は、記者は中々立派な
る人が揃つて居るのが多いやうである。二月十二日、世界の外交界に大なる勢力
ある維也納の自由新聞社イェナライエツレヒを視察した全體、埃太利の新聞記者は、大學教育を受け
たる者を主として居る。此社には、四十六人の記者あり、其多數は法學士、少數は文學
士、理學士である。又嘗ては大學教授、音樂理論擔任て、今は此社の音樂記者たる宮中
顧問官ハウスリック氏なども居る。さて是等の記者は、外政、内政、經濟、地方雜事、文
藝等に主任を分ち、其外政も英、獨、佛、露と云ふやうに細かに分れて、各一人の專任記
者あり、内政には埃國、匈國、國會、教育と云ふやうに部門を分けて居る。各記者の下に
多くは補助員があり、記者の外には探訪員あり、是は勿論社員であるが、外に通信社
からも材料を得る。其外又投書家若くは客員といふべき者があつて、是等は其報
道の價值に依て、一行に付十平乃至二十平シロコネ一黒は約我四十二錢、一平は其百分一を
謝儀として受くる。社説は各主任記者が其専門に依て草するを常とするが、亦往
々社外の専門家學者等に囑して適切なる議論を掲載する。斯の如く新聞記者は
一粒選りになつて居るけれども、新聞全體は、どうも統一無く、恰も諸々の講座の割

據せる大學に類するので、此國の新聞は一號百頁以上のものも稀ならず、新自由新聞や維也納新聞の如きは、四五十頁が普通である。要するに新聞紙も亦粗製品である。

四 ブダペストの生活

奥國の首府維也納と匈牙利の首府ブダペストとは、頗る著しき對照がある。曾てこの地に遊びしこと三日、今は三月九日を以て車程四時餘、維也納を辭してドナウ河畔の第一亭、二たびグラントホテル、ウンガリアの客となる。ブダペストは近年著しき膨大を遂げ、遠からず八十萬の人口を算ふるに至るべしと云ふ、しかしそれ、漸く維也納の五分二である。ブダペストの南方、工部大學校の新築せられたる新しき區の如きは、先年千八百九十九年に遊んだ折には、全く影も無かつた所である。併し此土地の人が常に嘆きとする所は、外國人の多く入込まぬことである、如何にも國語の違ふことや、維也納にて外交の用事の足る等、これには種々の原

外國交渉
の不足

因があることであらう。さて其結果として著しきは、此國の人々の理解力に乏しきことである。他人、殊に他國人の意中を忖度するは、亦斯の如き國人の慣れぬ所であるらしい。理解力の缺乏は、概しては、普通教育の不足に因り、又其國の新聞紙の徒らに専門的なる、若くは淺薄なるに因ることであるが、此國にては新聞紙は或はかゝる弱點の一を有するかも知れぬが、普通教育は格別左程でもないやうである、詰まり外國との交渉が淺くて、其國人の稍、世間見ずなるに因ることが多いであらう。

世間見ずの國民に兎角有り勝なる、小なる國民主義は最も此國に著しい。マジヤル語の獎勵は殆ど其極に達して居る。また奥太利に對する小敵愾心が極めて熾である、我輩の會つた紳士に、我等の奥太利人を憎むことは、露西亞人に劣らずなど公言したるものもある。抑、國民主義は、一國興隆の根柢たり、元氣ではあるけれども、世界の大勢を達觀し得ざる、遠大の經綸なき、斯かる小なる國民主義は、其國の維持には多少の效があるかも知れぬが、其國の發展には如何あるべきか、是は頗る考へ物である。小なる國民主義は、其長短殆ど事大主義に、近いものである。

小なる國
民主義

今の匈牙利たるもの、徒らに自から小にして、奥太利よりの分離を考ふるよりは、宜く奥匈國の盟主となることを考ふべきではないか。是は決して架空の説ではない、獨逸人を除いては奥匈國の人民の最も數多く、且つ結合の鞏きは、マジアル人種であるではないか、而してマジアル人の増殖の比例は、實に獨逸人をも凌駕する事實があるではないか。

唯、此國の民が、一般に匈牙利王、即ち奥太利皇帝にして匈牙利王であらるゝ所のフランツ・ヨーゼフ陛下に對して實に親しく、極めて好き感情を持つて居ることは、臨の見る目も心地よき次第である。奥匈兩國の連鎖となり、鏗となり、結合となる大なる中樞は實に老帝老王フランツ・ヨーゼフ陛下の御一身に存すると云はねばならぬ。ブダペストの中、ドナウを挟んで東が山の手でブダであり、西が下町でペストである、其ブダの丘の上、直下にドナウの大江を瞰下す所に國王陛下の宮殿が巍然として建つて居るのである。我輩、此宮殿を拜觀せる際に、最も感じたのは、國王陛下に對する此國民の感情である、陛下に對しては、陛下が人種として、何に屬せらるるか、の如きは、匈牙利國民の眼中に、全く無いので、ある。

ブダペストの發展は、此十一ヶ年間に於いて實に偉大なるものがある。大學はペストの市街の各地に散ばつて居り、それ／＼偉大なる發展を遂げ、工部大學校たりし建物は、今は理科大學の教室となり、而して工部大學校は新たにブダのやゝ下流の方面に建てられ、其建築は宏壯にして、學生三千を容るべく、圖書館の如きは、最も近代式なる書庫及び有ゆる便利にして愉快なる設備を以て、二百四十名をして充分の研究を爲さしむるに足るべき閱覽室を有して居る。農産博物館は、先年は此國建國一千年記念祭の博覽會の一部として、僅に其基礎を置いたに過ぎなかつたが、今は町の森大公園の一部に、儼然たる耐久的建築に、豊富なる材料が秩然たる秩序に於いて陳列されてある。農産博物館に對して甚だ物足らなく感ずるのは、一般博物館で、是は材料は相當にあるが、我輩を以てすれば、其材料の蒐集、殊に排列に於いて世界第一と云はねばならぬ所の、維也納宮城の前、優美高雅なるシンメトライに於いて建てられてある、帝室博物館を觀た目には、餘りに物足らなく感ずる次第である。しかし、匈牙利人が、其利かぬ氣を以て經營せる、其國の首府ブダペストの、近時の發展に、維也納近時の發展をも凌駕して、大に買つてやらねばならぬ所

のある事は、我輩確に之を認めるのである。先年世界に於いて未だ經驗せられざりし地下電氣鐵道を眞先に造つて、我輩にも誇示したが、今は稍舊式とはなつて居るけれども、是が世界の嚆矢であつたと思へば、何となく國民の氣質に對して敬意を表するを禁ずる能はざる心地がする。

さりながら、匈牙利國人は、亦大に自ら用心する所がなければならぬ。我輩は此國の文部省を訪ひ、其他知名の人々に接し、自由俱樂部に總理チッサ伯にも面會し、この國教育の根本主義に就いて、然るべき人々にも會へば必ず問うたことであるが、いつも要領を得ぬこそ實にうたてかりける次第であつた。目前の利害、鼻先の感情にのみ支配せられて、輕舉妄動する國民ほど、デマゴグの喰物となり易きは無い。教育の根本を確に立て、深く國民銘々の腦裡將た腸に浸込ましむる豫言者の未だ此國に出でざることであるのであるか。ヨッスウト、アンドラッ、シイ、詩人、ベト、オフイなどは、未だシルレル、ルイ、イゼエの役には不足であるのであるか。

匈牙利の國人は、我等日本人には極めて親切である、殊に日露戰役に於ける敵愾

教育の根本方針如何

國民的大理想

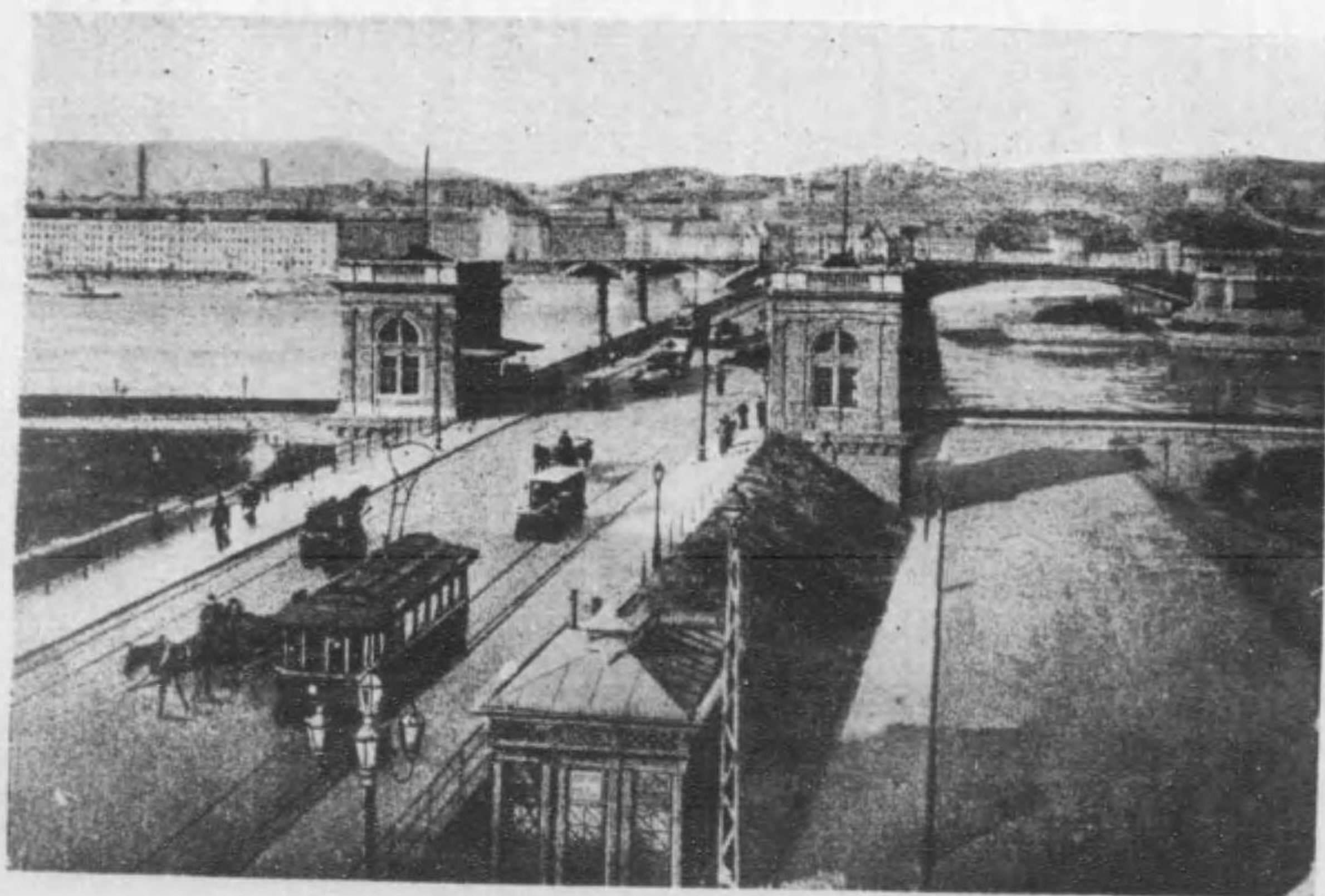
心と同情の念とは、殆ど高潮の極に達したるらしい。されど、此國民の前途を、ト、ふには、日本人としての、右の如き個人的感情から、單純なる判斷を、輕々しくすべきではない、此國民が一層深き一層切なる國民的大理想あるを認むるに、非ざる以上、此國民を目して、中歐に於ける畏敬すべき頼母しき親類とは、爲し難いことであらう。凡そ國民的大理想無き國民は大國民となるを得ず、瑞典然り、那威然り、丁抹は稍優つて居る、斯くて、芬蘭に於いては、事已に甚だ、晚い、匈牙利たるもの鑑る所なくしてはならぬ。

俱樂部生活

ブダペストの俱樂部生活は、歐洲大陸としては頗る注目に値する。三月十二日には、自由俱樂部で前内閣總理、新實行黨の領袖伯爵チッサ君と會見した、非常に多忙なるが中をもよく話して呉れた、是は政治的の俱樂部で、毎夕七時より多數の政客が集まるので、此夜は大小幾百の政客が集まり居り、其中若干の名士と談話を交換するの愉快を得た。其翌日、人民俱樂部、即ちオルサゴスカシノに、田舎の富豪にして法學士なるバツプ氏に招かれた、設備は極めて完全に、會費は餘り高からず、ブダペストに居る者は、會員は一ヶ年百二十黒、在外員は半額、初め此建築は借金で建て

奧匈國の地位

色景の府トスベダブ國利牙匈



新聞紙

世界列國の大勢

三八

たのであるが、今は悉皆償却したと云ふ。廊下と云はず階段と云はず、皆實に借に
楽しみ、隔てなきつきあひの出来るやうに出来て居る。他の客は三度まで會員に
伴はれて行くことが出来る、それからは短期入會の手續をせねばならぬ、入會は會
員二名の紹介を以て、五十名の評議員が之を決する。凡そ此國、此都會にて、是より
も更に優等なる俱樂部といふのは、たゞ華族會館があるだけ、華族會館では、會費が
人民俱樂部の二倍である、猶太人は、別に、俱樂部を有つて居る。人民俱樂部の會員
は今は二千名に達して居る。

ブダペストの新聞は、矢張記者に大學出身者が甚だ多いが、併し必ず然らざるべ
からずと定めてはない、唯、新聞記者たるものは、士君子セントルマンでなければな
らぬ、何よりも充分なる必要條件は品性である。此國にては新聞記者の經濟上の
互助會は既に成立し、今に新聞記者の品性の保障と爲るべき新聞記者會が成立せ
むとしつゝある。

五 奥國の田舎

奥、太、利、及、び、匈、牙、利、に、於、け、る、自、治、村、の、施、設、は、芬、蘭、那、威、丁、抹、獨、逸、に、於、け、る、に、劣、ら、ず、面、白、き、も、の、が、あ、る。

奥太利の内務省からニイデルオーストリアヒスガット、ルテライ下奥州總督府に紹介あり、其參事官デュルフェルド氏より、同州ヒイチング郡長なる州總督府參事官ツァンダル氏に紹介あり、氏は三月二日を以て我輩の旅寓を訪ひ打合せを爲し、三日朝徴兵検査のため同郡ノイレングバッハ町に出張するを以て、我輩を案内せむことを約束した、朝九時二十五分維也納西停車場發車、十時二十九分著車、郡長、及び町長にして州會議員たるレヒネル氏が停車場に出迎へて居る。

町の人口、二千一年の支出、一萬四千五百十四黒四十二平、内、町の諸收入よりするもの二千四百二十四黒四平、其餘は三萬千一黒の直接國税に對し、三割九分の附加税を課して支辨する。右の直接國税は、所得税、地租、家屋税、及び營業税であるが、所

町役場

得税には附加税を課せざるを原則とする。

町の中央なる小さき質樸なる建物が町役場で、停車場からは五分程で達した。二階を町會議場とし、二階下を役場及び小使室に充てる。建坪僅に二十坪くらゐ。役員は町長、書記一人及び小使一人の三人だけ、町長も兎に角毎日出勤する。町長の手當年六百黒、書記は月十三黒、小使は月六十黒である。

町會

廿四歳以上なる者、男子は選舉權あり、此町には無稅選舉階級は無い、大なる町には多くある、是は法律で規定せらるゝ。町村會は三級制度であるが、無稅選舉者のある所では是が第四級となる。さて有識人物とて、埃國々立大學の學位ある者、國及び州の官吏、並に宗教家は、其納稅額の如何に拘らず、第一級の中に選舉權を有する。斯くて町會議員十五名が選ばれる。被選舉權は三十歳以上、町會は十二名乃至二十名の議員から成立するが定めてあるが、議員の三分の一を互選して、町參事會を組織する、其中一人が更に町會議員の選舉に依て町長となる。

子供と所得税

一家に子供が二人以上あるときは、第三の子供から、子供一人に付其家主の所得二十分一を引去り、其殘額に所得税を課する、所得の中千二百黒までは無稅、但し子

町村

供の中自分の収入を有する者あるときは、子供の中には數へなす。

凡そ政治上、町の位置は、國の下に州あり、州の下に郡あり、郡の下に區が介つて、さて町村がある。國には政府あり、州には州總督府あり、郡には郡長役所即ち郡役所あり、區には區裁判所があるが、町村の町村役場は、司法上には區裁判所に續くけれども、行政上には直接郡役所の下に在る。埃國十二州、其一つに下埃州あり、其二十三郡の一つがヒイチング郡で、州の七十一區、郡の三區の一つ、州の千六百町村の一つとして此ノイレングバハ町が存するのである。自治體としては州の下に直に町村があり、自治體州の自治機關は、州會其執行機關に州參事會、州救貧院がある、州會議員は下埃州には百二十七人、其中十二人は大地主貴族から選ばれる。

自治體

さて追々に此町の設營機關を視察する。

貯金庫

貯金庫は貯金組合の私設で町立てはない、又特に此町に限つて營業せぬ、此町及び附近に一ヶ年約百萬黒の抵當貸付をする、其純益から種々の公益事業に出金する、例へば學校生徒に中食のスウプを給すること、町設發電所に寄附すること、火防に出金すること、降誕祭に貧民及び兒童に贈物をすること、一般貧民に贈物をす

